

9  
|  
1  
日記  
(明治二十九年一月～明治三〇年十二月)

目 録

記事.....	丁数	一
家族名生年月.....		一八
公債、株、券表.....		九一
三菱合資会社銀行部預ケ金勘定箇所.....		九二
同 上 貞方.....		九五
同 上 濱方.....		九八
同 上 鶴方.....		一〇〇
第二十七国立銀行当座預ケ金勘定.....		一〇一
国許所有地反別地価表.....		一八四
小作米金字別表.....		一八五
小作地名寄表.....	(抹消) 一八五	(加筆・墨書) 二〇二
小作米穀仕訳年表.....		一八六
売米仕訳表.....		一八七
国許不動産収入年表.....		一八九
租税納期表.....		一九〇
租税増減比較年表.....		一九一
国許諸掛り年表.....		一九二
同 収入比較年表.....		一九二
通信省為替貯金管理所預ケ金年表.....		一九三
所得税届用国許収支支訳(年)表.....		一九三
収入仕訳年表.....		一九五
支出同 前.....		一九五
所得税届年表附届書式.....		一九七
資産仕訳年表.....		一九九
三菱合資会社 銀行部 特別当座預ケ金半年表.....		二〇〇

明治二九丙申年

日月

一 那珂本宿南部伯二廻礼シ午後拜賀

二 霽晴シノ為メ子供連ノ旅行ヲ思ヒ立子笹、貞、濱、及ヒゑき、薫、啓磨ヲ伴ナヒ二番汽車ニテ新橋出發浜

松大米屋ニ泊リ翌朝七時半発車午後四時過京都麩屋町

通姉小路上ル俵屋ニ着翌午後十二時半過ノ汽車ニテ二

時過大阪今橋四丁目紫雲楼へ着

五 十時梅田出發神戸ニテ山陽鉄道ノ列車ニ乗替舞子駅

二下リ人力車ニテ舞子浜万亀楼ニ着午後四時ノ列車ニ

テ神戸迄来リ(抹消)(加筆)山手通横田末次郎方ニ立寄同人

夫婦及伯母ニ面会九時半過ノ汽車ニテ大阪旅宿ニ帰ル

翌朝大阪城趾見物女子連ハ午ヨリ高橋健三夫人ノ案内

ニテ聞楽座(文方)ニ行キ啓磨ト二人ニテ坂界鉄道ニ由リ住吉

へ詣人力車ニテ堺ニ至リ築地ノ茅海楼ニテ昼食三時半

過ノ列車ニテ帰阪晩食後千日前ノ俄ニ啓磨ヲ伴フ

七 午後一時梅田発京都へ戻(抹消)(加筆)十日マテ滞在

一一 朝八時半七条停車場ニテ関西鉄道ノ亀山駅迄ノ切符

ヲ買ヒ出發ス官設線ヨリハ関西線ノ方名古屋マテノ賃

金安キ故名古屋マテノ通シ切符ハ売ラヌヲ以テナリ出

(2)

發頃ヨリ雪降出シ草津ニテ関西鉄道ニ乗換一時間寒キ

停車場ニ待チタル後漸ク発車雪ニテ沿道ノ景色見ヘス

大失望列車付ノ役員ニ頼ミ切符ノ買継荷物合符ノ切換

ヲ為シ亀山ニテハ下車セス座ナカラ四日市ノ方へ向ケ

行進セリ此辺ヨリ雪霽レ有名ナル衣斐川(掛力)木曾川ノ長鉄

橋ヲ經テ午後二時半名古屋ニ着安東敏之信忠ノ妹出迎

居テ富沢町信忠ニ泊ル翌朝天主閣拜見十一時過名古屋

ヲ出發シ五時過静岡大東館ニ着

一三 朝八時半過静岡ヲ發シ午後三時半過新橋着此旅行中

見物セシ名所旧跡及費用ハ左ノ如シ

神戸(抹消) 41360

新聞紙 045

パン、饅頭、密柑 190

茶 025

舟(沼津) 700

茶 035

(朱筆) 42355

浜松大米屋(泊料) 3800

回 茶代、召使手当 5000

名古屋井当 700

茶 025

新聞代 040

パン 070

(朱筆) 9635

(明治29年(1896))

横田末次郎へ電報料	150	京都依屋へ電報〔(朱費)大阪城址〕	150
神戸舞子送(汽)車賃	900	大阪紫雲楼払	20445
〃 〃 人力車賃(往復)	810	〃 茶代	5000
〃 万亀楼昼食代	1750	〃 女中	1000
〃 〃 松露(菓子)糖	300	大阪京都間(汽)車賃	2700
〃 停車場前茶屋茶代	050	車夫へ手当	100
〃 神戸間(汽)車賃	900	京都三十三間堂見料, 寄附	240
神戸大坂間 〃 〃	2000	郵便切手	020
	〔(朱費)6860〕	大仏見料, 鐘撞代	080
難波住吉間 〃 〃	120		〔(朱費)29735〕
住吉妙国寺大浜間人力車代	200	百万遍見料	120
住吉躍持遊	015〔(朱費)150〕	銀閣寺 〃	650
難波屋松餅代	020	鳥本昼食(インクライン側)	2450
妙国寺蘇鉄見料	020	金地院見料	125
茅海楼昼食	850	南禅寺 〃	180
〃 女中手当	100	〔(知カ)智恩院	140
大浜貝細工花籠 四	250	清水焼持遊	360
堺難波間(汽)車賃	210	村岡範為馳へ土産菓子代	1000
大阪実測図	080		〔(朱費)5025〕
京都名所図絵	040	郵便瑞書〔(朱費)西陣織殿, 高島屋〕	010
千日前俄木戸銭	050	等持院見料	060
〃 布团代	040	人力車賃	080
〃 煎餅	010	車寺へ人力車賃	200
	〔(朱費・汽)2050〕	高島屋へ呉服代	30495

(3)

北野昼食 <small>(朱費)</small> 〔御所, 二条雜宮〕	2160	<small>(朱費)</small> 〔30845〕
金閣寺見料	600	
綴ノ錦織場見料	100	
妙心寺	300	
嵐山茶屋茶代, 車夫支度代	700	<small>(朱費)</small> 〔3860〕
俵屋払	31560	
〃 茶代, 女中手当	13000	
京都人力車賃	11060	
京都龜山間汽車賃	5600	
新聞紙	030	
草津パン菓子	140	
龜山名古屋間汽車賃	3550	
パン	140	
茶	030	
桑名時雨蛤	150	<small>(朱費)</small> 〔65260〕
信濃屋忠左衛門払	6455	
〃 茶代, 女中手当	4000	
安東敏之車夫手当	200	
名古屋東京間汽車賃	23500	
新聞紙	065	
浜松饅頭, 茶湯入	080	

(5) 九(マ)

静岡大東館払	5130	<small>(朱費・マ)</small> 〔34200〕
〃 茶代, 手当	4000	
パン, 茶	095	
新聞紙	020	
山北弁当, 茶	710	
パン	060	<small>(朱費)</small> 〔10015〕
		<small>(マ)</small> 239495 〔下録未載〕

去ル五日加賀野本宅ニ於テ大場振舞ト唱フル収納済ノ祝ヲ催フシテ小作人一同ヲ招キ例ニ依リ人先キニ納付ヲ済シタル者へ賞典ヲ為シタル次第ハ左ノ如シ

○五〇 助次郎 (朱点) ○四〇 大吉, 金太郎 (朱点)  
 ○三〇 政之助, 亀吉 (朱点) 〔特別〕〇一五 栄助 (朱点)  
 ○一〇 福太郎, 清蔵 (朱点)

栄助父子ハ (中略) 小作ヲ取揚ケ置キタル処昨年度ハ前々ヨリ滞納分ヲモ納メタルニ付キ特別賞ニ与カルカ如キ悔悟勉強ノ実蹟アルカ故ニ旧ノ如ク小作人ト為シタリ〔武平八日付〕

九州鉄道株式会社ノ〔新〕株(株)株式(株)〔株〕〇株ニ対シ〔株〕三〇〇〇〔宛〕ノ割ニテ六〇〇〇同社東京出張所へ払込タリ〔払込〕昨年十二月十四日ニ差出シタル証拠金二〇〇〇ト共二五〇〇〇払込ノコト、ナリ

〔新〕〔抹消〕〔加筆〕  
〔新〕〔仮株券〕新丙第六〇四号ヲ同社東京出張所ヨリ  
請取ル

三三 武平母死去ニ付キ香花料五〇〇贈ル

二六 去ル廿一日送リタル金五〇〇〇落手シタル由

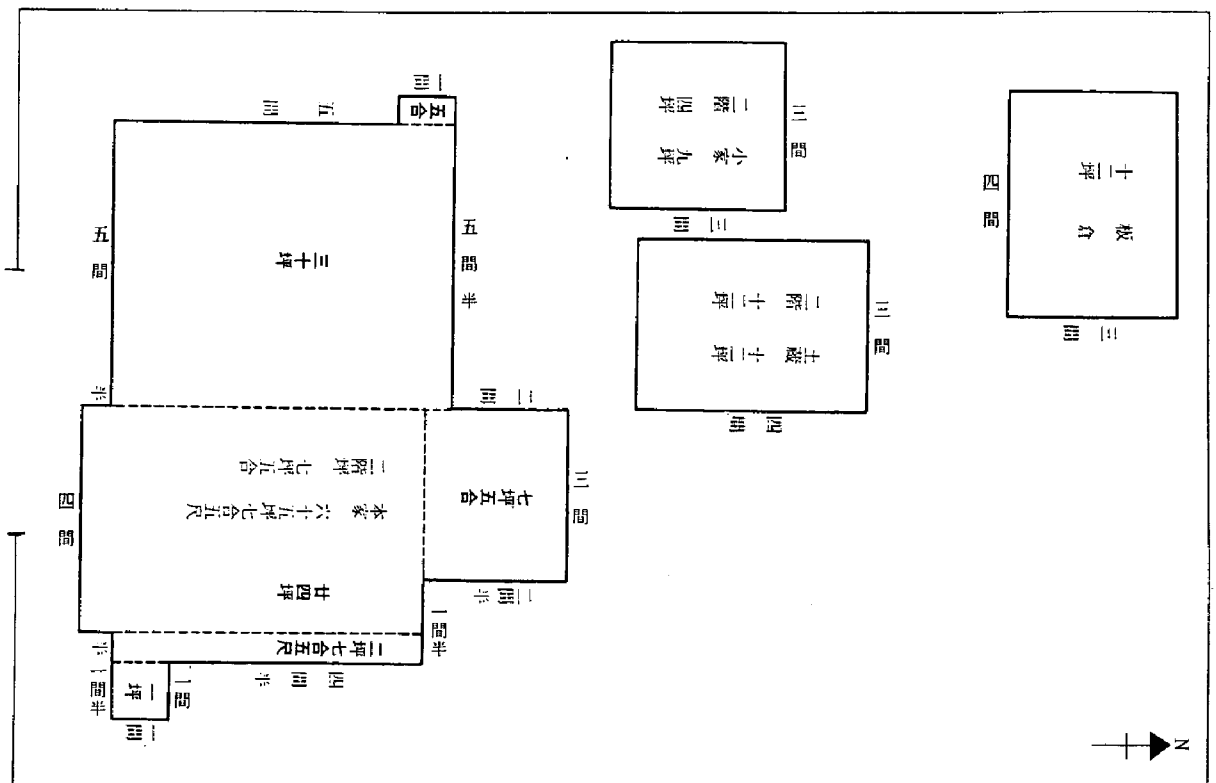
〔武平二五日付〕

三〇〔抹消〕〔加筆〕字松尾前畑地ヲ田ニ変換スルノ費用ハ凡ソ八五〇

〇ニテ成就スヘク開立ノ分ニ付キ畑ノ小作米ヲ減シ田  
ノ收穫ハ苻分トテ地主小作人半分ツ、取入ル、コトシ  
三四年後相当ノ小作米取立ノ約ニ現小作人仁助モ異存  
ナキ趣六ヶ年モ過ナハ五駄位ノ小作米取上リノ見込  
〔武平二九日付〕老母死去ニ付一〇〇〇借用ノ義申  
来リ承諾ス返金ハ当年内ノ積〔同前〕登録税法実施前  
所有不動産登記ノ義申遣ハシ置キタル処建物台帳見聞  
ノ委任状建物届出ノ分建物証明願ノ分盛岡市三通本宮  
村飯岡村各三通登記願委任状都合一〇通ノ委任状差送  
ルヘキ旨申来ル委任状ノ数不判明ナレト一〇通送ルコ  
ト、ス〔同前〕

三二

〔抹消〕  
昨年十二月十二日額面一〇〇〇〇ノ軍事公債九  
五五〇ニテ一〇〇〇引受クヘキ旨保証金  
二〇〇〇〇相添申込置キタル去ル十八日政府ノ  
売出価額九五〇〇ト申込価額ノ差一〇〇〇差出  
シ今日第二回ノ払込金二〇〇〇〇差入レタリ



〔古線〕ゴシック文字は朱書

二 日月

(6)

五 在神戸横田主次郎祖母チセ死去電報前夜到来取敢へ  
ス香花料トシテ金一〇〇〇贈ル阿チセ様ハ亡父〔君〕  
ノ姉君ニテ亡祖母〔君〕ノ第二女ナリ

三 日月

四 建物登記ニ付キ前々ヨリ届漏ノ分ハ此度夫々仕末合  
セノ為メ鶴子板倉ハ取毀加賀本宅〔八〕〔毛〕取毀新築ノ  
事二届出タル趣附属図左ノ如シ〔武平三日付〕

〔86頁下段の図参照〕

盛岡市大字加賀野二地割廿二番字久保由ニ在ル建物加  
賀野七十七番戸ノ内従来嶺某居住ノ部分此度士族志村  
儀助同居佐藤吉弥へ月一〇〇〇ニテ貸シ敷金三〇〇〇受  
取リタル由〔同前〕

二九

第七回帝国議會召集ノ際勳精ニ付銀盃壹組ヲ賜フ旨  
賞勳局總裁ヨリ伝達セラルル盃ハ中央ニ菊形ノ浮キタル  
三組ノ銀盃ナリ〔辞令第六六号〕

三〇

九州鉄道株〔二〇〕〔新二〇〕株ニ対シ〔第一回〕ノ払込  
金〔八〇〇〇〇〕払込ム

四 日月

(7)

三 静岡院友会支部ニ於テ春期總會相催スニ付キ招待セ  
ラレ幹事藤田隆三郎〔講師岡野敬次郎〕院友総代花井  
卓蔵石山弥平同伴ニテ奥津海水樓へ一泊ノ上翌朝舟ニ  
テ三保へ渡リ有名ナル桃花ヲ見物セリ盛りハ少シ過キ  
タルカ故ニ側ニテ觀ルヨリハ海上ヨリノ詠ノ方好カリ

四

シ松樹ノ間〔三〕紅ノ花雲〔如ク〕靨ケル様ハ藤沢平塚  
辺ノ景色ニ勝ルコト数等ナリ羽衣ノ松ヲモ見了リ舟ヲ  
江尻へ漕付ケサセ同駅ヨリ汽車ニテ静岡ニ着幹事奥田  
義人モ来リ会ス恰モ浅間神社ノ年祭ニテ花車躍家台夥  
多市中ヲ練リ廻リ社内ノ桜時ヲ得顔ニ咲匂ヒ人ノ心モ  
自ツカラ浮立好時節ナレハ近郷近在ヨリ参詣ノ人入込  
何処ノ旅人宿モ明間ナキ賑故支部会幹事河嶋臺蔵吉野  
信三等特ニ意ヲ用ヒ会場ナル料理店浮月樓ニ宿泊サス  
ルノ手配ヲ為シ置タリ午後ヨリ所長吉原吉政氏ヲ始メ  
静岡地方裁判所区裁判所連モ来リ写真杯シテ後宴席ニ  
就キ各隠シ芸ヲ露ハシ杯シテ頗フル盛会ナリシ翌朝ハ  
一同江尻ニ赴キ清水湾ニテ網引ヲ催フシ清水ノ或ル料  
理屋ニテ別杯ヲ酌シ午後ノ汽車ニテ帰京ス  
去月中申請シ置キタル所有地所建物ノ所有權登記ハ  
去ル八日結了シタル由尤登録税ノ關係ヨリ登記済証印  
ノ日付ハ三月三十一日トアリ登記番号ハ左ノ如シ

一一

地所ノ部

市 加賀野 <sup>(採消)</sup>	一七六号	市 志家	四五四号
村 新庄	二六五号	村 向中野	二六七号
村 向中野	二六八号	同 同	二六九号
同 下飯岡	二二〇号	同 同	二二一号
同 永井	三四八号	同 羽場	二三七号
同 津志田	一三九号	同 赤林	二九八号

建物ノ部

市 加賀野	一〇四号	村 向中野	二七号
村 下飯岡	二五号	同 羽場	三号

(8) 加賀野本宅実測図第五号ヨリ第八号ノ間二四間七分ノ柴垣傾キタルニ付キ每一間杭二本柴ヲ三把積ニシテ杭五〇本柴七五把相用新規結立シ古杭柴ヲ以テ第二号、四号、一九号、二〇号及ヒ七七番戸構垣ヲ繕タキ旨申来リ承諾ノ旨返答ス<sup>(朱書)</sup>〔武平一一日、登記済証〕(64)〕

二三

仙台ニ赴キ例ノ通停車場前陸奥ホテルニ泊リタル処第二師団兵凱旋最中ニテ楽隊二組歓迎委員見物人宿屋ノ前ニ充滿シ昼夜ヲ問ハス<sup>(マ)</sup>汽車到着毎ニ喇叭太鼓ノ音万歳ノ声凄シク勇マシキ限りニハアレト旅人ニハ些ト迷惑ナルカ故ニ翌日ハ終列車ニテ湊芳蔵、昆田文次郎等ト福島ニ赴キ松葉館本店ニ泊ル同店ハ料理屋支店ハ旅人宿ナレハ旅人ハ支店ニ行クヘキナレト本店ノ方座敷向奇麗ナルカ故ニ大抵頼ミテ本店ニ宿ルナリ此日ハ何ヤラノ懇親会トヤラニテ好キ座敷塞カリ居ルノミナ

二五<sup>(採消)</sup>

ラス大勢ノ客ニテ樓上樓下絃歌ノ声喧シケレハ此度ノ旅行ハ兎角音声ニ責立ラル、トテ小言云ヒ乍ラ臥シケリ翌朝同郷人久慈千治昨夜九時頃来宿セリトテ尋ネラル

九州鉄道株式会社ヨリ年一割合ヲ以テ利益ノ配益ヲ請取ル但旧株ニ対シテハ一株<sup>(朱点)</sup>二〇五ニテ二<sup>(朱点)</sup>〇〇新株ニハ一株<sup>(朱点)</sup>〇四ニテ一<sup>(朱点)</sup>〇四合計四二<sup>(朱点)</sup>〇四ナリ

日 月

五

加賀野本宅内ノ板倉家根破損ニ付キ四分板柱ニテ葺直シ概算費二九五〇ニテ仕上ル見込ノ趣

松尾前畑返ハ四月一日着手雨天続ニテ手間取漸ク五〇坪余開立相成残り畑地三七〇坪ニ対シ今年ノ小作米<sup>(採消)</sup>ヲ三年トシ開墾田ハ收穫米ヲ折半スル約束<sup>(朱点)</sup>〔二テ〕<sup>(加筆)</sup>仮小作証小作人中野仁助ヨリ請取リタル由

〔武平一〇日付〕

日 月

六

三固商会ノ周旋ニテ新着町一番地煉瓦家屋ヲ代金<sup>(朱点)</sup>四〇〇〇〇<sup>(朱点)</sup>ニテ久能木宇兵衛ハ売渡シ登記ヲ了リタリ元来此家屋ハ外觀甚タ美ナルニ引換構造堅牢ナラス既ニ昨年ノ震災ヲ受ケタル位ナレハ新築裁判所ノ近傍ナル内幸町ニ事務所ヲ新築シ竣工ノ頃合ヲ見計ヒ此



(9)

煉瓦家ヲ売却フ積ナリシニ新築絵<sup>(加筆)</sup>面ノ調製モ出来  
 サル前ニ買人現ハレ此方ノ計画大ニ齟齬シタレ<sup>(加筆)</sup>致方  
 ナク扱移転先ヲ探シタルニ此節ハ極メテ借家不足ニテ  
 然ルヘキ処ナク終ニ八重洲町一丁目一番三菱合資会社  
 ノ建物一区ヲ借受ケ今日移転ス此建家ニハ煮焼所及女  
 子ノ住居部屋ナキカ故ニ<sup>(朱点)</sup>ゑき親子及ヒ書生等ノ為メニ  
 有楽町三丁目一番地内ノ一家屋ヲ借受ケ是亦今日転居  
 サセタリ八重洲町ノ家賃ハ一ヶ月五<sup>(朱点)</sup>五<sup>(朱点)</sup>二<sup>(朱点)</sup>外ニ下肥  
 汲取費二〇〇有楽町ハ八<sup>(朱点)</sup>〇〇ナリ猶又内幸町ニテ六  
 〇坪ノ地所ヲ今日ヨリ借受ケ其地代一〇〇〇ナレハ  
 詰り毎月七<sup>(朱点)</sup>三<sup>(朱点)</sup>〇〇余ノ家賃地代ヲ払フコトニテ些  
 ト馬鹿ケタル訳ナリ

仕付米トシテ小作人共ヘ左ノ通貨付ル旨申来ル

<sup>(朱書)</sup>〔武平五ノ二三日付ヘ書落〕

一 蔵米片馬 藤村助次郎 実ハ佐<sup>(朱点)</sup>藤<sup>(加筆)</sup>〔々々〕福

太郎ニ貸渡スノ由

一同一駄 浅沼大吉

一同一駄片馬 佐藤巳之松 昨冬不幸以来病人等

有之入費多ニ付

一同一駄 猿館政之助

一同片馬 佐々木福太郎

一同一駄 猿館亀吉

一同片馬 福嶋清蔵

一同片馬 福嶋栄助

合計六駄片馬

二<sup>(朱点)</sup>三<sup>(朱点)</sup> 加賀野本宅表門下ノ石垣崩レ出シタルニ付キ角花崗

石二坪代八<sup>(朱点)</sup>六〇人夫十二人分賃金三〇〇ニテ修繕シ

了リタル由<sup>(朱書)</sup>〔武平一日付〕

三<sup>(朱点)</sup>三<sup>(朱点)</sup> 穂積銀子井上圓了夫人西川鉄次郎夫人ノ世話ニテ元

愛知県現今東京府士族海軍大藥劑官水野加以智ノ妹峰

子<sup>(加筆)</sup>安政六未年四月七日生ト結婚ス媒酌ハ西川夫婦ナ

リ峰子ハ亡猪智ヨリ一个年前ニ女子師範学校ヲ卒業シ

西川夫人古市公威<sup>(感)</sup>妹ト同級ナル由兄加以智ハ呉鎮守府

在勤ニ付キ其姉智ナル田中榮秀氏之二代リ<sup>(加筆)</sup>加以智<sup>(加筆)</sup>母

ト共ニ来ル其他来客ハ西川夫婦穂積銀子那珂通世柏井

登真鍋波子本宿数代子ナリ

四

二時半上野停車場出口憲坂本時之助漆山大愚同伴

仙台ニ赴キ暁二時半過彼地陸奥ホテルニ着<sup>(朱点)</sup>越<sup>(朱点)</sup>へテ咽

ニ白キ糢出来タル由ニテ宮本仲ニ焼キ貰居タレ<sup>(朱点)</sup>猶仙

台表ニテ柏村貞一ノ診察ヲ受ケ県立宮城病院ニテ咽ヲ

焼キ含嗽劑ヲ請受ケ

朝楨村俊平原嘉道昆田文次郎<sup>(朱点)</sup>同車<sup>(加筆)</sup>山口憲<sup>(加筆)</sup>等ト同

列車ニテ仙台ヲ発ス尤モ書類閱讀ノ要アリシ故態ト彼

等ト車室ヲ異ニシ上等室ニ乗リ込タル処同郷人ニシテ

台湾ヨリ凱旋セル第二師団付陸軍<sup>(朱点)</sup>兵<sup>(加筆)</sup>兵少佐三浦

自孝及氏名不詳ナレ<sup>(朱点)</sup>顔見識レル人ト同乗ト為リタリ

殊ニ三浦氏ハ金州地方ヨリ威海衛、同所ヨリ又転シテ  
 台湾ニ入り兵站司令部長ヲ勤メシ人ニシテ久シ振ノ出

七

会ナレハ出征中ノ話柄多ク言フテ尽キス聞テ〔口〕厭カス終ニ郡山駅マテ来レ〔ル〕〔リ〕岩城ノ平町ヘ赴ク途中ナレハ同駅ニテ下車シ暫ク停車場前ノ茶屋ニ憩ヘタル上同所ヨリ発スル鉄道馬車ニ乗込ミ凡ソ一時間余ニテ三春町馬車鉄道ノ終点ニ達ス此所ヨリ人力車ヲ僱ヒ旅人宿河北ニ着午後二時頃ニテモアリシナラン馬車ノ賃錢ハ〇〔朱点〕五ト覺フ人力車ヨリハ樂ニテヨシ尤モ郡山ヨリ三春ニ向フハ廻リ道ト為リ字何下〔枝下〕〔カ〕トカ云フ方ヲ人力車ニテ通〔リ〕レハ新町ヘ二里計リ近キ由河北ノ良キ部屋塞カレリトテ表ニ階ニ入レラレタルニ覺悟ノ前ナレハ直チニ書類ノ取調ヲ始メタルニ晩食頃土蔵脇ノ部屋ニ移サレタリ此室ハ薄暗ケレト前ノ分ヨリ奇麗ナリ翌朝ハ未明ニ出立ツコト、シ予メ一里一人〇〔朱点〕〇ノ賃金ニテ一人曳ノ車ヲ僱タリ

朝五時頃ヨリ起テ支度ヲ調ヒ人力車ノ用意モ整タルニ宿払ノ勘定書ハ持テ行タ切り差出サス頻リニ手ヲ拍テ促シタルニ稍〔朱点〕二〇分モ経テ茶代ノ札ニ逆絹織ノ手巾ヲ呉レタリ何時〔朱点〕ノ積ニテ何心ナク一〇茶代遣ハシタル所此辺ニテ右ノ如キ多額ノ茶料ヲ置ク人ナク隨テ宿屋ニモ之ニ答札スル準備ナキカ故ニ吾心附ヲ貰フテ後何町カ先キノ呉服屋ニ使ヲ遣リ彼手巾地ヲ買求メシタルニ因リ勘定手間取リタルモノト察セラル錢ヲ多ク遣テ却テ出立ノ時刻遅延シタルハ大笑ナリ漸

(11)

ク曳出シタル人力車〔ハ〕〔朱点〕緩クリシタルハ更ニ一人曳ト異ナルコトナシ坂モアリタレト七里先ノ新町ニ着キタルハ十一時過ナリシ途中幾タヒカ叱咤セントハシタレト元来身弱ノ者ト思シケレハ叱リテモ詮ナカルヘシト観念シ新町旅人宿西田屋ニ憩〔ヒ〕〔朱点〕テ人力車ノ世話ヲ頼ミタルニ此節ハ養蚕期ニテ平常サヘ車夫〔不足〕ナルニ搗テ加ヘテ第二師団ノ帰休兵士十人計リ乗車シタルニ付キ今ハ一輛ノ車一人ノ曳子モナシト云フ三春ノ車夫等ニ統行ヲ勸ムレト同シク養蚕期節ニテ忙ハシトテ応セス致方ナケレハ平野新田目善次郎ヘ迎ヘノ車ヲ出シ呉ヘキ旨ノ電報ヲ發シ荷物ヲ為持セテ步行セントシ手提カバンヲ持ヘキ人足ノ備方ヲ頼ミタルニ夫サヘ見当ラスト云フ情ナキ限ナレトカバンヲ荷ヘテ歩行スルマテ奮発ハ出来ス寧口平町ノ人力車カ来ルマテ昼寝ニテモセント覺悟セル途端三春町ヨリ来リシ一人ノ車夫カ如何ニモ氣ノ毒ニ思ヘシト見ヘ次ノ駅ナル川前マテ參ルヘシト云フヤレ嬉シヤ先刻来能クソ途中ニテ叱ラサリシト思タリ二人曳ニテサヘ氣ニ障ル程遅カリシ〔車カ〕一人曳ト為リテハ其速度想遣ルヘシ段々腹カ減ル暑ク〔ハ〕ナル去速小言ヲ云ハレス余儀ナク車上ニ居眠ヲ始メタリ二里トヤラノ路ヲ二時間程掛リテ漸ク川前ニ着キ松前屋五郎兵衛方ニテ午後二時頃昼食ニ有付キタリ此所ニハ大方人力車アルヘク若シ無ケレハ荷馬車ニ乗り行クヘシトハ三春車夫ノ注意ナリシ

カ生憎川前ニモ人力車アレト曳者ナシト云フ此迄ノ人力車ニ比スレハ<sup>(加筆)</sup>速度ニ格別ノ差ハアルマシケレト荷馬車ニ乗ルモ氣力利カス矢張鞆ヲ持セテ歩ム方可ナリ其中平町ヨリノ車モ来ルヘシト決心シ人夫傭方ヲ五郎兵衛ニ頼ミタル処五郎兵衛<sup>(採消)</sup>〔八〕<sup>(加筆)</sup>新町以来ノ始末ヲ車夫ヨリ聞取リタルモノト覺シク忽チ名ニ恥チサル俠氣ヲ出シ今此先マテ出サントスル使ノ者ニ車ヲ曳カセ平ノ迎車ニ出逢フ所マテ送り呉ル、ト云フ又モ幸ニシテ車ニ乗り稍一里余モ来レルカト思フ所ニテ平町ノ二人曳車ニ会ヒ「エタ」トヤラ云フ休憩所ニハ新田目モ出迎居リ打連レテ四時過平町旅人宿住吉屋ノ三階ニ着座セリ三春ヨリ此所マテハ一九里アリト云フ三春、新町間ハ登坂多ク新町、川前間ハ平坦川前、平野間ハ下り坂ノミニテ右方ニ川<sup>(採消)</sup>〔流〕<sup>(加筆)</sup>〔アリ〕或ハ瀧ト為リ或ハ奔湍ト為リ或ハ深淵ト為リ岸上ノ山ニハ草木鬱葱トシテ風光頗フル觀ルヘシ紅葉時分ハ景色最モ佳ナリト新田目ハ云ヘリ此辺ノ<sup>(採消)</sup>〔山〕多クハ軟弱ナル花崗石ノ如キ石山ナルニ樹木ハ到處ニ繁茂シ殖林ニ意ヲ用居ルモノ、如クニ見ユ三春ト云ヘハ人ハ直チニ馬ヲ聯想ス成程荷馬モ田用馬モ見ツボラ敷モノナシ但沼道多ク馬群ヲ見ルナラントノ想像ハ外レタリ各家馬ヲ飼養スル風習ニテ牧場ハ何トヤラ云フ処ニ一个所アリト車夫ハ告ケタリ扱住吉屋ノ三階ハ眺望ハアレト台所ヤ二階便所ノ臭騰リ来リテ余リ快クハ覺ヘス

(12)

八

急キ返レトノ電報ハ東京ヨリ来ル此地ノ用向モ到底今日中ニ濟ヌ故午後一時頃微雨ヲ冒シ二人曳ニテ都町ヲ出發シ日没頃新町西田屋ニ投宿ス三春ヤ平ノ宿ヨリ劣ルカ如シ尤モ昔カラノ旅人宿ナラス由翌朝ハ五時頃ヨリ二人曳ニテ出掛ケ下枝トカ枝下トカニ途ヲ採リタルニ嶮坂ト称スヘキ程ノモノナケレト新タニ石片ヲ敷キタルカ為メ恰モ川原ニ車ヲ押スカ如ク車夫ノ困難一方ナラサリシカトモ九里先キノ郡山駅ニ着キタルハ十時前ナリシ退屈ナレハ<sup>(採消)</sup>〔御料局〕<sup>(加筆)</sup>〔宮内省〕ヘ差出スヘキ意見書ヲ起按シテ午餐ヲ為シ正午頃上リ列車ニ乗り込ミ七時半過上野ニ着ク

一三

再ヒ平ヘ赴クコト、ナリニ時半上野發ノ夜行列車ニ乗り夜半近クニ郡山町旅人宿菊屋ニ着翌日ハ聊モ人力車ニ故障ナク新町西田屋ニテ早昼食ヲシタ、メ五時頃平町住吉屋ノ例ノ三階ニ着キタリ平町ヨリ一里許西ニ湯本トテ温泉場アリ其所ニ誘ハンカト新田目カ云出シタレト此時刻ヨリ出掛ケテモ然ルヘキ部屋ノ有無モ定カナラス且彼ニ余計ナ世話ヲ焼カスルモ氣ノ毒ニ思ヒ断ハリタリ後ニ聞ケハ既ニ先方ヘ掛合置キタル趣ナリシ惜キコトシタリ翌十五日用済後湯本ニ至リ新瀧トヤラ云フ家ニ泊ル新築ノ二階奇麗ニシテ居心好ク益マス昨夜爰ニ来ラサリシコトヲ惜シミタリ然シ食物ハ不由ナリシ温泉ハ硫黄氣アリテ中々熱シ新田目、新井善次郎、及何某トヤラ云フ院友ト酒酌カハシ快ク眠レリ

一六

早曉平町ヨリ車夫等人力車ヲ曳テ到ル起テ湯ニ飛込タル丈ニテ飯モ食ハス直チニ出發シタルハ丁度四時頃ナリシニ<sup>(ママ)</sup>四厘行テ午後四時四十分水戸發ノ終列車ニ乘リ今日中ニ東京ニ帰ラントノ心組ナリ沿道重モナル宿駅及ヒ各駅間ノ距離ハ左ノ如シ

湯本四里植田二里平潟五里高萩二里河尻二里助川三

里大<sup>(抹消)</sup><sup>(加筆)</sup>六里水戸此街道ハ浜街道若クハ水戸街

道ト唱ヘラル、モノニテ概ネ平坦<sup>(抹消)</sup><sup>(ナリ)</sup><sup>(加筆)</sup>近頃日

本鉄道株式会社カ此方角ニ鉄道ヲ數クニ付キ工用ノ

車馬往復繁キカ為メ道路悪クナリタル由ナレト中々郡

山道ノ比ニアラス平潟近クニ勿来関ノ旧蹟アレト見ル

ニ違アラス平潟阿波屋專助方ニ着タルハ六時半ナリシ

爰ニテ朝飯ヲ食ハントテ二階ニ至レハ各室ニ夜具布団

充満シ取片付最中ナリ見掛ニ似合ハヌ繁昌ノ家ナリト

思ヒ其趣語りタル処客カ泊リタルニ非ス昨夜津浪来リ

タル<sup>(加筆)</sup>災ヲ避ケントテ持出シタル夜具類ヲ今シモ

土蔵ヘ積入中ナルコト分リタリ後ニ思合スレハ三陸津

浪ノ余波ト知ラレタリ爰ニテ平ノ車帰リ新手ノ車ニテ

高萩ニ至レハ平潟ノ綱曳車夫ハ津浪ノ為メ昨夜一睡モ

セ<sup>(抹消)</sup><sup>(加筆)</sup>「スト」テ辞シ去リタリ高萩ノ綱曳ハ一寸河尻

辺マテノ積ニテ出タル様子ナリシカ宿駅到ル処ニ交替

人ヲ探セトモ綱ナラ否ヤタトテ応スル者更ニ無<sup>(抹消)</sup><sup>(シ)</sup>

<sup>(加筆)</sup>終ニ水戸迄来リタリ水戸カ見ヘル頃ニハ車夫二人

共疲労シテ殆ント走ルコト能ハス時計ヲ見レハ發車時

(13)

二三

刻逼リ居ルカ故ニ車夫モ氣ヲ揉ミタルナランカ乗客ノ心配モ甚タ大ナリシ四五分ノ加減ニテ遂ニ目的ノ列車ニ乗リタル時ノ嬉シサ云フ計リナク送り来リタル車夫へノ褒美ハ隨テ例外ニ多カリシト覺フ水戸東京間ノ<sup>(ママ)</sup>汽車賃ハ上等ニ<sup>(朱点)</sup>五五ナリ

旧南部藩内ノ罹災(津浪)民慰問ノ為メ南部伯ハ盛

岡マテ下ラル、トテ二時半ノ列車ニ乗ラル隨行者ハ奈

良真志江刺某代議士阿部浩佐藤昌蔵モアリ山田喜之助

ト共ニ水戸ニ至ラントテ同列車ニ乗り小山マテ伯等ノ

一行ヲ見送リタリ小山<sup>(抹消)</sup><sup>(加筆)</sup>ト下部喜太郎モ来リ

会シ山田ト三人ニテ水戸ニ着タル処迎ノ人停車場ニ居

リテ花井卓蔵石山弥平ノ宿所ニ来ルヘキ旨ヲ告ク誘ハ

レテ湖畔ノ紀ノ国屋トカ云ヘル料理店兼旅人宿ニ至レ

ハ室モ待遇モ甚タ蠱末ナリ殊ニ此節湖水ノ側ニ居ルハ

瘴杯ヲ患易キカ故ニ固辞シテ旅人宿鈴木屋ニ泊リタリ

然ルニ掛リ部長ハ父ノ喪ニ丁リタリ迎俄ニ延期ト為リ

タレハ翌朝監獄ニ至テ被告人鈴木濟美ニ面会シ歸路大

竹長壽方ニ立寄り久振ニテ妹スミ始メ其他ノ家族ニ面

会シタルニ長男太郎ハ過般学校生徒ノ行軍演習中隣レ

ル人誤テ発砲セシ為メ下腹部ヲ傷ケラレ今尚ホ臥床中

ナリシ水戸線ニモ奥州線ニモ<sup>(ママ)</sup><sup>(弁カ)</sup>六ナ便当ナシトテ拵呉タ

ル便当ヲ携ヘ一〇時半過<sup>(加筆)</sup>水戸發ノ<sup>(ママ)</sup>汽車ニテ帰京ス

日 月

七

一 妻峰送籍アリタルニ付キ結婚届差出タル由

(朱書) (武平四日付)

五

昨年度収納米穀総量ハ二一三駄ニシテ其内糯(中)俵

蕎麦二俵ハ歳暮ニ給与シ六駄ハ仕付米ニ貸出シ残り二

〇五片馬現在ノ処一昨三日一駄六〇〇宛ニテ五〇駄

糯米一駄六二〇(二テ)合計三〇六三〇ニテ五一駄売

払其内二六三〇予備金ニ取置キ残額一八〇〇〇例ノ

通り安田銀行送金手形ニテ送り来ル(武平四日付)

六

牛込区市ケ谷砂土原町一丁目式番地三号ハ片山恭平

持屋敷ニテ西川鉄次郎借受住居スル所ナルカ西川ノ周

旋ニテ福岡県福岡ニ在勤中ノ持主へ談判ノ上遂ニ譲受

クルコト、ナリ先月(二)二日手付金トシテ五〇

〇〇〇福岡表へ送金シ置キ今日残金ト証文引換登記

モ済セタリ先方ハ息子文学士片山貞次郎此方ハ吉川義

質代理人ト為リテ万端ノ手続ヲ履ミ(午後)タリ尤モ昨

日午後貞次郎(乃)隣地主宍戸(城)片山ノ差配人及

崖下地主ノ差配人立会ノ上境界ヲ改メタル宍戸トノ堺

ハ垣根外ニ(在)並列スル松樹カ界崖下ハ(木林打込)

崖下ノ平地ニ打込ミアル木杭カ界ナリ片山ヨリ受取り

タル売渡証文ハ左ノ如シ

印紙一円 地所建物売渡証

一金壹万千五百円也

牛込区市ケ谷砂土原町一丁目式番地三号地

(15)

一市街宅地千三百三拾三坪九合

外二崖地百四拾一坪四合八勺

但シ樹木石共都テ有形ノ俵付

一 号

一木造瓦葺平家一棟六拾二坪五合

二 号

一 同 拾六坪二合五勺

三 号

一 同 拾六坪二合五勺

四 号

一 同 式拾貳坪五合

五 号

一 同 式拾貳坪五合

六 号

一木造瓦葺平家壹棟式拾貳坪五合

七 号

一木造柿葺平家壹棟三坪

右壹号ヨリ六号迄ノ建物造作畳建具付第七号ノ

建物ハ造作ナシ

右拙者所有ノ地所建物前書ノ(通)代金ヲ以テ売渡申処

実正也然ル上ハ他ニ故障無之候万一故障等申者有之候

ハ、拙者引受貴殿(方)へ(聊)御迷惑相懸申間敷候為後

日地所建物売渡証如件

福岡県筑紫郡住吉村大字春吉五百四拾八番地

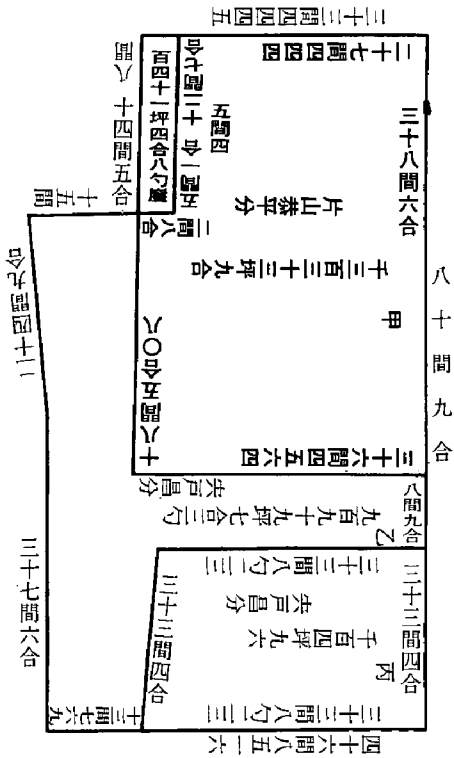
明治廿九年七月六日 売渡人 片山恭平

菊池武夫殿

麴町区裁判所登記番号ハ左ノ如シ

地第四号 建第四号 建第七号

明治一八年一〇月二〇日片山氏カ神田区今川小路三丁目七番地田中九右衛門代理本郷区菊坂町一八番地高瀬英祐ヨリ買受ケタル代価ハ一三三〇〇二五三トアリ尤モ皿地ナリ現地坪ハ純平地一二五四坪三七五地堺崖地一〇〇〇二坪六二二西側崖地一四一坪四八ナル由ニテ地券面ニ比スレハ二二坪四四超過スルナリ一八年ノ売渡証ニハ左ノ如キ地図付屬シアリ



(ゴチック文字は朱書)

(16)

第二号乃至第六号ハ貸家ニテ一ヶ月二五四〇ノ家賃取揚ルナリ

取揚ルナリ

一一 板蔵へ騒音入タル大乱儀一三駄片馬程アリタレハ善悪平均一駄六〇〇ニテ一五〇駄片馬売払ヒ其代金九〇三〇〇送り来ル

一三 染井共同墓地事務所へ瑤樹院墓所掃除料一年分一四四支払タリ

一七 残米三駄ハ鼠糞交リ故一駄四四四ニテ一三三二二

一八 積ラセタル処凡ソ二〇〇〇ニテ出来上ル由ニ付キ葺替申送クル

二〇 付午後三時ヨリ大雨降り出シ盛岡市夕顔瀬橋開運橋モ落タル程ノ大洪水ニテ本宮村一六地割二七番地ノ一字鶴子田ノ内凡ソ三畝歩程ハ二丈余水堀レ大淵ト為リ同番ノ二田二反三畝二六歩ノ内一反八畝程ハ砂利押上リ石川原ト為リ水堀ノ分ハ再ヒ耕地ト為ル間敷村役場ニテ両方共五ヶ年期ノ荒地ニ取調タル由被害地主等ハ日本鉄道株式会社へ賠償情願ヲ為ス由

表座敷、次ノ間、裏座敷及ヒ二階座敷壁塗直シ、三六〇位表座敷、二階座敷畳換備後表二〇畳(上等一〇畳ニ付四六〇)縁指賃(其他返表用ル)

分)〔其〕共一七〇〇位ニテ出来ノ由

〔武平四日付、二二日付、〇〕二七日付)〔

土蔵及ヒ小屋ノ屋根破損ニ付キ土蔵ハ従来ノ葺葺ヲ瓦葺ニ小屋ハ藁葺ヲ杉皮葺ニ改メ度申来リ承諾ス

〔武平二二日付〇〕二七日付)〔

二七 湯殿取扱、敷板取換費ハ凡ソ六六〇ノ由又本年度真木一―二間八分七厘ノ山出錢二二五七〔錢〕一昨々々

二四日收入アリタル由)〔武平(四日付)二七日付)〔

二八 妻ノ兄ナル海軍大藥劑官水野加以智ハ在勤所安芸吳

軍港ヨリ出京シ兼テ延シ置キタル里開ノ宴ヲ催フスニ付キ夫婦、母、笹ヨリ操迄麻布飯倉片町ナル水野邸ニ赴キ夜ニ入テ帰宅尤モ貞ハ發熱頭痛ヲ覺フルニ付キ母ト共ニ日暮前辞シ帰レリ

日 月

八

七 花井卓蔵ハ衆議院議員ト為ルノ下心アリ其準備トシ

テ選挙区備後尾道近傍巡回ノ為メ帰省スルニ付キ入用

ノ趣ニテ二五〇〇〇貸シ遣ハス二〇〇〇宛ノ月賦ニ

テ利ハ七朱ノ約ナリ証文ハ吉川ノ方ヘ取置ク)〔

一一 地方税二〇〇〇其他予備金ニ充テ相当ノ金額送り

越スヘキ旨申シ来ル)〔武平一〇日付)〔

一五 西川鉄次郎漸ク移転シタルニ付キ今明兩日ニ砂土原

町邸ヘ引移ルコト、為シ竹早町ノ方ハ昨今来会ハセタ

二四

ル)〔榊原周次郎)、大竹長壽、柏井登等カ監督シ砂土原

町ノ方ハ二三日前陸前古川町ヨリ沼津町ヘ帰省ノ途次

夫婦次男同道ニテ立寄居タル榊原周次郎、妻ノ弟「画

ノ叔父様」於多き、於みね等品川以下ヲ相手ニシテ働

キタルカ故ニ午後二時過キニハ家具ノ運送取片付一通

リ相済案外早ク安堵シタリ家屋ノ砂洗其他ノ掃除障子

ノ張替ハ左官竹原勘七請負ヒ植木屋父子モ荷車ヲ以テ

手伝ニ来リ其他川島屋、竹原モ荷車ヲ出セリ

兼テ武治ヨリ仙台表ニテ頼ミアリ其後横浜幾慶ヨリ

頼ミ越シ終ニ此度武平ヨリ歎願シ来レル武治負債償却

金借用ノ儀止ムヲ得サルニ付キ或ル条件ヲ付シテ承諾

スルコト、セリ)〔武平二三日付)〔

鶴子一八地割三三字畑返ノ畑四反九畝一歩水冠ノ患ア

ル場所故寧口田ニ交換スル方然ルヘク先ツ二反開立ル

トシテ二〇〇〇ノ費用ヲ要スル趣故承知シタリ

〔同前)〔

同所一六地割ノ二七ノ一水堀ニ七歩此損害一〇八〇

收穫弁償料一九四四同地割二七ノ二石砂入田一反二

七歩此損害六五二〇收穫弁償料三三五四四ノ賠償ヲ

日本鉄道株式会社ヘ願出タル由)〔同前)〔

土蔵家根瓦葺ニ改ムル積ノ処監獄製ノ瓦ハ来年ナラテ

ハ出来ス夫迄ノ柿葺修繕ニ枉五千枚種木、足木等ノ代

大凡二四〇〇余掛ル由ニ付キ矢張此迄通り柿葺ニ致

スヘキ旨返答ス)〔同前)〔

二〇<sup>(朱書)</sup>

(18)

牛込区役所へ左ノ届書ヲ差出シタリ

寄留替届

牛込区市ヶ谷砂土原町一丁目二番地寄留

岩手県陸中盛岡市加賀野八十六番戸士族

故長閑長男 從四位 菊池 武夫

安政元<sup>(抹消)</sup>年<sup>(加筆)</sup>甲寅<sup>(抹消)</sup>年<sup>(加筆)</sup>七月<sup>(抹消)</sup>九月<sup>(朱書)</sup>

二十八日生

長男 菊池 香一郎

明治二十二<sup>(抹消)</sup>年<sup>(加筆)</sup>己丑<sup>(抹消)</sup>年四月七日生

妻 同 み祢

安政六<sup>(抹消)</sup>年<sup>(加筆)</sup>未年四月七日生

故長閑妻女 多よ

天保八<sup>(抹消)</sup>年<sup>(加筆)</sup>酉年八月二十五日生

長女 笹

明治十五<sup>(抹消)</sup>年<sup>(加筆)</sup>壬午年十月二十九日生

二女 貞<sup>(テ)</sup>

同 十七<sup>(抹消)</sup>年<sup>(加筆)</sup>甲申年三月二十六日生

三女 濱

同 十九<sup>(抹消)</sup>年<sup>(加筆)</sup>丙戌年二月二十六日生

四女 操

同 二十三<sup>(抹消)</sup>年<sup>(加筆)</sup>庚寅年七月十日生

五女 鶴

同 二十八<sup>(抹消)</sup>年<sup>(加筆)</sup>乙未年一月一日生

(19)

右ハ<sup>(加筆)</sup>小石川区竹早町七十七番地ニ寄留致居候処  
今般前肩書ノ場所へ寄留替致候条此段及御届候也

年月日 右地主 菊池 武夫<sup>(ママ)</sup>

牛込区长 佐伯 惟馨殿

有楽町三<sup>(抹消)</sup>丁目<sup>(ママ)</sup>三<sup>(抹消)</sup>番地ニ別居スル家族ハ

妹 菊池 恵機

安政二<sup>(抹消)</sup>年<sup>(加筆)</sup>乙卯年九月一日生

姪恵機長女 薫

明治十二<sup>(抹消)</sup>年<sup>(加筆)</sup>己卯年十一月二十八日生

甥同 長男 啓磨

同 十五<sup>(抹消)</sup>年<sup>(加筆)</sup>壬午年十一月九日生

日 月

九

二 本宅土蔵家根柢葺ノコトニ申シ遣ハシ置タル処其見

積費用凡ソ三六〇〇掛リ瓦葺ニスルモ当分ノ修繕料<sup>(朱点)</sup>

五五五明年瓦代一坪<sup>(朱点)</sup>一五ツ、ニテ二四坪分<sup>(朱点)</sup>

二八八三〇〇〇下拵用木材手間ニテ二七〇〇余<sup>(朱点)</sup>

合計六二八八ヨリ掛リ多分ノ違ナキニ付瓦葺ニシタ<sup>(朱点)</sup>

キ処又候申シ来リ<sup>(抹消)</sup>氣ノ毒ニテ許容ス未曾有ノ強震ア

リ扣家ノ土蔵南側田甫向一間半上ハ家根持破壊セルヨ

シ<sup>(朱書)</sup>武平一日付<sup>(抹消)</sup>柴内豪吉持参<sup>(朱点)</sup>

九 扣家ノ土蔵売払ノコト申遣ハシタル処四〇〇計ニ

テ修繕出来ノ見積ニ付キ修復ノ上売却然ルヘク当方ヨ



リ<sup>(抹消)</sup>送りタル地租市村税金及ヒ武治ヘノ貸金正二落手ノ旨申来ル<sup>(朱書)</sup>〔武平八日付〕

山本縁ヨリ扣家ノ現借家人中野、志村、佐藤ヲ追出し

一棟貸呉ルヘキ旨申込アリ惣置四〇枚ノ表替代一

五〇〇位勝手、湯殿、井戸側修繕費一〇〇〇程相掛

ルヘク売家ト極メタル以上ハ此手入々費ハ無益ナレハ

断ハルヘキヤ将タ一切無修繕ニテ借受クルト云ハ、貸

付ヘキヤヲ尋ネ越シタルニ付キ売家ナレハ貸サレヌ旨

答フヘシト申シ遣シタリ<sup>(朱書)</sup>〔同上〕

一九

(20)

兼ネテ本宅下肥取ヘ申向ケ置タル証書ハ漸ク調印済

ミトナリタリ尤モ証書ノ月ハ七月トアリ右ハ片山ヨリ

譲リ受ケ當時ニ約スヘキカ故ナリ

牛込区市ケ谷砂土原町一丁目二番地御住<sup>(抹消)</sup>〔宅〕<sup>(加筆)</sup>并ニ

御貸家五軒車夫部屋一戸都合七戸ノ糞尿掃除方御引受

ケ申候ニ付キ左ノ通御契約仕候

一掃除方ノ義ハ毎々罷出不潔無之様充分ノ注意可仕

候事

一御住居ノ人員総計四十人ト相定メ御一人ニ付キ一

年金三十銭宛ノ割合ヲ以テ一年金十二円毎年七月十

二月ノ両度ニ廿五日限無相違御納メ可申候事

但人員二人以上増減有之候節ハ其割合ヲ以テ金員

ヲ増減ノ上御納メ可申候

行可仕候為後日仍如件

東京府下北豊島郡上板橋村第二千八百五十六番地

明治二十九年七月

小宮 鉄五郎<sup>(黒肉)</sup>

同郡同村第二千八百六拾番地

保証人 小宮 参吉<sup>(朱肉)</sup>

菊池武夫様御執事御中

本宅ノ全部或ハ一部借受ケ度人アリ一人ハ判事野

晴安一人ハ鉱山監督署長西山某ナル由貸ストキハ兎角

荒ラサル、故好マシカラネ共掃除向行届キ子供少ナキ

人ナラハ月五〇〇以上ニテ仕切貸ヲ承諾シテモ宜キ

旨申シ遣ハシタリ洪水ノ為メ日本鉄道線路所々損シタ

ルニ付キ此頃ハ郵書三日位ナラネハ到着セズ

〔武平一九日付〕

二三

今日ヨリ新当座預金通帳へ附込トナル紙数三〇枚附

込期限ハ明治二九ノ九ヨリ三九ノ八マテ見積金高ハ

一〇〇〇〇〇〇〇ニテ四銭印紙貼用シアリ如何ニ旧幣

ナル第二七国立銀行モ此前ノ通帳ヨリ西洋紙ト為レリ

(21) 二五

日本郵船株式会社ニテハ從來ノ壹株ニ付キ壹株半宛

ノ割合ニテ新株ヲ<sup>(抹消)</sup>株主ヨリ募集<sup>(加筆)</sup>〔ル〕<sup>(加筆)</sup>ルニヨリ

募二応シ七五株引受ケ現金九〇〇宛一株ニ対シテ払

込タリ尤モ一株<sup>(抹消)</sup>〔二六〇〇〕<sup>(抹消)</sup>〔五五〇〕<sup>(加筆)</sup>〔五二五〕宛<sup>(加筆)</sup>

特別配当金ヲ其俣払込金ニ充ツル由ニテ現金六七

合七丁度(抹消・朱点)〔九三七五〇〕(加筆・朱点)五〇每株(朱点)二二五

〇〔払込タル勘定ナリ今後払込ムヘキ金額ハ尚ホ二二五(朱点)七五〇〇〇〕(加筆・朱点)〔八二五〇〕アル次第ナリ(抹消)〔二二五〇〕

三二 本宅土蔵用屋根瓦製造方左ノ如ク監獄署ヘ注文シタル由(朱点)〔武平九ノ三〇〕

瓦払下願

壹坪五十六枚葺

一棧瓦 千二百枚 一軒瓦 八十二枚

一ケラバ瓦 七十六枚 一隅ケラバ瓦 四枚

一桎家庇振瓦 七十枚 一桎家化粧付瓦 二枚

右之通御払下被下度候也

明治二十九年九月廿八日

住所

菊池 武平(マ)〇

岩手県典獄 小林 清 一 殿

右瓦代価ハ運搬費共ニテ凡ソ二〇〇〇位ノ見込(朱点)

助次郎作二三反歩金太郎作二反歩余(抹消)〔忠〕虫害アリ又水

害地ハ景氣不宜趣(朱点)〔同〕

日月

一〇

五 九州鉄道株式会社ノ新一〇株ニ対シ七〇〇〇〇払込(朱点)

ム右ニテ二〇〇〇〇〇即チ一株ニ付キ二〇〇〇〇宛払込(朱点)

タル勘定ナリ(抹消)〔二二五〕

一〇

水害地ノ内羽場政之助作四〇〇〇菊ノ内二〇〇菊(抹消)〔極〕

〔中〕悪業助作永井五〇〇菊ノ内二〇〇菊最悪五〇菊中  
悪助次郎作鶴子一〇〇菊虫害金太郎作同七〇乃至八〇  
菊虫害四〇菊水害福太郎作同三〇菊水害其他モ景氣不  
宜一割若クハ二割ノ引米ト為ルヘキ由(朱点)〔武平九日付手紙〕

加賀野抱邸中野老母へ板間外一間仕切貸シ余ハ悉皆山  
本縁へ貸シ同人ハ明日方引移ル由(朱点)〔同〕

二五

瑤樹院一周忌逮夜相当ニ付キ吉祥寺住職ヲ招キタル  
処伴僧二人ト共ニ来リ読経シタリ布施五〇〇伴僧へ  
ハ一〇〇ト五〇トニ區別シテ布施シタリ尤モ明日回  
仰料ハ一〇〇ト定メ石碑ノ魂入式モ行呉ル、(抹消)〔口〕

(22)

コト卒土婆料ハ外二一五〇差出スコトニ予メ柏井登  
ヲ以テ吉祥寺ト約定セリ当夜ハ男連ヲ招キタルニ柏井  
登、錦三郎那珂通、世吉川義質、新井要太郎、檜崎平  
太郎(加筆)〔菊池元朔〕小山朝寛寺来リ(加筆)〔信岡雄四郎〕吉本強  
ハ不参ナリ

二六

鶴子ヲ除ク外一同吉祥寺へ詣リ法事ヲ営ミタル二本  
宿直子、富田ヒサ子、(加筆)〔片山国嘉夫人〕高木(抹消)〔夫人〕豊三  
夫人(加筆)〔大神ハナ子〕モ来会セリ夫ヨリ一同墓地ニ至リ手  
向ヲ為シタリ墓碑ハ吉祥寺(加筆)〔裏〕門前石工酒井勝太郎ニ  
命シ敷石トモ一〇〇〇〇ニテ仕揚リタリ午後婦人連  
ヲ案内シタルニ真鍋波本宿数代子富田ヒサ子高木銚子  
太神花子ノミ来リ山(抹消)〔伯〕(加筆)〔田〕龍子、穂積銀子、片山夫

二八

人ハ差支アリテ参ラレス精進料理ハ両日トモ小石川竹早町いろはニ命シ〔抹消〕菓子ハ京橋南鍋町風月堂製ナリ水野、大竹ヨリハ香料菓子切手到来セリ

国許ニ於テモ久昌寺ニテ年回ノ仏事執行シタルニ横濱伯母嶋田安子、山本緑母、遠畑クラ等参列シタル由

〔宋書〕(武平二七日付)

松尾前新田ノ初稲蒔試シタルニ九二束(三握一把)一束

ノ玄米二斗積ニシテ一石八斗ナレハ其半量九斗残畑ノ

小作米三斗合計一石二斗ノ収入アルヘキ見当ノ由

〔宋書〕(武平二七日付)

日月

一一

六

松尾前新稲ノ粃試製シタルニ一束ヨリ三升五合出五合五挽トシテ此玄米一升九合式勺余ナレハ九四束ノ玄米一石八斗余此半高九斗余收入ノ見込ノ由畑ノ節ハ全体ノ小作米ハ一駄即チ七斗四斗ナリシ〔宋書〕(武平五日付)

一四

日本鉄道会社線路水害予防ノ為メ危険ナル个所ハ協議ノ上買受ケ度旨同会社ヨリ照会アリタルニ付キ佐藤清右衛門、森九兵衛、金田一勝定、平野八兵衛、金沢弥之助等十数名ノ地主等打寄り裂地ニシテ買入ル、ナラハ〔加筆〕〔宋書〕〔抹消〕〔加筆〕一筆買入ル、ナラハ〔宋書〕  
○位ニテ然ルヘキ旨多数ノ意見ナル由手前ノ地所ハ当夏〔加筆〕〔宋書〕〔抹消〕ノ際砂利押上タル場所ニテ見込ナキモ

ノ、趣ナレハ一反歩二〇〇〇位ナレハ売テ然ルヘキヤ同意ナラハ委任状遣ハスヘキ旨申シ来レリ

〔宋書〕(一三日付武平)

鶴子畑返ハ去一二日着手セリ三反歩ノ費用三〇〇〇

外ニ酒一斗代二〇〇回付ノ義申シ来ル松尾前残部ノ

披立モ来春引続着手諸負高ヨリ一〇〇〇モ上リタル

ニ付キ何分ノ助力致シ呉ルヘキ旨請負人申シ出テタル

由〔宋書〕(同)

佐藤清右衛門試作陸稲好景氣ニ付キ赤坂〔加筆〕〔抹消〕及羽場

ノ畑ヘ試植致シ然ルヘ〔抹消〕〔加筆〕收穫ハ反二付キ〔加筆〕

六斗位〔抹消〕〔加筆〕三駄位〔抹消〕〔加筆〕ナラン一駄片

馬トシテモ赤林ノ畑九反歩程ナレハ一三駄片馬ナレハ

地主小作人半々分ケニシテ六駄ニ当リ現今ノ小作米町

米一俵二蒿麦一駄ニ比シテ大ナル利得ナル由

〔宋書〕(武平一三日)

夜峰子流産セリ笹ハ腸ヲ大ニ損シ熱ヲ発シ執モ打伏

シタル月初ニハ香一郎、操、〔加筆〕〔抹消〕母君打続キ風邪若

クハ腸ヲ患ヒ操ハ阿多福風ト為リタレ任操、鶴毛漸ク

快癒ニ赴キ其他ハ全癒セリ

〔抹消〕(二二五?)

姉多き今月初頃ヨリ頭瘡発シタルニ付キ元朔ノ

心付ニテ陸中連ノ温泉へ浴セント七日頃彼地へ出

立セシカ温泉ニ付キ争論起リタル哉ニテ昼間入浴

差止メト為リタル趣故更ニ花巻在銘ノ温泉ニ転浴

中

二四 鶴子畑返費三三〇〇武平送ル〔(622, 14/11)〕

二六 昨日マテニ一六四駄片馬収入アリタレト米質好カラ  
 ス土用越ハ六ヶ敷由〔(武平二五日)〕

日月

一一

四 昨日名古屋表ノ用事済タルニ付キ朝七時二十分ノ列

車ニテ同地ヲ発シ馬場即チ大津ニテ昼弁当ヲ調ヒ一時  
 十分前頃京都七条停車場ニ着同所前ノ茶店ニテ凡ソ一  
 時間計リ待合セ官設線路ノ南ニ在ル奈良鉄道ヨリ二時  
 ノ列車ニテ奈良へ向ケ出發ス第一停車場ハ伏見ニテ官  
 線停車場ナル稻荷ト淀川ヲ隔テ其南西二位セハ次ナル  
 ハ豊太閣ノ御殿跡ニテ名高キ桃山第四ハ是モ名高キ宇  
 治ナリ此辺リ西南ヲ眺ムレハ淀川沿岸水害ノ痕跡今尚  
 ホ歴然トシテ眼ニ映ス宇治川ヲ踰ヘテ後ハ差シテ是ソ  
 ト見ユルモナク伏見以下九ヶノ停車場ヲ経テ四時十分  
 前頃奈良停車場ニ着ク東京出發前曾テ奈良地方裁判所  
 長トシテ彼地ニ在勤セシ友人藤田隆三郎ニ然ルヘキ宿  
 所ヲ尋ネタルニ角定(一名対山楼)若クハ菊水楼ノ中  
 ナル〔(毛)〕〔(二)菊水楼ノ方ハ本業料理店ナ〔(ル)〕〔(レ)〕〕  
 テ静カニテ宜シナラントノ教ナリシ菊水トアレハ何ヤ  
 ラ己レノ氏ニ因ミアルカ如クナレハ教ノ俣ニ彼楼ニ憩  
 ハンモノト志シ居タルニ乗合人ノ噂ニ陸軍大臣高島鞆  
 之助ハ隨行員ト〔(共)〕〔(二)菊水楼ニ投宿セリト〕ノコトナレ

(24)

ハ大臣扨ト同宿ハ厭ウヘキノ限ナルカ故然ラハ角定ニ  
 泊ラント彼家ニ到リ藤田氏ヨリ聞テ来リタル旨通シタ  
 レハ娘ト覚シキ者出テ来リ好キ座敷塞カリ居テ氣ノ毒  
 ナリト云フ左程ニモアル間敷ト推量シ這入テ見レハ表  
 近クノ二階座敷ニテ穢シトニハアラネトモガラス窓破  
 レ杯シテ何トナク快カラヌ心持スル位ノ部屋ナリ隣レ  
 ル廊下様ノ所ニハ夜具布団杯積重ネ事ニ寄ルト行燈部  
 屋モ其所ラニ在リ兼ネヌ形況故如何ナレハ斯ノ如ク繁  
 昌ナリヤト問タルニ今夜高嶋大臣ノ御入アルヘキニヨ  
 リト下女ハ答ヘヌ此答ヲ聽キタルトキノ自分ノ面持カ  
 如何様ナリシカハ鏡ナラヌ吾身ニハ知り得サレトモ先  
 刻ノ氣軋今ハ愚軋ト響カト覚ヘ不快ノ念ハ益マス募リ  
 寧口去テ初念ノ菊水楼ニ軋宿セントモ思立タレト否待  
 テ暫シ彼家ハ旅人宿ニアラネハ常ニ宿泊ノ都合整ヒ居  
 ルトモ限ルマシ若シ不都合トアラハ軋シテ入ルヘキ家  
 ハ最早手帳ニ記シナケレハ荷物ヲ提ケテ立往生〔(加)〕又  
 ハ迷子ト為ルモ氣ノ利ヌ次第ナル〔(ハ)〕〔(カ)〕故ニ〔(先)〕  
 未夕日ノ暮ニ間カアルヲ幸ヒ大仏ノ辺マテ散步スルト  
 称シテ角定ヲ出テ都合好クハ窃カニ菊水楼ノ様子ヲ探  
 リ見シモノト大仏道丈ヲ教ヘラレテ宿ヲ立出テ先ツ大  
 仏ヘト登タレハ最早門ハ閉チアリタレハ南大門ヲ出テ  
 右ニ折レテ行ツ、菊水楼ハ程遠カルマシト〔(ノ)〕〔(加)〕推量違  
 ハス途行人ニ尋ネタレハ大路へ出テ左ニ折ルレハ右ノ  
 小高キ処ニアル家ナリト教呉レタルニ付キ勇ミ進ミテ

五

門構杯料理屋ラシクナケレト玄関ニ到リ何フニ下足番アリ何様大勢ノ来客アリト覚シク案内乞フテモ玄関番ハ応トモ云ハ(採消)故上カリテ元来此方ヘト志シタルモ途上ノ噂ニ欺カレテ不幸ノ境遇ニ陥リタル次第ヲ述ヘ哀レ一夜ノ宿リヲ借セト云タルニ番頭メキタル男出逢ヒ生憎離レ座敷カ塞カリ他ハ(採消)御覽(採消)ラ(採消)ル(採消)、通りノ来客ニテ明キ間トテハナケレハ氣ノ毒乍ラ需ニ応シ難シト頭ヲ搔キケリ然ルニ其様子ハ言々誠ト思ハレス吾身形カフランネル、シヤルトニ泥靴ヲ穿チ(採消)モノナルカ上(採消)車ニモ打乗ラス(採消)来リシコト杯ヲ勘カヘ合セ碌ナ客ナルマシト鑑定セシカ如シ藤田氏ノ名前役ニ立タヌ上ハ他ニ頼ルヘキ即座ノ信用買収方便モナケレハ悄然トハセヌ積リナリシモ余リ意氣揚々申ス風ニテハナカリシナラン左リ乍ラ諦ラメノ善キ性ナレハ再度ノ氣転カ愚転ニ反リシコトヲ物ノ数トモセスドー七昼ハ宿ニ居ラヌ故部屋ノ数寄モ思ヘハ無益ナリト覚悟シ左アラヌ体ニテ角定ニ戻リ大阪用ノ書類ヲ閲読シテ聽テ眠ニ就キニケリ

今日中ニ奈良ヲ見尽サンモノト昨夜注文シ置タル案内者ト共(採消)朝飯後早々ニ宿ヲ立出ヌ奈良ノ旧都ハ東西ニ山岳アリ孰レモ北ヨリ南ヘト並列シ北ニハ山ト称スヘキ程ナラネトモ高キ岡アリ南ノ一方ノミ打開ケ土地ノ概形ハ京都ニ似タレト東山ト西山トノ距離ハ京都ニ比シテ広シ又(採消)鴨(採消)川(採消)淀川杯ノ如ク(採消)川ト

称スヘキ程ノ水流ナシ去レト東ヨリ西ニ通スル大路ハ昔モ今ノ如ク一条ニ条ヨリ九条ニ至リタルモノ、由(採消)ナル(採消)ニテ九条通りハ今日ノ郡山町辺ニ当ルト云フ此広大ナル都ノ跡ハ一面ノ田畠ト変シ一条ノ半ト三条トハ纔ニ昔ノ面影ヲ在スルノミ(採消)其他ノ大路ハ名サヘモ消果テタリ奈良ノ停車場ハ三条通りノ町外レニ在テ其辺リヲ京極ト(採消)称フル趣乃チ現今ノ奈良町ハ旧都外(採消)東山ノ麓ニ傍フテ北ヨリ南ニ立列ナリ東西ノ幅至テ狭キモノナリ蓋シ帝都ハ廢シタレト東山ノ麓ニ在ル春日社、東大寺、興福寺等ハ(採消)其命脈ヲ維持シタルカ故ニ其蔭ニ頼リテ衣食スル輩カ寄集マリテ組成シタル町ノ伝ハレルモノナルヘシ東山ノ中ニ名高キハ春日山、三笠山、若草山、手向山又西山ノ方ニハ生駒山、金剛山、(採消)歎火山、香久山(採消)アリ又三条通ノ西ニ当リ暗峠ト云フ山嶺アリ大阪ニ(採消)至(採消)出(採消)ル旧街道ナリトソ案内者ハ南シテ先ツ吾ヲ

興福寺ニ誘ヒタリ維新ノ際住僧等狼狽シテ名アル建物ヲ取毀チ(採消)重器珍宝ヲ鬻キ院坊ノ地ヲ売リタルカ為メ寺運大ニ傾キ寺觀大ニ衰ヘ興福寺ト云ハンヨリハ寧口興福寺ノ旧跡ト云フ方適當ナルカ如キ有様ナルン歎ハシキ寺ノ境内ハ元ト四町四面(採消)ト云ヘ(採消)ナリシ趣ナルニ県庁、裁判所、師範学校ニ取ラレ果ハ料理店杯ニモ取ラレ山門モナク(採消)塀モナク(採消)堂趾サヘモ存セサルモノアリ建築物ノ最モ旧キモノハ三重塔ニテ七百余年

ニナリ次ハ東金堂ニ五重塔ナル由ナレト一般ノ風光荒涼ナルカ故ニ素人眼ニハ見栄ヘセス唯此処ハ三条ヲ余程登リタル所ナレハ西方ヲ眺ムレハ旧都趾ノ大半、西山、及ヒ其麓ニ散在スル伽藍見ヘ南ニ向ヘハ奈良町ノ最モ熱帯ナル部分ヲ望ムヘクシテ眺望頗フル佳ナリ南ヘ下リテ

猿沢ノ池ニ到ル池ハ乃ノ字形ナル由広カラサレト趣アリ池ノ東南西ニ傍フテ大キヤカナル家数軒立列ナルハ何レモ粹客ノ寄集フ所ナ(抹消)ト(加筆)ト夏ハ嘸好カラント想像サル、モ何分時候外レ故立留マル値打ナケレハ池辺ノ掛茶屋ノ婆力鯉ノ餌ヲ持来リ買フテ遣レト勤ムルヲモ聴カス又坂ヲ登リ東シテ普提院一名十三鐘トヤラ云フ低地ニ在ル寺内ヘ下リタルニ庭ニ噴水所アリ昔興福寺ノ稚(抹消)兒(加筆)カ春日神社ノ鹿ヲ殺シタル罰トシテ石子詰ト為リタル古蹟ナリト案内者ハ申聞又去レト虚伝ノ趣蓋シ本堂ニ稚兒觀音アリト云ヘハ之ニ因ニテノ説ナルヘシ夫ヨリ(抹消)北ヘ登リ東ヘ折レテ

春日神社ノ境内ニ入ル大島居ヲ過キ右ノ芝原ハ浅茅ヶ原ニテ遊園ニ造リ風流ナル茶席、貸席数軒アリ南方崖下(荒池)眺望佳ナリ左ニ東大寺ノ南大門奈良倶楽部ヲ眺メ大木石灯籠杯ニ眼ヲ奪ハレ浮々ト進ミ行ク途端春日ノ神使ハ宛カラ人ヲ駭カサント工ミタルカ如ク足音モサセス寄来テ傍ニ「ニヨキリ」ト立ツ(何ダ) (加筆)鹿(方)「ダナ」杯ト驚カヌ振シテ(抹消)過ルモ可笑

シ前月ヤラ角切ノ式ヲ行ナヒタル由ナレト中々数多キ鹿ノコト故伐洩シタルモ寡ナカラヌト見ヘ(往々)全角ヲ戴ク(男)雄(雄)鹿(牡)鹿ヲ見タリ鹿ハ最モ豆腐殻ヲ好ム左レト奈良町ノ戸口ニテハ神使ノ腹ヲ肥ヤス又ノ穀ヲ製出スヘクモアラ(不)ハ各家ニテ切捨ル太根、人参、牛蒡其他ノ野菜ヲ小桶ニ溜メ置キ社人ノ来リ(テ取)集ムルニ任カス趣元来鹿ハ野菜ノ類ナラハ何ニテモ嫌ハスニ食フトソ(聴)テテ(路)道ハ二ツニ岐ル(如キモノ)ヲ(口)盛リ(来リ)鹿ニ餌ヲ遣レト勤メ乍ラ鹿ヲ呼フ声「コアツ、コア、コア」ト響キ恰モ下手ナル鶏ノ声色ノ如ク(聞)エ(ナル)モ奇ナリ聴テ道ハ二ツニ岐ル、ニ右ノ方ヲ取テ進ミタリト覚フ石灯籠ノ数ハ夥シキモノニシテ名所案内書ニハ千七百八十九基ト注セラ

ル春日ノ若宮前ニ出タレト入ラスシテ南ニ折レテ行タルニ此頃ノ大風ニ吹倒サレシ大木路ヲ塞クニ出逢廻リ途シテ通レリ春日社境内ニハ大小ノ樹木繁茂(シ)ス(ス)ルカ故ニモ風損ノ大木少ナカラス見ヘタリ惜シキ事ナリ称宜町ニ出テ右ニ折レ又左ニ曲リテ高島ノ新薬師寺ニ至ル聖武帝時代ニ建立セラレタル古刹ニシテ美術上ニハ費ムヘキ建物ナル由ナレト寂テ素人眼ニハ左程ニハ見ヘス又立戻リテ

春日若宮ニ詣ツ大和ノ鎮守トモ云フモノカ此月ノ十七日ヲ以テ毎年古式ノ祭祀ヲ執行ナヒ年中第一ノ賑ナ

ル由昔ハ大和一國ノ大小名皆来リテ神事ヲ資ケタル  
 (由)趣ナリ此所ヨリ(山)後ノ三笠山ニ分ケ登レハ途  
 中色々ノ名所アリテ奥ノ院ニ至ル趣ナレト曇天ニテ時  
 折雨降りケレハ直ニ北隣ナル

春日日本社ニ詣ツ四社相並テ丹碧鮮カナリ三十年目毎  
 トヤラニ建直スモノ、由舞殿ニハ例ニ依リテ白装束ニ  
 緋ノ袴ノ巫(子)控ヘ居リ廻廊ニ八九百八十八ノ金  
 灯籠吊シアリ其(他)二十六ノ木灯籠、瑠璃ノ灯籠等ノ  
 釣灯籠アリ又柞ト云フ樹ニ藤、椿、南天、桜、楓、陸  
 英ノ寄生セルモノトテ数種ノ木カ抱付卷付テ一株ヲ為  
 セルアリ尤モ楓陸英ハ枯レタリ北ノ方水谷川ヲ渡ル此  
 川上ニ古ノ氷室ノ跡アリト云フ川ノ彼方ニ掛茶屋アリ  
 火灯焼ト称スル餅ヲ商フ甘ソウニモ見ヘネト妹背山ノ  
 浄瑠璃ノ文句ニ「賃ニハ春日野ノ火灯焼」トアルニ因  
 リ名高シト云フ春日社ノ後山ヲ総称シテ春日社ト云ヒ  
 其最モ近クシテ低クヘ形ヲ為シタル山ハ(御)笠山  
 ナリト云フ孰レモ樹木鬱葱タリ入口ノ大鳥居ヨリ十数  
 丁ノ間爪先登ニ行ク両側ニモ昼尚ホ暗カラシ計リニ大  
 小木生茂リ伊勢太神宮ヨリハ境内ノ(模様)形勢却テ優  
 ルカト思ハル石壇ヲ登レハ美事ナル

若草山ノ麓ニ出ツ一面ノ草山ニシテ態ト庭芝ヲ植付  
 タルカ如ク高カラス嶮シカラス(其形ハ)今コソ枯レテ  
 黄色ナレト春ハ嘸カシト想ハル、実ニ天然ノ遊場ナリ  
 其形ハ三重ノ御供餅ヲ大(キナヨリ)ノ方ヲ前ニシテ

順次ニ將棊倒シトナシタルカ如クナレハ此山ノ方ヲ三  
 笠山下心得居ル人多シトカヤ空模様怪シケレハ登リ兼  
 タレト都趾ハ勿論西ハ生駒金剛(諸山)歟火、香久ノ  
 諸山大和南部及ヒ山城北部ノ諸嶺モ見ヘ絶景ナリト云  
 フ此山麓辺ヲ武蔵野ト称フル由名産奈良人形、鹿ノ角  
 細工、春日盆、根来塗、抔売ル店打並ヒ客ヲ呼止ムル  
 故案内者ノ教ニ従ヒ或ル店ニ腰掛ケ種々ノ奈良人形ヲ  
 仕入レタリ案内者ハ人形ノ商山内ニ限ラレアルニ此店  
 ニハ良品最多シト申スニヨリ余程得意ナリシ(カ)  
 後二町ニ出ツレハ人形店幾軒モアリケル故案内者ニ  
 小言ヲ云タル(拙)シ聽テ又蔽メシキ暖簾構ノ店  
 ニ誘ハレタルニ此所ハ三条小鍛冶ノ後(商)ナリト自称  
 スル刀物屋ナリ刀剣、仕込杖、剃刀、鋏、小刀、扱ハ  
 庖丁迄色々取出シテノ番頭ノ効能演述中々ニ巧ミナ  
 (ハ)引カル、トハナシニ終ニ鋏、小刀、庖丁抔  
 買ハセラレタリ尚ホ北ニ進メハ

手向山神社ニ詣ル東大寺ノ鎮守トシテ宇佐八幡ヲ勧  
 請シタルモノ、由ニテ今ハ県社ナリ其石垣ノ下ニ菅原  
 道(實)真カ百人一首ニ載セアル和歌ヲ詠ミタル古跡ナ  
 リト云フ(死)アレト全ク虚伝ナリトソ次ハ天下  
 ニ名高キ

東大寺即チ大仏殿ナリ名所案内書ニ依レハ殿ノ桁行  
 三十三間棟ノ高サ二十四間柱数六十本廻廊ノ南表ハ百  
 四十四間東西表ハ各六十七間ナリトソ又大仏ハ金銅造

(28)

リノ座像ニシテ総身五丈三尺五寸面長サ一丈六尺幅九尺五寸、眉長サ五尺四寸五分目長サ三尺九寸口三尺七寸耳八尺五寸左手ノ拇四尺八寸中指五尺八寸後背ノ廻(抹消)廻(加筆)リニ散在スル十六体ノ小仏ト見ユルハ(高サ)高(加筆)サ八尺ヨリ九尺ナ(抹消)ル(加筆)ト注セラルル俳諧ニ「大仏ノ鼻ヨリ出タリ煤払」トアル趣実ニ名ニ負ヘル仏像ナリ今ハ殿ノ軒幾ント傾類ニ瀕シ廻廊モ余程荒レテ見ユ堂ノ回りニ足代ヲ掛ケアリ一旦宮繕セントシテ中止シタル姿ナリ足代費ニテモ三千余円掛リタル由案内者ハ云ヘリ巧者ナル人ノ話ニ此殿ヲ修繕スルハ巨額ノ金銭ヲ要スルノミナラス(抹消)反(加筆)テ大仏(加筆)火災(加筆)地震(加筆)等ノ惧アリテ反テ大仏ノ為メニ不利ナレハ鎌倉ニ於ケルカ如ク露仏ト為ス方然ルヘシト左モアリナン附属ノ堂宇ハ二月堂三月堂四月堂杯数棟アリ又若狭井ト称スル井戸アリ若狭国ヨリ水ヲ召ヒアリト案内者ハ告ケタリ大仏殿ノ西北ニ

正倉院ノ御物倉アリ孝謙天皇カ御父聖武帝ノ御物ヲ悉皆供養ノ為メニ(抹消)正(加筆)蔵(加筆)東大寺ニ寄進セラレ(抹消)タリ(加筆)其(加筆)御(加筆)物カ秘蔵セラレ(抹消)ア(加筆)ル(加筆)倉(加筆)ナ(加筆)リ正倉院ニ傍フテ西北ニ下(抹消)レ(加筆)リ(加筆)左ニ折レハ東大寺ノ転害門ニ出ツ世俗(加筆)景清カ頼朝ヲ狙タル古跡ナリト云フ門ヨリ西ニ走ル道ハ古ノ一条大路ナリ先ツ右ニテ帝室ノ御所轄ナル(加筆)帝(加筆)国(加筆)奈良博物館ヲ除クノ外東山ニ在ル有名ナル建造物ヲ見了リタレハ少シ早ケレト角定ニ引返

(29)

シテ昼食ヲ調ヒ午後十二時半頃再ヒ出テ西山ニ向フ道ハ転害門一名景清門ノ向ナル一条通ニ在リ町外レヨリ右ニ折レテ先ツ聖武帝其妃(抹消)元(加筆)明皇后ノ御陵ヲ拜シ再ヒ本道ニ戻リテ西ニ進ム(加筆)随(加筆)ヒ右ノ山手ニ興福院テフ尼寺、不退寺、海龍王寺ヲ望ム又紳士ノ別荘ヲシキ今様ノ家モ見ユ大阪商人ノ別業ナル由ニテ尚ホ此他ニモ大阪商人カ買入レテ所有シ居ル地所夥多(抹消)ア(加筆)ル(加筆)ト案内者ハ云ヘリ往当リテ法華寺ニ入ル境内ハ昔藤(加筆)原(加筆)不比等ノ屋敷(抹消)跡(加筆)地ナリト云フ法花寺ノ西ハ都跡村ニ属シ太極殿趾ト覺シキ大黒芝ノ小字杯アリテ皇居ノ在リシ所ナリト云フ次ニ

西大寺ヲ觀ルニ堂ハ別ニ眼ニ着カス宝物類多キ由ナレト入テ南スレハ菅原ノ里ヲ過ク菅原神社菅原寺アリ尚ホ南進シテ

垂仁天皇ノ御陵ノ傍ニ出ツ御陵ノ周圍(抹消)回(加筆)ラ(加筆)ス(加筆)ニ濠ヲ廻ラシタル故御陵ハ島ノ如ク(抹消)別(加筆)鳥(加筆)居(加筆)ハ(加筆)樹木繁茂セリ御鳥居ハ見ユレト聖武帝ノ陵ニ於ケルカ如キ石ノ玉垣ハ見ヘス尤モ目下修繕中ナル(抹消)カ(加筆)ノ(加筆)、如クナリシ御濠ニ傍フテ行ケハ

唐招提寺ニ至ル堂宇ノ結構ハ遙カニ西大寺ニ優リ蔵置ノ仏像其他ノ宝物中ニ優美ノモノ頗フル多シト云フ次ハ

薬師寺ナリ堂宇ノ荘(抹消)廳(加筆)殿(加筆)保存ノ良否ハ亦唐招提(抹消)地(加筆)寺(加筆)ニモ劣ラス五重ノ塔ハ頗フル人目ヲ牽クニ似



六

タリ又南西ノ隅ニ仏足(抹消)〔石ナルモ〕ノ(加筆)〔跡ヲ刻メル石〕アリ塔ト東院堂トハ頗フル古キ建物ノ趣金堂ノ仏壇ハ大理石ヲ以テ造リアリ珍シト云フヘシ此寺ニモ種々ナル名作ノ仏像アリ

右ニテ西山ノ名アル寺院旧跡ヲ見尽シタレハ北ニ戻リ右ハ三条通ヲ伝フテ奈良町ニ入ル西山方ノ土地自身ニハ別ニ賞スヘキ風光ナケレ(抹消)〔ハ〕(加筆)〔庄〕東山ヲ望ム景色ハ東ヨリ西ヲ眺ムルモノニ比スレハ優ルコト万々ナリ或ル店ニテ奈良晒ヲ買求メテ夕景旅宿ニ帰レハ室ヲ変ルトテ三笠山ニ対スル裏ニ階ニ導ケリ是ソ対山楼ナル店名ノ因ナリト知ラル

〔青丹アラビヨシ〕ノ看牌ハ奈良町到ル処ニ見ユ是ナン名物菓子ノ名ニシテ聖武天皇ノ御製「青丹ヨシ奈良ノ都ノ黒木モテツクレル宿ハ(抹消)〔をれと〕(加筆)〔ラレト〕厭ヲカモ」(抹消)〔ト〕ノ和歌ニ因メルモノナリ土産ニ此品及ヒ奈良八景テウ菓子ヲ買杯シテ十時半過(加筆)〔大阪鉄道〕奈良停車場ヲ発シ柳澤伯ノ旧領地ナル郡山ノ停車場ヲ経テ次ナル法隆寺停車場ニ下リ直チニ人力車ヲ僦フテ西北十数丁ニ在ル法隆寺ニ至リシハ十一時半頃ニテモアリシナラン金一〇〇ノ見料ヲ払ヒ内陣及ヒ宝物庫、夢殿等ヲ觀ル推古天皇ノ十五年聖徳太子ノ開基ニ係リ此(抹消)〔回〕(加筆)〔界〕隈最旧ニシテ最モ莊嚴ナル寺院ナルニ爾モ旧形ノ保存反テ奈良ノ比較上新寺院ニ優ル思フニ法隆寺カ特ニ注意シ他寺ニ勝リテ手ノ行届キタルニハ非スシテ建築ノ

(30)

方法材料共ニ優等ナルカ為メナラン仏壇ハ勿論堂宇ノ基礎門塀ノ土台(抹消)〔ト〕モ後世石ヲ用ウル処ハ悉皆現今ノ所謂ル「セメント」ヲ以テ造リアルハ珍奇ナリ金堂内聖徳太子自筆ノ仏画ハ古ルボケタルノミナラス光線ノ偶合(イ)悪シクシテ発輝ト分ラス油画ノ如ク見ユ陳列ノ仏像ハ概ネ支那印度ヨリ舶来ノモノナリト云フ又宝蔵ハ矢張正倉院流ノ板倉ニテ珍奇ノ品数多アレ(イ)〔ト〕ニハ映セス案内者ノ講釈モ(イ)〔ト〕ニハ響カネハ記憶(イ)ニ存セス俗ニ七堂伽藍ト云(抹消)〔ト〕(加筆)〔フ〕堂宇ノ位置ハ仏面ニ像トリタルモノナル旨案内者ノ説明アリタレ(イ)〔ト〕矢張俗胸ニハドットセス大坂鉄道ノ列車ハ每一時(加筆)〔間〕ニ発車ス(抹消)〔ルハ〕(加筆)〔ルニ〕吾乗リ来レル列車ノ次ノモノ到着マテニハ充分此古寺ヲ見了ルヘシト思ヒノ外幾位(イ)〔ト〕ノ俗(抹消)〔物〕(加筆)〔者〕ノ見物ニテモ二時間余ヲ要シタレハ(抹消)〔腹〕(抹消)〔脚足〕口腹ハ大ニ休養ヲ請求シ来レルカ故ニ案内者ヲシテ南門外ニ待セ置タル人力車ヲ東門前ニ廻ラセ同門ヲ出テ左側ノ角ナル旅人宿ニ入テ昼食ヲ命シタレハ木枯ノ吹荒ム今日ノ寒空ニ寺見ノ客ノアラウトハ(加筆)〔御釈伽様ナラヌ〕主婦(抹消)〔モ〕(加筆)〔ハ〕素ヨリ待設ケネハ錢儲ノ嬉サト饗応ノ迷惑サトカ胸ノ裏ニ撞突シテ頓ニ善ク来タトモ云得サリシカ(抹消)〔臆テ〕(加筆)〔俄ニ〕竈ニ火ヲ焼付ケ(加筆)〔臆テ〕怪シ氣ナル貝ノ吸物ト夏ナラハ命ヲ掛換ヲ持タル者ノ外箸ヲ下(抹消)〔シ〕(加筆)〔ス〕間敷煮魚ト冷飯トヲ持出シ何モナクテ氣ノ毒ナリト挨拶ス冷飯(加筆)〔ト〕ハ疾ニ覚悟ヲ極メ居タレ(イ)〔ト〕玉

子位ハアルナラント窃カ二期シタルハ空頼ミト為リ果  
 タリ左レトモ例刻ヨリ二時計リ後レ居ルトキナレハマ  
 ツイ物ノアルヘキ筈ナク吾食ヒ様ヲ見テ女房モ安堵シ  
 タル面持ヲ為シ夏ノ頃ハ法隆寺ノ宝物ヲ模写スル美術  
 家ヤ美術ヲ教ユル学校ノ生徒〔抹消杯〕等〔加筆〕滯留スル由杯語  
 リ出タリ三時十分過法隆寺發ノ列車ニ乗込ント停車場  
 ニ戻リタル処岩槻住ノ東京法学院々友某カ郷里ニ帰ル  
 ニ逢ヒ今夜大阪ノ旅宿ヘ尋ネ来ルヘキ由ヲ告ケ共二列  
 車ニ乗入リタル次ナル停車場ハ王子トテ其西北十六、  
 七町ニシテ紅葉ノ名所三室山龍田川アル趣此所〔抹消ヨリ〕  
 〔二〕〔三〕〔抹消ヨリ〕桜井行ノ〔抹消人々〕支線起リ吉野ヤ神武天皇  
 ノ陵アル畝〔抹消傍〕〔加筆火〕ヤ〔抹消楠氏ノ旧蹟〕、多武ノ峰、長谷  
 寺等ヘ行く人々ハ乗換ヲ為スナリ柏原ヲ過キテ大和川  
 ヲ渡〔抹消ル〕〔加筆リ〕漸ク山国ヲ出テ広野ニ入り艦テ天王寺ニ  
 到ル此所ヨリ桃山、玉造、京橋、天満等大阪市端ヲ廻  
 リテ梅田停車場ニ行ク西成鉄道アリ大阪ノ南端ニ行ク  
 人ノ外ハ乗換ユルカ為メ頗フル雑沓ナリ湊町ヨリ人カ  
 車ヲ僦フテ北浜ノ竹式ト云フ旅人宿ニ着タルハ四時半  
 過ナリシ此迄大阪ニテハ意ニ適フタル旅人宿ニ泊リ合  
 サネハ東京出立ノ〔抹消際〕前友達ニ聞合セタル処難波橋際  
 ノ加賀屋コソ然ルヘケレト教ヘラレ其所ニ宿ル心得ナ  
 リシニ名古屋ニテ竹式ハ景色モ調理モ佳ケレハ同家ニ  
 セヨ案内書差出シ置キ呉ルヘシトノコトナリシカ故ニ  
 然ラハトテ奈良ヲ廻リテ〔抹消行〕〔加筆着〕ケルニ一向案内ナシ

(91)

トナリ不審ナレトモ旅人宿ニハ案内モ強テ要ナケレハ  
 免モ角モ泊ルコト、シテ〔加筆二階ノ〕一室ニ導カレタリ室  
 ハ至テ狭ク床ノ間モナシ川ニ臨ミ天満橋杯ノ眺アレト  
 冬分ニハ余リ賞メタモノニ非ス且橋ヲ通行スル人、馬、  
 車ノ音高く響キテ喧ク相替ラス氣カ勇マ〔抹消ス〕〔加筆不〕トモ  
 今晚千日前ノ團十郎俄ヲ觀ルノ楽ミアレハト氣ヲ慰サ  
 メ棧敷一間取り置キ呉ル、様下女ニ申付タルニ下女ハ  
 吾顔ヲ詠メ「抹消変〔加筆夕〕ハタ御注文ヤナ」ト云ヒケリ蓋  
 シ俄ハ下品ト相場カ定マリアルニ因ルナラン風呂場ハ  
 往来並ヨリ一段低キ川端ニ在リテ衣服脱置所ヨリ觀音  
 開キノ〔加筆里塗縁ノ〕戸ヲ押放ケテ這入ル仕組ユヘ何トナ  
 ク仏間へ通ル〔加筆心持シ〕好加減ノ湯ニ緩リト温マル人モ  
 熱過ル湯ヘ我慢シテ飛込ム者モ〔抹消南〕共ニ唱フル南無阿  
 弥陀仏ハ相応シク聞ユルナルヘシ〔抹消晩〕下女出来リテ東  
 京ノ菊池様カ案内シ〔抹消二〕〔加筆夕〕リヤト尋タル故〔抹消二〕自  
 分ハ東京ノ菊池ナリト答ヘケレハ人カ違フト云フニ付キ  
 其菊池ノ職業ハト問ケレハ弁護士トヤラナリト答フル  
 ニヨリ更ニ年齢ハト推シタレハ其答ハ鈍リテ曖昧ナリ  
 東京ノ同業者中同氏ノ人アリトハ聞及ハス何カノ都合  
 ニテ吾名ヲ騙リ称スル者モアルカト不審ニ思ヒ篤ト帳  
 場ニテ聞糺シ呉ル、様頼ミタリ同業者渋川忠次郎ノ使  
 者、依頼人ノ親族、法隆寺ニテ逢シ院友杯順次尋ネ来  
 リ其中晚餐ト為リタルニ付キ給仕女ニ菊池ノ人分ヲ追  
 訊問シタルニ職業カ違ヒ全ク別人ナリト云フ左モコソ

トテ別ニ氣ニ構ヘサリシニ後名古屋ニ立寄り案内ノ違約ヲ詰リ乍ラ此一段ヲ語り出タルニ安東敏之曰ク自分ハ竹式ヲ識ラヌカ故ニ洪川ヲシテ案内セシメ置タル<sup>〔抹消〕</sup>レハ無案内ナル筈ナシ大阪ノ弁護士ハ皆身形立派ナルニ貴方ノ様ニ古イ洋服ニフランネル、シャツ、色褪タ外套ニ長靴ヲ穿<sup>〔抹消〕</sup>テハ<sup>〔抹消〕</sup>キ殊ニ奈良ニ於ケル運動ノ結果靴下破レテ踵カ露出シタル形振ニテハ<sup>〔抹消〕</sup>大阪人ハ迫モ弁護士ト思ハヌカ故ニ人違ト云タルモ洪川ノ書生杯来リタルニヨリ本統ノ菊池ナルコトヲ覺リ職業違ノ遁辞ヲ設ケタルニ相違ナシ決シテ案内ノ違約ニ非スト成程左様聞ケハ左様ト思ハル扱俄ノ棧敷一件ニ付キ下女ハ板場<sup>〔帳場ト同意〕</sup>ニ問フタラ<sup>〔抹消〕</sup>予約ハ<sup>〔抹消〕</sup>棧敷杯ハ無ク着到次第席ヲ貸スヲ以テ予約ハ無駄ナル由ナリト後レバセノ報告ヲ為シタリ俄場内ノ様子ハ今年一月モ見テ知り居<sup>〔抹消〕</sup>レ<sup>〔加筆〕</sup>ハ<sup>〔抹消〕</sup>コソ注文シタレニ階ノ下ニハ芸妓同伴ノ客杯座スル席アリ何レモ日ノ中ヨリ予約借入ル、趣俄ノ帳場ニテ確カニ聞テ知レリ貴様等ハ真ニ灯台下暗ナリトテ小言ヲ云フテモ最早時刻後レテ今更借受モ<sup>〔抹消〕</sup>ナリ<sup>〔抹消〕</sup>難<sup>〔抹消〕</sup>覚束ナク此ノ如キ不都合ナル輩ニ頼テハ埒明マシト思ケレハ遣ハサント云フ使ヲ差止メタリ晩食後直チニ人力車ヲ命シテ学友ト共ニ俄場ニ入りハ最早大入ニテ漸ク二階ノ追込席へ着キタリ中年ノ男カ<sup>〔加筆〕</sup>始<sup>〔抹消〕</sup>メ<sup>〔抹消〕</sup>テ妻ヲ迎フルコトニ決心シタルニ媒酌人ノ<sup>〔抹消〕</sup>抑<sup>〔抹消〕</sup>付ニテ誤テ<sup>〔抹消〕</sup>ヨ引受クルコ

(32)

ト、為ル趣向ニテ相替ラス願ヲ解カセタリ尚ホ二幕アリトノコトヲ隣座ノ人ニ聞札シタル上同行者ハ<sup>〔抹消〕</sup>下足札ヲ持去リタ切り一向ニ歸リ来ラス<sup>〔抹消〕</sup>席ヲ立テ階下ニ行タリ初ハ小便所ナラント察シ居タルニ歸リ遅キ故席ヲ見廻ハスニ帽子ヲ初メ彼ノ持物ハ一切ナク又下足札モ見ヘス然ラハ予メ下足ヲ取戻スカ為メカト云ヘハ未タ二幕アルコトナレハ余リ早手廻ナリ且夫ニシテモ尻カ遅過キル顧ミレハ院友ト聞テ忽チ旧識ノ突合ヲシタレト千数百人ノ院友ノコトナレハ日常東京ニテ顔見合ハス連中ノ外ハ実ハ吾方ニ面識ナシ同行者モ此種類ノ一人ナレハ果シテ院友ナリヤ否ヤモ分ラス或ハ資格ヲ詐リテ交ヲ求メ来リ今ハ吾下足札ナシニハ歸リ得ヌコトヲ知テ態ト巴レノミ先ツ去リ吾旅宿ニ至リテ吾命ヲ矯メ杯シ何カ悪事ヲ働ク校槍者ナラストモ定メ難シ去レト今更致シ方<sup>〔加筆〕</sup>ナ<sup>〔抹消〕</sup>ク又夫カ為メニ此面白キ物ヲ觀スニ歸ラレモセ<sup>〔抹消〕</sup>ス<sup>〔加筆〕</sup>ト<sup>〔抹消〕</sup>不<sup>〔加筆〕</sup>ハ<sup>〔抹消〕</sup>一向幕ノ明ヲ待居タルニ嫌疑者ハ兩人ノ下駄ヲ持テ漸ク歸リケレハ窃カニ安心スル間モナク火事ヨ近火ヨリ噪キ立ツ我等ハ周章テモ<sup>〔抹消〕</sup>ス<sup>〔抹消〕</sup>出口塞カリテ出ラレヌコトヲ知り且見度欲張アルヨリ落着テ些トモ動カ<sup>〔抹消〕</sup>ス<sup>〔加筆〕</sup>リ<sup>〔抹消〕</sup>シモ口上言ノ者幕前ニ現ハレ出テ近火ニ付キ今晚ハ此限リト情ナキ引導ヲ渡シタリ此上落着居テモ致方ナケレハ場ヲ出テ途中ヨリ<sup>〔抹消〕</sup>相<sup>〔加筆〕</sup>乗<sup>〔抹消〕</sup>ニテ<sup>〔抹消〕</sup>旅宿ニ戻リタリ運ノ悪ルキトキニハ悪ルイモノニテ床ニ就タハ宜シカリシカ隣部屋モ

七

三階ノ室モ絃歌湧カサレハ粹話艶談喧シク芳約整ハサル者ハ夜半過マテ〔八〕手ヲ拍チ灰吹ヲ叩キ廊下ヲ歩キ廻リ仲居下女外ノ者ニ迄迷惑ヲ懸ケタリ翌朝控訴院ニテ聞ケハ竹式ハ評判高〔キ〕〔ケ〕レ任今ハ諸事前程行届カス且携帯ト称スル主義ヲ守ル人種ノ〔輻湊〕巢窟ト為リテ真正殊ニ独身ノ旅客カ足ヲ伸フル処ナラ〔ス〕〔又〕趣左モアルヘシ〔何モ〕〔抑モ〕竹式ノ門口ニ下車シタル以來三度失望シタリ第一ハ無案内ト聞シトキ第二ハ俄ノ棧敷ノ注文聞カレサリシトキ終〔三〕〔八〕夜半ノ騒カシカリシトキナリ兎モ角再ヒ此家ニ来泊セントノ意ハ聊モ萌サ、ルコト、ナレリ

控訴院ノ用事ハ思ノ外早ク済タレハ急キ旅宿ニ帰テ昼食ヲ調ヒ兼テ買置キタル蕪ノ千枚漬三樽トカバンヲ携テ梅田ノ停車場ヘト人力車ヲ馳セ〔タリ〕〔首尾〕能ク午後一時過ノ列車ニ乗込タリ〔右ニテ竹式ノ滞在〕明日ハ名古屋控訴院ニ用事アレハ大嫌ノ夜汽車ニ乗テモ行ネバ成〕明日ハ名古屋控訴院ニ用事アルニ大坂ノ用済ハ午後三時頃ナルヘク左スレハ大嫌ノ夜汽車ニ乗ラ〔サレ〕〔不〕ハ成ラヌト覚悟シ居タルニ因ラスモ此苦ト竹式〔長居ノ迷惑トヲ免カレ嬉シキコト大方ナラス吾乗込タル列車ハ米原止リノモノナレ任草津ニテ関西鉄道ノ名古屋行終列車ニ連絡スルカ故〔二〕乗換ノ面倒ハアレトモ夜汽車ニ勝ルコト万々ナリ又梅田ニテハ名古屋迄ノ通シ切符ヲ売ラサレハ四日市マテノ分ヲ買フ

(3)

タルカ故ニ同駅ニテ名古屋ヘノ切符ヲ買足シ荷物ヲモ預ケ直サネハ成ラヌ訳ナレ任既ニ関西鉄道線内ニ入レハ同鉄道会社ノ御客様ニテ汽車付ノ役員等モ快ク世話シ呉ル、カ故ニ格別ノ不都合モアルマシキコト此正月ノ経騒ニ徴シテモ知ルニ足レリト胸算ヲ定メタリ京都迄ハ同地ノ同業者法学士吉田佐吉モ同乗ナリシカ故ニ話相手〔七〕〔ア〕リテ退窟ヲ覚ヘス京都ヨリハ同車人ハ吾ノ外ニ唯一人今迄ノ多人数ト打テ変リ甚タ淋シカリシ大津ニテ弁当ニ散ラシ鮎ヲ仕入レ草津ニテ茶及ヒ名物姥ケ餅一箱ヲ買求メテ緩々晩食ヲ為シ又寒サ凌キニ近來大流行ノ小瓶ノ正宗酒ヲモ賒ナヘレハ同乗ハ矢張唯一人ナリシモ別段退屈モセサリシ同乗者ハ越後生レノ北海道商人ニテ四日市迄行ク者ナリケレハ同駅迄或〔八〕談シ或ハ眠リテ進ミタリ四日市ヨリハ只一人残サレタレ任名古屋ノ行程近ケレハ辛抱モシ易〔カリシカ〕〔ク且切符〕ハ買繼ク暇ナキカ為メ下車ノ折乗越分ノ賃ヲ払フコト、ナリタレ任手荷物ハ首尾好ク預ケ繼キタレハ大ニ安堵シ聽テ桑名其他ノ駅ヲ経近頃設置セラレタル愛知停車場ニ至レハ湯タンポモ唾吐壺モ取除ケラレ恰モ無造作ノ貸家住居ノ景色ト為リ名古屋停車場ニ着テ見レハ吾ノ外ニ下車人アリトモ覚ヘス愛知ニ待受ケモ人力車ノ数多カリシニ引換停車場前ニハ車ノ影タニモナシ剩サヘ乗越賃金ノツリ銭ヲ持来ルヘシトテ引込タル役員ハ待テトモ待トモ出来ラス夜ハ既二十一時

(34) 二四

ヲ過キテ夜風ハ意地悪ルク吹廻(抹消)折(加筆)ニ電気  
(抹消)〔数モ減シテ影薄暗キ〕(加筆)〔灯ノ光洩サエタル〕広場ニ佇ム  
 コトノ氣ノ利カヌ加減サ吾ヲシテ幾ントツリ錢領受ノ  
 權利ヲ抛棄セシメタリ

九 名古屋ヨリ帰ルゑきモ亦陸中ノ湯治場ヨリ帰京ス彼  
 ノ頭瘡尚ホ未タ癒ヘサルニ眼モ悪シク為リ掛リシカ為  
 メ急キ戻リ来レル由

一六 水害所有地ヘ対シ見舞料ト称シテ日本鉄道株式会社  
 ヨリ三三(朱点)八九郡役所ヲ経テ一昨日差越シタルニ付キ  
 歛頭藤村助次郎ヘ給与シタル由(朱書)〔五日付武平〕

二二 仙台ノ帰ルサ福島表松葉館ニ一泊ス久シク東京ニ在  
 リシ横田歛太郎カ近頃福島県庁ヘ転任シタルカ湊芳蔵  
 ト共ニ来訪シ晚餐ヲ為シ深更マテ談シタリ仙台ニハ磐  
 城平町ヨリ新田目善次郎盛岡ヨリ横濱幾田慶来リ合セ  
 居タルニ横濱、新田目、湊ハ曾テ吾住宅若クハ事務所  
 ニ寄寓セシ者横田モ長ク且親シク交際セシ者ニテ  
(抹消)〔斯ク〕一緒ニ落合タランニハ尚ホ面白カラント其夜電  
 信ヲ仙台ニ發シタル処横濱新田目ハ来会スヘキ旨ノ返  
 電ヲ為シタルニ因リ翌日滞留スルコトニ決シタリ翌夕  
 八時頃仙台ヨリ二人来着横田モ亦来リ酒酌交シテ夜半  
 マテ笑興シタリ唯湊カ細君分婉シタルカ為メ約ヲ履シ  
 兼タルハ残多カリシ横濱ハ夜半(ママ)ノ汽車ニテ盛岡ヘト出  
 発セリ翌二四日朝新田目ト共ニ福島ヲ出發シテ郡山マ  
 テ同行シ此駅ニテ彼ハ下車シ吾ハ夜八時過歸宅セリ

二五

猿館亀吉所有下飯岡一六地割三五番字南谷地田反別  
 四畝一歩地価金四(朱点)八六一小作米三斗七升ニテ金三  
(朱点)八〇〇〇ニ買受ケ呉ル、様頼出ノ由同人ハ今年ノ小  
 作米ヲ完納セス且不当ナル引米、延納ヲ申出アレハ此  
 等ノ申出ヲ引込メルナラハ買遣シテモ宜シキ旨答ヘタ  
 リ今後山役錢ハ炭一籠一个年金三〇〇(朱点)〇〇(朱点)〔從來二  
(朱点)〇〇〇〕真木一間(朱点)三三五(朱点)〔從來〇二〇〕ニ協議  
 改正シタル由尤モ真木代ノ内〇〇(朱点)〇二五ハ水害及ヒ堰  
 類修繕費ニ充ツルカ為メ積立置クトノ事  
(朱書)〔武平二四日付〕

二九

日本鉄道株式会社ハ過般水害ニ罹リシ線路添ノ所有  
 地中向中野一六地割二七番一ノ一字鶴子田二反三畝二  
 六歩ノ内田四畝二九歩ヲ代金一〇四(朱点)三三〇ニテ買受ケ  
 度旨申込ミタル由代価ハ一反二二〇(朱点)〇〇ノ割ニテ地  
 主等モ協議ノ上承諾シタル趣右地所残リノ分ハ木立下  
 ニテ思ハシカヌノミナラス又水害ヲ蒙ルノ惧アル場  
 所ナルカ故ニ全部譲渡シ度其外同地割一二ノ二(是ハ  
 誤リニテ二七ノ一田四畝九歩ノ内ナル由後ニ申シ来  
 ル)田二九歩ハ二丈余モ水堀ト為リタルニ付キ此場所  
 毛買入貫度旨申シ来ル(朱書)〔武平二八日付〕

(朱点)例年ノ通武平ヘ歳暮トシテ金一〇〇〇〇差送り且国許  
 収納米穀ノ内糯米半俵蕎麦一駄小豆五升ヲ贈リ横濱幾  
 慶嶋田善躬ヘ各小豆五升遠畑クラ(吾乳母)戸田マサ  
(多キ乳母)ヘ各糯米四升六合二勺五才贈リ呉ルヘキ

旨申シ遣ル

明治三〇丁酉年

日月

一

一 年賀ノ為メ參内シタルニ御風氣(抹消)付(加筆)キ拜謁ナシ旧藩主南部伯及ヒ親族ヘ廻礼ス

二

歳暮年始ノ休暇中旅行セントノ念慮モ無カリシカ不  
 図去ル三十日頃ヨリ話始マリ互ニ面談ノ折ナケレハ手  
 紙ニテ問答シタル結果今午後十二時半新橋停車場ニ集  
 合セントノ約束丈ハ成立タ(リ)吾モ約(抹消)「レトモ同行」ハ  
 果シテ誰々ナルヘキヤ指テ行衛ハ何処ナルヘキヤ集合  
 ノ時ナラテハ更ニ不明ナルソ奇ナレ吾モ約ヲ履テ到  
(抹消)「リ」見レハ藤田隆三郎高橋捨六羽生(抹消)「氏」顯親ハ先  
 着シ居タリ然ルニ発車時刻ニハ纔カニ五分ヲ欠クノミ  
 ニテ切迫ノ場合行先ノ決定ハ拙嗟ノ間ニ行ハサルヘカ  
 ラス或ハ国府津或ハ箱根塔ノ沢又ハ(抹消)「静」興津若クハ静  
 岡杯四人四色ノ注文アリタレ何分猶予シ難ケレハ兎  
 毛角モ興津ヘノ乗車切符ヲ購フコト、定メ忽チ紺色ノ  
 切符四枚ヲ買入レ分配シテ辛ク列車ニ乗込タルニ馬場  
 愿次伊藤悌次ハ遂ニ来ラサリシ我等力乗リタルハ横ニ  
 四行ノ座ヲ列ネタル旧式ノ車ニテ我等ハ(後部)北ニ

一一〇

面(抹消)「テ」(スル)座ニ就キタルニ向ノ座ニハ和田垣謙三  
 等アリ其西端ニハ職人頭ノ子息トモ覺シ(キ)「ク」紺ノ  
 股引腹掛ノ上ニ新調ノ赤線入縞木綿々入ニ対ノ羽織ヲ  
 着(天)紫天鷲絨ニ金糸ノ縁飾アル鳥打様ノ帽子ヲ戴キ  
 麻裏草履ヲ穿キタル十五六歳ノ児供乘リ居タリ和田垣  
 等ノ座ノ上ニハ例ノ網底ノ釣棚アリテ種々ノ手荷物カ  
 置キタル中ニ着替(下)「覚シキ」(加筆)「ヲ包ミタリト  
 覺シキ汚レタル風呂敷包ヲ鼠色(下)「ア」アラネ左リ  
 紺白色トモ称シ難キ木綿兵(見)「帯ヲ以テ」中結ト  
(為)シテ縛リ其餘端カ不権衡ニ長ク垂レテ座ニ在ル者  
 ノ帽子ニ触レン計リノ勢ヲ呈スル一種異彩ノモノアリ  
 吾モ人モ口ニコソ出サネ皆児僧ノ手荷物ト胸推量ヲ定  
 メ居タルモノト見ヘ横浜ヲ過キ(見)「僧ノ居ラヌヲ発  
 見」(ス)ルヤ異口同音ニ児僧カ遺(ル)忘レタリト  
(達見)「云出シ誰一人此達見ニ反対スル者モナク一体  
 中等ニ乗リタルハ不相応ノ所為ナルカ故ニ此ノ如キ災  
 ニ遭フナリ杯ノ評論サヘ出タレトモ何分氣ノ毒ナレハ  
 忘レ物アル趣列車付ノ鉄道局員ニ報告スル方然ルヘシ  
 トノ穩当説ニ一決シ程ケ谷駅ニ着クヲ遲シト待構ヘ申  
 報委員ニ選定セラレタル者カ硝子窓ヲ開ケ鉄道吏員ヲ  
 呼寄セ最モ親切ナル声色ニテ右ノ始末ヲ告ケ運搬掛ハ  
(棚)「ヨリ卸シ」大功德ヲ施ス者ノ面持ニテ彼穢ラシキ包  
 ヲ(棚)「ヨリ取卸シ」吏員ニ渡サントスル途端同車ノ前部  
 ナル座ニ在(ル)「リ」タル判任官ラシキ男ハ此有様ヲ見

テ大ニ驚キ何事ソ夫ハ吾荷物ナリト〔大〕〔高〕声ニ喚キ  
 立タ〔ル〕レハ大慈大悲ノ観音連〔ハ〕〔モ〕今更甚夕極リ  
 悪ク左様ナリシカ〔トテ〕失敬ノ段ヲ詫タルハ〔最モ〕面  
 白カリシ〔有為〕転変ノ浮世トテ是非ナキ次第ナリシ去  
 レト心無キ輩多ケレハニヤ車中ハ暫シ笑動揺メキタリ  
 大磯ヲ過キタル頃〔ヨリ〕宿泊地ニ付テノ議論起リ最早  
 乗飽キタレハ国府津ニ泊シテ徐々ニ落着先ヲ評決  
 〔シ〕〔七〕ントノ意見ニ対シ一タヒ足ヲ近キニ憩フトキ  
 ハ迎モ遠方ヘ達シ難キカ故ニ寧口興津ヲ越ヘテ静岡マ  
 テ行カントノ議アリ或ハ佐野ニ下車シテ瀑ヲ觀ント云  
 ヘハ夫ニテハ同所ヨリ興津マテノ賃錢ヲ抛棄スルコ  
 ト、ナルニ抛棄スル方ノ金額ハ反テ利用シタルモノヨ  
 リ多シトノ反駁アリ兎モ角モ差掛ケ興津ニ至リテモ時  
 節柄旅宿ニ好マシキ室アルマシク且着時刻モ思ハシカ  
 〔ス〕〔ラ〕ストノ理由ニテ興津泊リハ誰モ主張セス詰リ  
 折衷ニテ沼津ニ下車スルニ一決シタ方同所ニ着テ見レ  
 ハ正月休ミニテ人力車ナシト云フ元來沼津ト決シタル  
 ハ其奥ナル静岡ノ保養館ニ至ランカ為メナリシニ此  
 〔状況〕〔情報〕ニ接シテハ失望ノ外アルヘカラス然ルニ  
 偶々保養館ノ番頭ナル者ニ逢タレハ我意ヲ告ケテ車ノ  
 周施ヲ頼ミタルニ固ヨリ否ムヘキ筈ナク暫時此処ニテ  
 休憩シ呉ルヘシトテ出張店ト称スル家ニ導キ入レタリ  
 今ヤ遅シト待居タルニ曳手ハ祝酒ヲ吞ミ居ル由ニテ中  
 ヲ寄来ラス余リ待遠サニ町内ノ旅人宿ニ泊ラントノ異

三

論稍勢力ヲ得ントセシカ幾ント一時間半計リ経テ人力  
 車四輛漸ク揃タレハ打連レテ出行タリ稍一里半モ来レ  
 ルカト思ハル、頃右側ノ広庭ヨリ藁葺門ヲ入テ保養館  
 ニ着タルニ玄関ニハ前刻ノ番頭及ヒ女中共出迎ヒ夫ヨ  
 リ長廊下ヲ伝ヘテ奥マリタル座敷ヘ案内セラル見レハ  
 八畳ニ六畳位ノ二間統ニテ六畳間ニハ押入アリ其椽ヲ  
 折曲リタル処ニ便所アリテ自ツカラ一廊ヲ為シ総テ建  
 築後間モナキ様子ニテ居心甚タ好〔シ〕〔ケ〕ヘハ一同大  
 ニ安堵シ沼津町ヨリ態々此所マテ来リシコトノ幸サヨ  
 トテ痛ク悦ヘリ

朝霜ヲ踏テ浜辺ニ出テ見レハ前面静岡ノ海上波隠カ  
 ニシテ鏡ノ如ク汀ノ細沙ヲ洗フ浪ノ音〔遠〕松風ノ如シ  
 左ニハ西郷島ト称スル小島カ池中ノ築山ノ如ク〔鬱蒼  
 タル〕浜辺ナル西郷侯ノ別荘ノ鬱蒼タル松林ト相對シ  
 後ニハ文人画流ノ山相連ナリ右手ニハ出島〔ノ〕ニ似タ  
 ル牛臥、我入道ノ海水浴場アリテ山腹山麓ニ家屋ノ散  
 在スル様ハ稍江ノ島遠景ニ似寄ル所アリ尚ホ視線ヲ進  
 ムレハ田子ノ浦辺ニテモアランカ一帶ノ松林長ク連ナ  
 リテ之ヲ見越ス富士山ハ朝暾ヲ〔受ケテ〕鮮カナリ実ニ  
 静岡ノ名空シカラス〔トテ〕一体ノ風光閑靜ニシテ優美  
 ナリ漁師ノ地引網〔ヲ〕曳クヲ見レハ穫ルモノハ白子  
 〔ト〕〔ノ〕ミナリ景色、境遇ノ閑清ナルニト人皆〔心  
 ヲ奪ハレタレ〕給仕〔ノ〕〔スル〕下女ノ態度カ氣ニ入ラ  
 ヌトテ滞留ノ説行ハレス出立セントスレハ宿ノ者等力

(37)

車便ノ無キ旨ヲ告ケテ足ヲ繫カントス左〔採消〕〔加筆〕ハ停車場マテ歩行セントテ強テ勘定ヲ命シタレハ不思議ヤ四輛ノ人力車忽然トシテ現ハレ来リ打乗リテ皇太子殿下ノ御殿前ヲ経〔採消〕沼津停車場ニ着十時頃同所発ノ列車ニテ静岡ヘト赴キタリ静岡ニテ昼食ヲ調ヘ且藤枝在ノ鉱泉場ノ容子ヲ尋ネタルニ評判宜キ故ニ時頃ノ列車ニテ焼津ヲ経テ藤枝停車場ニ下リ街道ニ入り左ニ折レテ青島村字監湯ヶ谷ナル志太鉱泉浴場〔採消〕〔加筆〕生館ニ着ク停車場ヨリ凡ソ二十二三町ナルヘシ館ハ小山ニ包マレタル狭キ谷間ニ在ルニ階造ノ家ニテ前面ニ池アリ其側ニ見苦シキ小形ノ瓦斯溜アリ池中ニ吹出ル瓦斯ヲ管ニテ此中ニ導キ更ニ此処ヨリ室内ニ引キテ点火ノ用ニ供スルハ風変リニテ面白ケレトモ火ハ青色深クシテ光力強カラス又臭氣アリテ愉快ナラス鉱泉ハ微温ヲ帶フル由ナレトモ沸サ、レハ入浴ニ適セス例ノ通り分析表効能触アリタレトモ何シ口塩氣アリテ昔ヨリ生疵ニ適応スルト〔採消〕ノ評判高キ趣ナリ此地方ニモ近頃淨溜理流行ルト見ヘテ藤枝宿辺ノ天狗連ノ催アリ見台紋付肩衣丈ハ尤ラシケレトモ我々サヘ仲間入出来ソウタト噂シ合ヘル程ノ上手共ナリシ初我等ハ表ニ階ニ案内セラレテ入り見レハ穢シト称スル程ニアラネトモ〔採消〕〔加筆〕幾ント不潔ナラントスル有様ナリシカ廳テ奥ニ階ノ一等室ニ移サレ入浴セント云ヘハ暫ラク待チ呉レトテ特別ノ浴室ニ湯ヲ沸カシテ入ラシメ晩食ノ支度杯ハ余程

(38)

## 四

意ヲ用タリト覚シク他室ノ客ヨリ一時間モ後レテ持運ヒタル膳部ハ空腹ナリシニモ拘ハラズ割合ニ甘カラネトモ居室モ小奇麗ナリ処ハ小ナレト如何ニモ閑静ニシテ自ツカラ別世界ニ入りタル心地セラレ〔採消〕〔加筆〕下女ニ差シテ愛嬌ナケレト又氣障ノ廉ナケレハ各望外ニ満足ノ趣ナリ此取扱向ノ変シタルハ大東館ヨリ当館ニ宛タル案内状ニ貴族院議員会云々ト記シアリタルニ因ル〔採消〕トノ説アリシ

天氣晴朗暖氣愈加ハリ心モイト、長閑ナレハ朝餉了リテ後旅宿ノ者ノ勸メニ任カセ貸呉レタル大キヤカナル双眼望遠鏡ヲ携ヘ屋後ノ細道ヲ山上ヘト踏登レハ高シトニハアラネト徒歩慣ヌ人カ息切スル程ハアリ絶頂ニハ一度繕ラヘタル休息所ノ荒墟アリ山下及ヒ南方ノ景色頗フル佳ナリ異ナレル途ヲ採リテ下ラント殆ント途モナキ所ヲ草原笹藪ノ嫌ナク西ヘト行キタルニ葉梨トヤラヘ通フ街道ヘ出テ左ニ折レテ行ケハ旅館ノ前面ニ〔採消〕〔加筆〕〔採消〕〔加筆〕モノナリ折柄〔採消〕〔加筆〕西洋種ノ黒犬一疋現ハレ出タルニ其形ノ小サヤカナルコト実ニ希代ナリ何ト思ヒケン我等ヲ見テ頻リニ吼ケレハ大男ノ羽生ハ尻端折パッチノ装ニテ〔採消〕〔加筆〕彼大望遠鏡入ノ筒ヲ提ケタル左手ト共ニ右手ヲ奴風流ニ張出シ両足ヲ一斉ニ擧ケテ跳リツ、ワン／＼〔採消〕〔加筆〕ト小犬ノ声色ヲ真似テ追駈ケル様愛嬌アリ「坊ちゃん御成人」ノ風ヲ脱セストノ評アリシ場所意ニ適ハサルニ非サレトモ



明日中ニ帰京シタシトノ希望ヲ懐ク人ト早ク静岡ニ泊  
 リタシトノ念ヲ催セシ者アリシカハ午後打立ント決心  
 シ昼飯ニハ牛鍋へ餅ヲ入レテ散々食タル上阿部川餅ヲ  
 モ数多ク嚙リタレハ貴族院議員ノ資格ニ抵触セスヤト  
 ノ評起レリ規愈出立ト為リタルニ茶代ノ額ニ付キ衆議  
 紛々又候貴族院議員ノ触込ニ対シテモトノ軟派アリ杯  
 シテ漸ヤク成リタル決議ニ従カヒ紙包ヲ差出シタルニ  
 何ソ料ラン番頭夫婦トモ主人ノ申付且ハ規則ナレハ逆  
 絶チ受納スヘキ色見ヘス成程旅籠代ノ内訳ヲ見レハ席  
 料ナル目アルニ相違ナケレトモ誰人モ厭フ茶代ノ制度  
 ヲ斯程強硬ニ排斥スルハ珍シクモ殊勝ナリ彼茶料ヲ受  
 納セサルカ故ニ我〔無拗亦〕〔ハ〕〔加筆〕彼ノ励行ヲ嘉納シテ無  
 拠紙包ヲ撤回シ曰ク前刻ノ議論ハ丸テ無ダツタナ  
 帰途藤枝宿ニ廻リテ名物ノ〔香〕漬物ヲ買入レントノ説  
 ヲ為ス者アリケレハ如何ナル種類ノ漬物ナリヤト尋ラ  
 レテ説者答フルコト能ハス一向ニ名物ナルカ故ト云フ  
 ノミナ〔リ〕〔レ〕ハ賛成者ナク人力車ハ直チニ停車場ニ  
 着ケルニ切符ヲ買ハントスレハ上中等ハ売ラスト云フ  
 次第ハ今来ルヘキ列車ハ混合列車トテ荷車ニ客車ヲ附  
 シ荷物運送ノ序ニ客ヲ便乗セシムル趣旨ナル由依テ赤  
 札ヲ以テ乗込見レハ車体モ穢カラス乗合モ寡ナク静岡  
 マテハ丁場モ短ケレハ仕合ヨシト思ノ外生来始メテ下  
 等汽車ニ乗リタリト〔ノ〕言ヲ繰返シテ他ノ乗客トハ身  
 分ノ異ナルコトヲ〔類リ〕〔ニ〕暗示スルニ勉ムル者モアリ

(39)

シ蓋シ書生時分ニ乗車シタルコトヲ忘レタルモノナル  
 ヘシ静岡ニ着タルトニハ日尚ホ高ク長生館ニテ屢入浴  
 シタレハ風呂ニモ氣ナク散々餅ヲ荒ラシタレハ腹ハ中  
 々減ルヘクモ見ヘス何トナク氣重クシテ或人ハ山登ノ  
 疲〔合〕出タル旨ヲ語レリ此〔瘡〕情氣ヲ攪破シテ晚餐ヲ  
 甘ク味ハントノ目論見ヨリ有名ナル二長町トヤラヲ見  
 物セントノ動議ハ提出セラレ又多数ハ賛成〔七〕〔シ〕又  
 イザトテ打連立チテ旅館ヲ出稍二十町モ歩ミタラント  
 思フ頃彼ノ廓内ニソ入ケル時刻ハ五時半ヲ過キ黄昏近  
 ケレトモ各樓〔瓦〕〔集〕影モ無シ聞ケハ六時ヲ過ネハ出  
 現ナキ由稍十分モ漾ヨヒ居タルニ追々ボンボリニ火力  
 点セラレ黒塗蒔絵ノ煙草盆カ持出サレ〔種〕燦爛タル打  
 掛カ着飾ラレタリ蓋シ正月ナレハ衣裳ハ殊ニ晴ヤカナ  
 ル次第ナラン容姿ヤ服地ノ品評ハ之ヲ為ス者野暮ナリ  
 唯何トナク古式旧形カ多ク存スルナラメト想ル、ソ床  
 シキ樓ニハ三層ノモノ二層ニテ広大ナルモノアリ今日  
 ハ消防夫ノ出初ノ由ニテ勇ミ連ノ入来殊ニ多カリシ帰  
 途トアル山葵漬屋ニ立寄りタルニ幸ニシテ市内第一等  
 ノ漬屋ノ由ナレハ辛物嫌ノ余スラモ土産ニト一曲物買  
 取りタリ山葵ハ細長ク刻〔メ〕〔ル〕〔テ〕糍ニ漬アルト見  
 へ〔テ〕飯盛ル杓子ニテ曲物ニ詰メ込マレタリ静岡停車  
 場ニテ売捌カル、山葵漬ハ此店ノ製品ナリト店主ハ語  
 レリ

異種ノ綺羅眼ニ映シタルカ為メ腹ノ落着加減好ク晩飯

五

ノ口ニ適スルハ調理ノ巧ミナルカ為メノミニ非ス食後  
 一大變動起レリ市ノ呉服屋奥野彌太右衛門ハ余ヲ訪来  
 リ其義弟ナル戸塚忠次宅ニ立寄り兎狩ヲ見物センコト  
 ヲ勸ム余ハ同行者アルヲ以テ断ハリタレト異議ナクハ  
 同行者ヲモ同伴シ呉レトテ尚ホ誘フカ故ニ退テ同行諸  
 氏ニ謀リタレハ一段下面白カルヘキ旨申サル、ニ付キ  
 奥野ヲ諸氏ニ紹介シテ兎狩ノ手筈ヲ協議ニ及フ彼ハ一  
 日ノ猶予ヲ請ヒ明日ヲハ久能山廟(蓮花)龍華寺、清水  
 町等ノ見物ニ費ヤサント議ス異議ナク其事ニ決シテ寢  
 二就ク

朝九時過奥野トモ人力車五輛ヲ列ネテ久(抹消)野(加筆)能(加筆)山  
 ヘト出立ス凡ソ二時間ニシテ山麓ナル茶屋ニ達シ直チ  
 ニ登山ス幾百ノ石段左ニ折レ右ニ曲リ(加筆)突(加筆)兀(抹消)タル  
 孤山ノ頂二人ヲ導ク参詣人(抹消)ハ(加筆)ノ息ハ切レルモ  
(第二)頂上ノ景色ハ優ニ攀登ノ勞ニ酔フ聽テ社務所ニ  
(抹消)到(抹消)レハ奥野ハ何程カノ案内料ヲ出シタルモノト見  
 ヘ社人出来リテ先ツ右手ナル宝庫を拝觀セシメ同シ方  
 角ノ門ヨリ導テ社殿ニ詣ル欄間堂角等ノ木彫ニハ例ノ  
 如ク彩色ヲ施シアレト其他ハ廟扉ニ迄ルマテ黒臘塗ニ  
 金色金具ヲ用ヒ頗フル蔽肅ナリ廟扉前ノ階下ニ札拜シ  
 テ広間ニ戻レハ社人ハ瓦蓋銚子ヲ持出シテ神酒ヲ供ス  
 味ハハ屠蘇入味醪酒ナリ蓋シ正月ナルカ故ナラ(加筆)又紙  
 包ヲ頒ツ窃カニ開キ見レハ古臭キ餡入ノ落(雁)ナリケ  
 リ(更)ニ進テ堂後ノ山上ナル石廟ヲ觀レハ笠石ヨリ台

(40)

石際マテニ石ナリト云フ帰テ社務所ニ憩ヘハ座ヲニシ  
 テ浜辺ヲ瞰下ロシ又広々シタル太平洋ヲ望ミ景色特ニ  
 佳ナリト云フニハアラネト胸間自ツカラ爽快ヲ覺フ石  
 段下ノ茶屋ニ小憩シテ更ニ人力車ニ打乗行クコト数丁  
(抹消)車(抹消)ヲ左ニ細キ(抹消)別(加筆)分(加筆)レ路アリ車ヲハ本道ヲ廻ラシ  
 メ徒歩ニテ此途ヲ問リ行クニ初ノ程ハ道幅モ広ク車ヲ  
 伴ハサリシコトヲ悔ユル者アリシカ追々作場途ノ様ヲ  
 呈シ果ハ徒歩(加筆)者(加筆)スラ傍見出来ヌ仕合トナレリ暖氣ハ  
 時候外レニ強ク時刻ハ十二時ヲ過(抹消)ケレハ(加筆)キ殊(加筆)ニ久  
 能山ノ石段ヲ上下シタル計リノ処ナレハ僅カニ里余ノ  
 路程ナランナレト疲レヲ覺フル者アリシ(抹消)強テ無理ト  
 モ思ハレス堤ノ如キ処ヲ越ヘテ左ノ山手ニ向ヘハ漸  
 クニシテ龍華寺ニ着ク小坂ヲ登テ寺門ヲ入レハ前庭ニ  
 巨木ナル霸王樹(サボテン)アリ例ノ黄瓜(キ)ヲ圧シ平メタルカ如キ枝  
(加筆)大小五百遠慮ナク(加筆)二間(加筆)四方に蔓延(抹消)コ(加筆)リ(抹消)レ(加筆)リ近  
 寄テ見レハ樹面ハ文字ヲ以テ(抹消)口(加筆)填(加筆)メラル読来レハ  
 尽ク来觀人(抹消)カ其(加筆)住所氏名ナリ又蘇鉄アリ其数ハ  
 和泉国堺ノ妙国寺ノ分に及ハサレト其大サハ彼ニ過ク  
 ル様ニ見受ケラル幹ノ廻リ一丈六尺枝数五十八ト注セ  
 ラル又長蘇鉄トテ二丈六尺余ナリト云フモノアリ猶ホ  
 石段ヲ登レハ七面堂アリ此処ヨリ前面ヲ望メハ清水町  
 ハ眼下ニ在リ左ハ奥津ノ清見寺ヨリ薩陀峠富士山右ニ  
 寄テ三保ノ松原アリ清水湾内大小ノ船舶ヲ併セテ一眸  
 ノ中ニ収ムヘシ(抹消)眺(抹消)メハ(抹消)飽(抹消)ネトモ午後二時ニ近

(41)

ケレハ腹ハ飢タルニ相違ナク衆皆期セスシテ下山ヲ急  
 キ門前ヨリ〔抹消〕彼ノ廻ハシ置キタル人力車ニ乗リテ清  
 水町ノ西北端ナル潮陽館ニ着ク着後膳部ノ出ルマテニ  
 ハ冀ヘシヨリ余計ノ時間経チタレハ肴ハ出ルカマ、ニ  
 直チニ腹内ニ葬ラレ食ヘシ本人ハ味ノ如何ハ扱置キ物  
 ノ何タルヲモ弁マヘサリシ空腹俄カニ充チテ睡氣自ツ  
 カラ生シ来会セタル主人戸塚忠次其代理トシテ静岡ヨ  
 リ案内シ来レル奥野弥太右衛門ヘノ会釈モナク〔加筆〕横  
 ニ仆レタル俣〔抹消〕忽チ華胥ニ遊ヒタリ夕方目覚ムレハ  
 主人モ案内者モ去リテ影ナク明朝八時迎ニ来ルトノ伝  
 語ノミソ遺レル沐浴シテ夕膳ニ向ヘハ昼飯ノ晚〔抹消〕  
 〔加筆〕ナリシ故力調理甚タ悪シク思ハレ給仕女ノ世話モ甚  
 タ不行届ナリ折柄表ノ広座敷ニハ何カ高声ノ談話アリ  
 続テ拍手ノ響凄シケレハ何事ナランカト怪ミタルニ今  
 日シモ清水町有志者カ新年宴会ヲ開クトソ聞ユ夫ニテ  
 給次〔マコ〕ニ関スル不平モ和ラキ昼間ノ運動ニテ股若クハ踵  
 ノ痛マヌ者マテモ疲レタルニモヤ食後早々臥床ニ就キ  
 ケリ聴テ十一時ヲ過ル頃誰ヤラ便所ヘト下リ立チ帰リ  
 テ残りノ者共ヲ揺リ起シ扱説キ出ル様今風呂場ノ内外  
 ニ六七人ノ下女アリ此客ノ稀ナル気節ニ於テ繁昌スル  
 様子モナキ此家ニ彼ノ如ク多数ノ女中居ルヘキ謂レナ  
 シ是ニハ何カ仔細アラン諸子審糺ニ意ナキヤト喚醒サ  
 レタル者共沸々小言ヲ云ヒタレ任〔抹消〕サレハトテ急ニ  
 再ヒ眠ラレソウモナケレハ終ニ糺明説ニ同意ヲ表シテ

六

実行の順序ヲ協議セリ先ツ首唱者ヲ除キテハ皆伴リ  
 テ眠ル中独醒者ハ手ヲ拍〔抹消〕〔加筆〕ル処案ノ如ク最初ヨ  
 リ我等一組ヲ受持チタル下女来ル睡就リ難ク徒然ニ堪  
 へ〔抹消〕サレハ迎酒殺ヲ命シ且深キ思召ヲ以テ大枚五十  
 銭ヲ臨時手当ニ供シ仲間ノ女等ヲ伴ヒ来ランコトヲ求  
 メタリ彼唯々トシテ去タルカ先ツ楼下ニテ女中等ノ笑  
 声起レリ聴テカチン／＼ト杯洗、コップ、盃現ハレタ  
 リ酒德利、ビール瓶来レリ香物鉢、煮付豆并出タリ微  
 笑ヲ湛ヘタル湯上リ姿ハ〔抹消〕〔加筆〕ニ居並ヒタリ独  
 醒者ハ計凶ニ当レリトノ面持ニテ飲ミ初メタリ〔抹消〕  
 〔抹消〕隊ヲ相手ニ話シ初メタリ次テ仮眠連ノ掛布団ヲ  
 引捲リタリ起サレタル輩ハ意外ナル形汝ニ〔加筆〕駭キ  
 タル先覚者ノ例ニ倣ヘリ先醒後覚各其長枝ニ由テ実ヲ  
 挙ケンコトヲ競フ中何時シカ新顔ハ消失セテ受持ノ旧  
 態ノミ座ニ残レリ志ノ厚キ者ハ香餌ヲ以テ再ヒ彼等ヲ  
 釣出サント欲シ更ニ相当ノ報酬ヲ与ヘンコトヲ約シテ  
 受持ノ婢ヲ勧諭シタレ任一向ニ其甲斐見ヘサリシ此ニ  
 至テ最初ノ得意顔カ転タ長クナリシハ単ニ先醒〔抹消〕者  
 〔加筆〕ニ止マラサリシモ五十銭ノ非常賞賜ヲ悔ユルノ色  
 ハ稍後覺ニ薄キ様ニ見受ケラレタリ  
 夜来ノ豪雨曉未タ晴レ遣ラス雨中ノ兎狩ハ素ヨリ思  
 寄ルヘクモアラス縦令今朝霽タレハ迎足場滑リテ働自  
 由ナラサルヘケレハ狩獵ハ到底望ミナシ一夜ヲ此処ニ  
 明シタル甲斐モナク実ニ生憎ノ天氣ナリシ約束ノ時刻

(42)

ハ疾ニ過タレヒ戸塚モ奥野モ迎ニ来ラス無断ニ出立スルノモ如何哉トノ注意モアリシカトモ兎狩ノ出来サル事情余リニ明白ナレハ<sup>(加筆)</sup>〔ゴソ〕彼モ無断ニ打過クルナレ<sup>(抹消)</sup>〔氏〕爾モ約束ノ時刻ヲ過クルコトニ時間ニ迄フカ故ニ出立タレハトテ我ニ落度ハアル間敷トノ意見ニ同シ戸塚ノ宅ヘ持参セントテ静岡ヨリ購来レル干菓子一折ニ置手紙ヲ添テ遺シ十時過江尻停車場ヨリ乗車シテ次ナル奥津ニ下リ海水楼ニ入ル昼食ニハ未タ暇アレハトテ巨鼈山清見寺ヘト赴キ石段ヲ登リ鐘楼ヲ過テ玄關ヲ入レハ凶ラスモ同県人坂本安孝ニ出逢タリ旅宿ヲ出ルトキニ案内料ヲ要スル由聞タレハ同行二人ニテ五〇銭モ奮発セントノ腹案ナリシ処懐中ヲ改ムレハ生憎一円以下ノ銭ナク同行ノ羽生ノ懐合モ同様ナリト云フカ故名利ノコトニモアレハ大英断ヲ以テ一円札ヲ案内所ノ卓上ニ展ヘタルニ側ニ在テ此体ヲ見タル坂本ハ溜リ兼タリト覚シク此様ナル事ニハ及ハヌモノト<sup>(抹消)</sup>〔三云〕<sup>(加筆)</sup>〔素早ク札ヲ横取リシ〕<sup>(抹消)</sup>〔テ〕代リニ一〇銭銀貨一粒ヲ投出シテ小坊主<sup>(抹消)</sup>〔ヲ〕ニ早ク案内セヨト催促ス案内所ノ納僧ハ余計ナ世話ヲ焼クモノ哉トノ面持ニテ洪々吾等ノ氏名ヲ寄附帳ヤラ記念帳ヤラヘ記ルシ呉ヨト云タレトモ案内役ノ小僧ハ身ニ直接ノ利害ナケレハニヤ仏頂顔ヲモ為サテ尋常ノ先導方ヲ為シタリ幕府時代ノ朝鮮使節<sup>(加筆)</sup>〔ヤ琉球朝貢使〕カ此寺ニ宿泊セシ縁ニモヤ朝鮮人琉球人カ書シタル額アリ庭ニハ朝鮮ヨリ渡来セリト云フ樹

(43)

七

アリ堂後ニ接近スル崖ニ手入シテ庭ニ作りタレハ瀧モアリ木石モ年月ヲ経<sup>(抹消)</sup>〔夕〕<sup>(加筆)</sup>〔三〕寂タルカ故ニ幽清愛スヘキ趣アリ足利<sup>(抹消)</sup>〔高〕<sup>(加筆)</sup>〔善〕氏カ再興シタル由ニテ其像アリ去レトモ古今ヲ通シテ人ノ感賞スル所ハ門前ノ景色ナリ「浦風のかすみもはてす清見瀧なみに波しく三保の松原」「清見瀧関とは知られて行人もこゝろ計りは留めなくらむ」杯ノ古歌ヲ讀ミテモ其様想遣ラル、ナリ<sup>(抹消)</sup>〔冬ハ〕還リテ海水湯ニ入り飯ヲ了レハ単物ニテモ暖カ過クル様覚フ旅宿ノ前ニハ海水浴場アリテ夏ハ浴客充滿スル由実ニ奥津ハ冬暖クシテ幾ント雪ヲ知ラス夏ハ涼クシテ三伏ノ熱ヲ覚ヘス三保ノ松原間ニ桃花咲テ春ノ錦ヲ織成<sup>(抹消)</sup>〔シ〕<sup>(加筆)</sup>〔スノ日〕秋ノ月万項ノ波ヲ照シテ富士ノ青岱ニ<sup>(抹消)</sup>〔向〕<sup>(加筆)</sup>〔対フノ夜但シハ漁火波間ニ漂ヒ螢火山下ニ飛交フタ孰レモ情ニ愜ハサルナシ坂本氏ノ語ル所ニ依レハ昨<sup>(抹消)</sup>〔暮〕<sup>(加筆)</sup>〔年〕<sup>(加筆)</sup>〔来〕<sup>(加筆)</sup>〔未タ〕曾テ火鉢ヲ用ヘス裕モ着サル由午後二時頃ノ列車ニテ愛度帰京シタリ

戸塚忠次奥野弥太右衛門ハ美麗ナル雉子ニ羽ト兎一頭ヲ携ヘテ事務所ニ来リタルニハ吾モ駭カサレタリ此思寄ラサル贈物ヲ齎ラシタル<sup>(加筆)</sup>〔彼ノ〕待設ケサル客人ハ接待ノ不行届ヲ詫ルカ為メニ態々出京シタルナリ彼等ノ語ルヲ聞ケハ戸塚ノ母ハ娘聲ナル奥野方ニ来リ居リシカ我等カ出向クト聞キ若夫婦ノミニテ何カノ世間届ク間敷又田舎ニテハ進ムヘキ菓子ナシトテ静岡ヨ<sup>(加筆)</sup>〔リ〕菓子製造人ヲ伴ヘ帰<sup>(抹消)</sup>〔リ〕<sup>(加筆)</sup>〔ル〕<sup>(抹消)</sup>〔杯〕前日来饗応ノ準備ニ

二二

忙ハシカリニシ無情ノ大雨篠ヲ突テ到リタルカ為メ忠次ハ早朝騎馬ニ跨リテニ里余ノ静岡ニ奔リ奥野ニ会テ兎狩出来ストモ尚ホ我等ヲ招待シテ可ナリヤ否ヤヲ問合セタルニ折角ノ催ナレハ兎ハ獲ラストモ来駕ヲ請フ可シトノ意見ナレハ直様馬首ヲ回ラシテ清水ノ朝陽館ニ向(抹消)〔七(加筆)〕タレトモ里数隔タリタルコト、テ遂ニ我等ニ出会ハサリシ次第ナリシトソ彼等ノ厚意ノ忝ナサ余リテ氣ノ毒ナリケリ夫ノ貨物ハ尽ク同行三氏ニ頒チ遣(加筆)〔リテ〕彼等ノ芳情ヲ諸氏ニ達セシメタリ

昨夏盛岡地方モ数回出水アリ中津川筋薪留場ハ加賀野ヲ初メ処々破損ニツキ重立チタル山林持主等相談ノ上一町歩(朱点)〇五宛出金ノ事ニ定メタルカ故ニ此方ノ割前三(抹消)〔七〇〇〕〔六九三八〕差送ルヘキ旨申来ル中津川筋山林持主ノ所主反別ハ左ノ如シト云フ此順序ハ蓋シ水上ヨリ水下ヘト山林ノ位置ニ依テ付タルナラン反別ノ順序ハ氏名ノ上ニ在ル朱書ノ通りナリ

- 一四五(町) 七(反敬) 〇八(步) 〔朱書〕〔朱書〕
- 二六五(同) 四(同) 二〇(同) 〔朱書〕〔朱書〕
- 八九一(同) 一(同) 七(同) 二五(同) 〔朱書〕〔朱書〕
- 一三三(朱点) 三(同) 六(同) 二七(同) 〔朱書〕〔朱書〕
- 一二三(同) 一(同) 四(同) 一六(同) 〔朱書〕〔朱書〕
- 九〇(同) 四(同) 一五(同) 〔朱書〕〔朱書〕
- 七三八(同) 七(同) 六(同) 二四(同) 〔朱書〕〔朱書〕
- 〔7〕 佐々木三十郎
- 〔5〕 熊谷孫十郎
- 〔2〕 厨川善助
- 〔1〕 佐々木治助
- 〔6〕 川原辨助
- 〔9〕 藤澤亀松
- 〔3〕 菊池武夫

(44)

四 二 日 月

- 五六〇(同) 二(同) 七(同) 二二(同) 〔朱書〕〔朱書〕
- 九七(同) 四(同) 四(同) 〇一(同) 〔朱書〕〔朱書〕
- 〔4〕 太田小二郎
- 〔8〕 糖塚義順

英照皇太后ノ御大葬ニハ貴族院議員モ参列命セラレタルニ衆議院議員モ行キ儀仗兵モ行キ大官モ下リ小官モ赴ク(抹消)〔力故二〕〔二付キ〕下リ列車ニハ尋常ノ乗客ハ勿論職務ニテ下ル人サヘモ乗リ切レヲ騒キナルカ故ニ院ノ書記官等ハ鉄道局ト相談シ各列車(加筆)〔ノ上中等〕二二三ノ貸切車ヲ(抹消)〔設〕ケテ之ニ我等ヲ乗込マシムルコトトシ参列仕ルト届ケタル議員ヲ数組ニ分チテ各列車ニ割当て上中等ノ切符ヲ宜加減ニ分配シタリ参列ヲ命セラレタルカラハ旅費ハ官給セラル、コト勿論ナルニ如何ナル人ノ發意ニヤ切符ノ代ハ二割引ト為リ九八七ニテ買ハルヘキ上等切符(抹消)〔ヲ〕ハ七九〇ニテ貴族院事務局ヨリ渡サレタリ衆議院ノ發明臭キ案ナレトモ実ニ奇ナリト謂フヘシ京都表ニハ参列ヲ命セラレタル人参列ヲ許サレタル人ノ外見物人モ多勢入込ムカ為メ旅宿不足ヲ告クルノ惧アルニ付キ自選ノ止宿所ナキ輩ハ事務所ニ申入ルレハ(加筆)〔事務局ハ〕京都府ニ申遣リ京都府ハ予メ徵発シアル(抹消)〔素〕家々ニ割付ケタル上其(抹消)〔国〕家主ノ氏名住所ヲ報シ越ス手順ト為リ居タレトモ地方庁杯ノ取扱ハ官吏ニ鄭重ナレト兎角(抹消)〔非〕〔無〕官者ニ薄キ習ハ

五

シナレハ自分ノ如キハ迎モ碌ナ家ニ割当ラレサルヘシ  
 齊シク素人ノ宅ニ寓居スルナラハ知人ノ世話スル家ニ  
 宿ランモノト思ヒ岩田信ニ周施ヲ頼ミタルニ寧口自家  
 ニ来ルヘシト云越セリ辞ムモ<sup>(採消)</sup>何ヤラ可笑シケレハ  
 其意ニ任カセテ同人ノ厄介<sup>(採消)</sup>為ルニ決セリ吾ハ此午  
 前十時過ノ列車ニ割当ラレタレハ例ノ割引切符モ携テ  
 新橋停車場ニ至リ見レハ貴族院ノ守衛、属官等在リテ  
 貸切ノ張札アル車室ヘト導ケリ外ノ車室ハ人鮪ノ有様  
 ナルニ如何ナル廻リ合セニヤ吾車室ハ一区ニ二人ノ割  
 合ニテ足ヲ出シ合セハ夜モ兎ニ角伸テ横臥シ得ラレン  
<sup>(採消)</sup>谷子ナリ国府津静岡ノ弁当屋、茶壳等ハ壳声ヲ揚ケ  
<sup>(採消)</sup>〔夕〕前ニ早ク既ニ乗客ノ競買ニ遭ヒ毒氣ヲ抜レテ  
 茫然タ<sup>(採消)</sup>〔リ〕モ可笑シ浜松名古屋ヲ過レハ夜モ追々  
 更ケテ寒氣<sup>(採消)</sup>〔稍強〕<sup>(採消)</sup>〔漸ク〕加ハリ老人連ハ真綿ヲ背負ヒ  
 懷爐ヲ狭ム杯寒氣凌ノ用意流石ニ周到ナルニ拘ハラヌ  
 愚痴ヲ漏シ初メタリ豪氣連ハ草津ニ姥ケ餅ヲ求メ寝坊  
 モ稻荷ノ触声ニ驚カサレテ身仕度ヲ為シ東山ノ鴉モ未  
 タ栖ヲ離レヌ暁ノ寒空ヲ眺メツ、七条停車場前ノ水茶  
 屋ニ入りヌ此処ニハ京都府員カ出張シ居リテ入来人ノ  
 氏名ヲ聞キ<sup>(採消)</sup>〔糺シ〕帳簿ニ照ラシテ<sup>(採消)</sup>〔待合セ〕羽織袴ニ扇  
 子ヲ挟ミ弓張提灯ヲ捧ケテ待合ハセタル徴発宿ノ主人  
 ヘ引渡ス主人ハ忽チ車ヲ命シ<sup>(採消)</sup>〔手〕水茶屋カ停車場ヨリ  
 請取来ル手荷物ト共ニ珍客ヲ乗セテ己カ家ヘト走り去  
 ル吾<sup>(採消)</sup>〔ミ〕ハ府員ノ管轄外ナレハ出迎ニ来レル人モ無

(45)

<sup>(採消)</sup>〔ク〕<sup>(採消)</sup>〔シ〕早ク旅装ヲ解テ折好クハ朝飯前ニ今一寝入シ  
 度ハ山々ナレト此寒暁ニ知人ノ戸ヲ叩クハ心無キ業ナ  
 レハ態ト落着キ茶屋ノ怪シムヲモ知ラヌ顔シテ炬辺ニ  
 唯一人悠然ト<sup>(採消)</sup>〔控居〕腰掛居タリ此朝大津ニ用事アレハ  
 寧口直様<sup>(採消)</sup>〔マツ〕汽車ニテ彼地ニ赴カントモ思見タル<sup>(採消)</sup>〔氏〕<sup>(採消)</sup>〔カ〕  
 職服モ書類モ繩縛リノ柳桑<sup>(採消)</sup>〔内〕ニ大礼服ト同居シアル  
 カ故ニ<sup>(採消)</sup>〔之ヲ〕<sup>(採消)</sup>〔此行〕李ヲ開クニハ一度寓居ニ至ラサル  
 ヲ得又仕合ナレハ出来ル限り猶予シタル後始メテ手荷  
 物ヲ請取貰ヒ人力車ニ輛ヲ借フテ上京河原町通三条上  
 ル惠比須町三六ト云フ如何ニモ京都然タル肩書ヲ使リ  
 ニ岩田ノ家ヲ尋ネ当タリ案ノ如ク書生殿モ御目覚前ナ  
 リシ戸叩ク声ニ下女<sup>(採消)</sup>〔カ〕ハ眼ヲ摩リ<sup>(採消)</sup>〔出来リ書生ハ  
 兵兒帶ヲ巻キ乍ラ二階ヘト案内セリ未タ<sup>(採消)</sup>〔焚落シモ  
 出来サル場合<sup>(採消)</sup>〔ニ〕ナレハ火ノ来ラサルハ無理ナラス窓  
 下ニハ喜勢川トヤラカ流レテ夏ナラハ左コソト想ハサ  
 ルニ非スト雖ト未タ消遣ラヌ街上ノ嚴霜ト併セ視ルト  
 キハ旅情ヲ慰ムル<sup>(採消)</sup>〔魔力〕<sup>(採消)</sup>〔ナキ〕<sup>(採消)</sup>〔有セサル〕カ如シ  
 生憎腹モ減リ初メケリ氣ヲ紛サンカ為メ床ノ間ノ掛軸  
 ヲ始メ室内ノ構造建具ノ状況マテ悉シク吟味シ<sup>(採消)</sup>〔タル  
 ニ〕<sup>(採消)</sup>〔建具〕<sup>(採消)</sup>〔ト〕<sup>(採消)</sup>〔ハ〕<sup>(採消)</sup>〔柱〕<sup>(採消)</sup>〔ト〕仲違ヲ生シ張附ニハ兒供  
 ヤ鼠ノ遺蹟寡<sup>(採消)</sup>〔カ〕ラス畳表<sup>(採消)</sup>〔モ〕ハ破レサルカ殊勝ノ点  
 ナリ然ルニ<sup>(採消)</sup>〔同〕室ノ中央ニハ紫檯擬ノ横長キ大机アリ  
 テ四辺ヲ睥睨シ正ニ依頼人ノ応接所タルコトヲ表白セ  
 リ停車場着以來窃カニ吾方針ノ誤マ<sup>(採消)</sup>〔ル〕<sup>(採消)</sup>〔ラサ〕<sup>(採消)</sup>〔ル〕

ヲ<sup>(抹消)</sup>悔<sup>(加筆)</sup>疑ヒタルニ今ヤ<sup>(抹消)</sup>美<sup>(加筆)</sup>真<sup>(加筆)</sup>ニ京都府ニ依頼セザリシヲ悔ユルニ至レリ朝飯後大津へ赴ク都合ナルニ汽車道ハ珍シカネハ態ト二人曳ノ人力車ヲ僦フテ<sup>(抹消)</sup>出<sup>(加筆)</sup>八時過出發ス雲曇ニテ風サヘアリタレハ蹶上ケノ坂ヲ踰ヘテ山科ニ向フ頃ハ寒氣漸ク長靴ヲ透フシテ怪毛震ヒ出サン計リニ覺ヘケレハ吾乍ラ余計ナル物数奇ヲ為シタルコトヨト思ヒケリ聽テ音ニ聞ク逢阪山ニ掛レハ走り井、関明神、蟬丸社ハ云フモ更ナリ<sup>(加筆)</sup>傾ケル軒下ニ淋シ氣ニ見ユル<sup>(抹消)</sup>針ノ看版サへ自ツカラ昔ヲ忍ハシムレハ恍忽トシテ右ニ左ニ眼ヲ運ハセ居ル中<sup>(身ハ)</sup>早ヤ大津町ニ入りタレハ岩田出張所ト称スル家ニ絨緞カバンヲ預ケ要用ノ物ノミヲ携ヘ<sup>(加筆)</sup>十時頃<sup>(抹消)</sup>出張所員ノ案内ニ伴レテ裁判所ノ控所ニ喚上ケヲ待居タルニ田舎ニ流行ル最ト大キヤカナル名刺ハ一寸御目ニ懸リタシトノ小使ノ伝語ト共ニ来レリ見レハ判事大谷郁彦トアリ応接所ニ至レハ年若カキ男入来リ<sup>(抹消)</sup>テ<sup>(加筆)</sup>東京法学院々友ナリトテ在学中世話ニ為リタル礼ヲ述フ又一人檢事ニテ院友ナリト云フ岡田侃次郎モ会<sup>(セリ)</sup><sup>(加筆)</sup>終リニ区裁判所ノ監督判事ヲシキ<sup>(少)</sup><sup>(抹消)</sup>中老モ現ハレテ四方山ノ話ニ時ヲ移シテ平氣ナリ地方ノ裁判所<sup>(抹消)</sup>ニ<sup>(加筆)</sup>於ケル<sup>(抹消)</sup>務向ヲ見テ<sup>(モ)</sup>今更ニ驚キモセス<sup>(又)</sup><sup>(加筆)</sup>控所ニハ弁護士ハ勿論本人ヲシキ者サへ見当ラ<sup>(抹消)</sup>ネハ珍客<sup>(加筆)</sup>サリシカハ<sup>(抹消)</sup>用務ヲ擱キテ吾ヲ珍客扱スルト<sup>(モ思ハ)</sup><sup>(モ)</sup>自惚モセラ

レス唯吾ニハ早く用事ヲ了ヘテ石山、三井等ノ名所旧蹟ノ初見物ヲ為サントノ欲心アルカ故ニ優待ノ忝サヨリハ訟廷ノ開<sup>(加筆)</sup>方ノ遅キコトノミ氣ニ管リ殊ニ先方<sup>(抹消)</sup>孰レモ久振ノ面会トノ口上ナレト吾ハ名札ヲ閱シテサへ何時何処ニテ逢ヘシラヤ何年頃卒業セシヤラ一向ニ覺<sup>(抹消)</sup>ナケレハ迂濶ニ發言モ出来ス先方ノ申向ヲ聞テ宜加減ニ調子ヲ合スル仕合ナレハ檻樓ノ現レヌ中ニ切揚ケンコトヲ念シ居タル稍十一時ニ近キ頃中老ハ退キタリ院友ノミノ座ナレハ何ヲ云フモ遠慮ナキカ故ニ遊覽ノ順序杯間糺シタルニ彼等ハ丁寧ニ教<sup>(抹消)</sup>呉<sup>(加筆)</sup>且旅宿ヲ何処ニ定メタリヤト問フ岩田出張所カ指定シタル何屋トヤラ<sup>(抹消)</sup>ニ泊ラント答ヘタルニ彼等ハ以ノ外ナル事ニ思ヒ過般巡視ノ折司法大臣モ泊リタレハ是非竹清樓ニ宿ルヘシト勸ム吾ニハ司法大臣ノ向ヲ張ラン杯云フ野暮ナル<sup>(無)</sup><sup>(抹消)</sup>謀叛心ナケレト吾宿所ノ品等次第ニテ彼等ノ肩幅ノ広狭モ定マルトノ言外ノ意味分明ナレハ其意ニ從ヘリ今夜ノ再会ヲ約シテ元ノ控所へ立戻リタレハ漸ク呼上ケラレ廷ニ入レハストーブニ石炭ナラテ「コークス」カ焚レ不思議ナル事ニ思ヒ廷丁ニ尋ネタレハ此地ニテモコークハ矢張石炭ヨリ価値シト答フ例ノ洋館ニモ属カス左リトテ勿論日本造ニモ非サル怪シケナル<sup>(板)</sup><sup>(抹消)</sup>建家ニ吾等カ学校生徒ノ時分流行リシ鑄鉄製引戸付ノ置ストーブヲ据乍ラ此<sup>(抹消)</sup>贅沢品ヲ燃料トスルハ先年来遊ノ魯国皇太子(今ノ皇

帝)ニ我裁判所ノ<sup>(抹消)</sup>風雅致ヲ示サンカ為メニ創意セラレシヤ但シハ御大喪ニ付キ黒煙ハ恐レアリトノ遠慮ニ出シニヤ訳知ラヌ者ニハ偏ニ滑稽染テ見ユ斯ル潜越ナル評ヲ窃カニ加ヘツ、アル時シモアレ押開ケ<sup>(抹消)</sup>出ニケルハ襟元、胸ニ萌黄糸ノ縫模様アル黒衣ヲ纏<sup>(抹消)</sup>イ<sup>(加筆)</sup>ヒ冠ヲ着ケタル書記殿続テ<sup>(加筆)</sup>来レルハ紫糸ノ同シ縫模様アル黒衣ニ冠ヲ着ケタル受托判事殿<sup>(抹消)</sup>ナリ<sup>(加筆)</sup>ニシテ<sup>(抹消)</sup>目一札ノ上視レハ前刻ノ中老ナリケリ証人訊問ハ間モナク終リテ宿ニ<sup>(抹消)</sup>帰<sup>(加筆)</sup>着キタルハ正午過ナリシ宿ノ者ハ先刻<sup>(抹消)</sup>岡田<sup>(加筆)</sup>様ヨリ案内アリシ<sup>(抹消)</sup>トテ<sup>(加筆)</sup>御客様カト云フ故然リト答ヘタルニ引退キシ俣再ヒ出来ラス稍久シク玄関ニ<sup>(抹消)</sup>立<sup>(加筆)</sup>往生ヲサセタル後始メテ<sup>(抹消)</sup>緒<sup>(加筆)</sup>ヲメ乍ラ一人ノ下女現ハレ奥ニ階へ案内シタリ其後火鉢ヤ茶ノ持運ハル、速度ハ皆右ニ準スルカ故ニ流石ハ京都<sup>(抹消)</sup>ノ<sup>(加筆)</sup>近キ丈アリテ氣カ緩ヤカナルニモヤト思ヒタルハ全ク誤リニテ元来此家ハ旅籠屋ニ非スシテ料理屋ナレハ今頃客ノ舞込ムヲ期セヌ慣ヨリ起リタル結果ナルコト追々ニ取扱カ敏捷トナリ丁寧ト為リタルニ徴シテ明カナリ昼食ノ了ルヤ否ヤ二人曳ノ人力車ニテ南ニ走ル二十丁計行ケハ馬場ノ停車場ニ達ス之ヲ右ニ見テ尚ホ南進ス此辺ノ路傍ニ義仲寺芭蕉墓ヲ示ス標杭アリ朝日將軍ト芭蕉トハ余程妙ナル取合ハセ<sup>(加筆)</sup>ト云フヘシ膳所ヲ経テ松<sup>(抹消)</sup>原<sup>(加筆)</sup>街道ニ出レハ木曾ノ驍将今井兼平ノ墳墓ノ榜示アリ此辺ハ昔ノ粟津ケ原ニテ

モアルナラン琵琶湖ノ吐口ナル勢田川ニ架ケタル有名唐橋ヲ左ニ見ル川中ノ小島ヘ二十三間ノ小橋ヲ渡シ小島ヨリ東岸ヘ九十間余ノモノヲ架クルナリ橋ヨリ以南<sup>(抹消)</sup>ノ路ハ幅モ狭ク凸凹アリテ思ノ外ニ悪<sup>(抹消)</sup>シ<sup>(加筆)</sup>ク<sup>(加筆)</sup>水流急ナレハ年々川欠アルモノ、如シ昨年ノ大洪水ニテ勢田橋モ落タル趣<sup>(抹消)</sup>小<sup>(加筆)</sup>休泊所三四軒アレハ皆戸障子ヲ閉テ此寒氣ヲ昌シテ来レル客ヲ<sup>(抹消)</sup>揚<sup>(加筆)</sup>引<sup>(加筆)</sup>クノ勇氣ナシ山門前ニ車ヲ下リ一人ノ車夫ヲ案内者トシテ<sup>(抹消)</sup>行ケ<sup>(加筆)</sup>ハ西側ハ昔日ノ院坊ノ趾ト覺シキ所ノミ階段ヲ登レハ今モ昔ニ変ラス奇巖怪石所謂ル八葉ノ巖石ナルニヤ尚ホ登リテ堂ニ至<sup>(抹消)</sup>レ<sup>(加筆)</sup>内陣案内料ヲ差出セハ案内者ハ暗黒ナル一室ニ吾ヲ導キ入ル<sup>(抹消)</sup>是<sup>(加筆)</sup>ニテ<sup>(加筆)</sup>妖怪ニテモ出来リテ吾胆力ヲ試スコトニヤト要モナキニ闇ヲ睨ミ居タル処ガタン／＼ト二度計リ音シテ<sup>(抹消)</sup>日光<sup>(加筆)</sup>ハ左右ニ開カレ<sup>(抹消)</sup>日光<sup>(加筆)</sup>ハ形ノ窓ヨリ射透ス日光ニ照シ見レハ此所コソ紫式部ノ古跡<sup>(抹消)</sup>ナル<sup>(加筆)</sup>源氏ノ間ト称スル室ナリケル堂ヲ出テ又石段ヲ上レハ多宝塔、観月亭アリ琵琶湖方角ノ景色佳ハ佳ナレトモ多趣ナラス仲秋ノ月ヲ望ムハ成程恰好ナラン尤モ亭上ニ在テ此快ヲ貪ランコト今ハ君子ノ為スヘキ所業ニ非ス月ハ安全ナル処ニテモ見ラル、モノナリ夏ハ末流宇治川ト同シク螢ノ名所ナル由ナレトモ<sup>(抹消)</sup>帰<sup>(加筆)</sup>ル<sup>(加筆)</sup>越前ヨリ湖水ヨリ渡テ来ル川辺ノ寒風ニ吹カレテハ其快樂ハ中々想到リ難シ<sup>(抹消)</sup>再<sup>(加筆)</sup>ヒ<sup>(加筆)</sup>宿ニ戻リタルハ四時過ニテモアリシナラン車夫ヲ取替



へ再ヒ門外ニ飛出シ此度ハ北ヲ指シテ比叡山下ノ田甫  
 ニ出タルニ風ハ雪ヲ捲テ前途忽チ暗ク車夫モ面ヲ側  
 テ撓ミ乍ラ丹那是テモ大津ハ一粒モ降テ居マヘント云  
 フ世間ニ風流人多シト雖任風雪ヲ冒シテ辛崎ノ松ヲ觀  
 ニ行ク者ハ鮮ナカラン成程松ハ稀有ノモノナリ昨年ノ  
 洪水ニテ枝葉折レ推ケタル由ナレト〔大幹ハ依然トシ〕  
 テ幹ノ如キ枝カ或ハ互ニ〔入〕纏ヒ付キ或ハ解ケ放レテ  
 諸方ニ垂下スル様宛カラ大蛇ノ戯レ居ルカ如ク〔昔〕シ昔  
 ヨリ臥龍トヤラ蟠龍トヤラ〔名〕ヲ以テ名ケ又ハ評  
 セラル、松ヤ梅〔ヲ見聞〕アレトモ名実相應シタルモ  
 ノヲ見サリシカ今始メテ比喩ノ妄ナラサルヲ覺リタリ  
 又〔松〕枝ノ長ク這延タル松ヲモ見枝葉ノ繁ク這出シタ  
 ル松ヲモ見タリ左レトモ長キハ枝数多カラス繁キハ枝  
 長カラス両ツナカラ樹身高カラス而シテ此一ツ松ハ三  
 態様兼備ハル名ノ高キハ故アルナリ車夫ハ俯テ樹下ヲ  
 徘徊〔シ〕ス如何ニ見〔慣〕馴レタレハ拙態ト俯クニモ  
 及ハ〔サル〕又コト、私カニ其素振ヲ難シ居タルニ彼  
 ハ臆テ得意顔ニ松葉ヲ持来リ此ハ一ツ松ノ葉ナリトテ  
 授ク見レハ各一針葉ナリ珍ラシキモノ、由ナレハ紙ニ  
 包テ「チヨッキ」ノ隱シニ収メタリ休茶屋ラシキ家ア  
 レ石山下ノ同類ノ如ク障子ヲ立籠メテ〔向〕客ヲ招  
 クノ用意ナシ尤モ招カレタレハ迎立奇ル気モ時間モナ  
 カリシカハ帰リヲ急キ〔テ〕大津ニ〔入〕入リ右ニ折レ  
 テ長等山園城寺ノ山門ニ至レルハ黄昏近キ頃ナリシ案

内者ト早交リヲシタル車夫ハ先ツ右方ノ堂ニ立寄テ弁  
 慶ノ釜ヲ示ス半破レタル大釜ニシテ寺ノ盛時僧徒等ノ  
 飯ヲ炊キシモノニヤアラン近頃弁慶ハ歴史譚上仮設  
〔七ラレタル〕人ナリトノ説アリ如何ナル考証ニ基ケル  
 学説ヤラ知ラネトモ何国ニ於テモ弁慶ニ関スル事物ハ  
 必ス巨大ナルハ不思議ナリ陸前衣川ノ近傍ニ互ニ三四  
 丁ツ、離レタル松数本アリ称シテ弁慶運歩ノ跡ナリト  
 云フ〔何シロ不相応〕ト覺ヘタリ弁慶ニ付テ伝ヘラルル  
 話ハ多クハ之ニ類シ〔無稽〕極メテ虚妄ナレハ肝腎ノ本  
 人ノ在世スラ無稽ナリトノ説一概ニ笑ハレモサセルハ  
 シ山内ハ久シク手入セサルヘキニ広ヤカナル道路ハ旧  
 態ヲ失ナハス規模ノ広大ト昔日ノ隆盛トヲ〔追〕想ハシ  
 ム百ヲ以テ数ヘタル院坊多クハ癩レタレト今尚ホ三〇  
 位ヲ余シ日清戦争後ノ軍備拡張ノ結果トシテ増募セサ  
 ラタル新兵力新築兵營ノ落成迄此等ノ院坊ノ幾部ニ屯  
 在スル由依藤太秀郷カ龍宮ヨリ持来リテ奉リシ以来種  
 タノ不思議ヲ現シタル釣鐘ヲ見タリ「さ、波や三井の  
 古寺鐘はあれと昔にかへる声は聞へず」トノ古歌ノ外  
 ニ云フヘキ節ナシ此時ニ当リ案内者兼車夫ハ今日ヨリ  
 三井寺へ誘ハント云フ三井寺トハ園城寺ノ別名トコソ  
 心得居タルニ他ニ又三井寺アリトハ弁慶ヤ今見夕鐘ノ  
 話ニ類スル様ニ覺ユレハ此処ヨリ裏通り行レヌヤト問  
 タルニ行レヌトニハアネットモ外ヨリ廻ル方ヨシト答  
 フ案内者ニ反抗スル勇氣ナケレハ其教ニ從ヒ登リシ路

ヲ山門ヘト下リ行ク途中沐浴帰リノ新兵一隊ニ逢ヘリ  
 銭湯ニ赴クニヤト訝リタ(採)ルニ左ニハアラテ寺ニ隣  
 レル旧来ノ連隊管内ノ湯殿ニテ沐浴スル趣ナリ山門外  
 ニ置タル人力車ニ乗レハ車夫兼案内者ハ右ニ折レテ暫  
 クハ大路ヲ走り次テ怪シケナル田甫道ニ出テ夫ヨリ旅  
 龍屋杯アル町ヲ経テ(高)社前ニ梶ヲ卸シタリ扱ハ三  
 井寺ハ何時ノ頃ヨリカ神社ニ変化シタルニヤト又モ不  
 思議ヲ感シツ、進メハ高キ石段アリ登リ詰レハ観音堂  
 アリ三井寺ハ矢張仏寺ニテアリツルヨ(採)稍安堵  
 ハシタルモノ、三井寺トモ云ハルル大寺ノ本堂トモ思  
 ハレス傍ラニ八詠楼ト(採)近江八景一目ト  
 云フ閣アルニ(因)察スレハ此ハ三井五別所トヤラノ  
 一ナル近松寺俗ニ高観音ト唱フル所ナルニ似タリ時ニ  
 日全ク暮レテ堂額杯ハ読ミ得ラレス暮靄深ク鎖シテ遠  
 山ハ見ヘネトモ眼下ニ瞰ユル市内ヤ湖上処々ニ灯火点  
 在スル様中々ニ面白ク晴朗ノ日ヤ月明カナル夜ノ景色  
 ハ嘸カシト想ハル、ナリ今一段登レハ西南戦争ノ記念  
 碑トヤラ戦死者ノ招魂碑トヤラアレトモ高キ程(二ハ)  
 眺望ハ優ラサルナリ大谷岡田等来リテ晚酌ヲ与ニシ深  
 更マテ話セリ

## 六

大津ヨリ馬場へ出ルヲ大谷へ行クモ距離ハ似寄リタ  
 ルモノナルヘシ故ニ下リニハ大谷ニ(マ)選ム方(マ)汽車賃安  
 キ丈徳用ナリ車夫ハ吾為メニ計ルコト斯ノ如ク信切ナ  
 リシヤ否ヤヲ知ラネトモ逢坂山ヲ登リ行ケリ夫ノ走り

井近クナリシ頃休茶屋ノ小女二人手ヲ振り声ヲ揚ケ列  
 車既ニ到着シアレハ急ケ々々ト(採)相(採)合(採)図(採)シ(採)夏  
 ナラハ態ト一列車後レテモ有名ノ井水ヲ結フヘキニ雪  
 曇ノ寒天ニ(採)噴水ノ傍ニ置去ラル、ハ風雅ニモアラ  
 ネハ一目散ニ階子段ヲ駈ケ下リ(採)辛(採)フ(採)シ(採)テ京都ヘノ  
 切符ヲ買求メ車室ニ飛込(採)メ(採)ム(採)ト前ノ小女ハ膝掛  
 トカバンヲ携来リ呉タルニテ(採)漸(採)ク(採)手荷物ノアルコト  
 ヲ思出シ之ヲ請取テ漸ク安堵スル間モ無ク(採)汽笛(採)一声列  
 車奔ル此時又モ心情ノ不安ハ起レリ彼小女ノ注意ニ依  
 リ始メテ吾ハ急ケリ彼小女カ纖手ヲ以テ重サモ厭ハス  
 持運ヒ呉タルカ故ニ吾ハ手荷物ノ遺失少ナクトモ遺忘  
 ヲ免レタルニ(採)其(採)此恩人ヘ手当ヲ与フルコトヲ確ト失  
 念セリ実ニ抜リタリトノ後悔前ニ立タス錢ヲ投ケ付ケ  
 テモ最早彼ノ手ニ(採)届(採)カヌ仕合ト為リタルソ是非ナ  
 ケレ京都ニ帰リ御所側ノ大喪使へ着到届ヲ差出シタレ  
 ハ旅費、滞在日当トシテ三七(採)七(採)四(採)ヲ渡サレタリ岩田  
 宅ニテ昼食ヲ為シ再ヒ七条ノ停車場ニ赴キ此度ハ奈良  
 鉄道ニテ宇治ヘト発シタリ宇治停車場ニ下(採)タルニ  
 傭フヘキ人力車一輛モ無シ御大葬ニ付キ京都市内ノ人  
 力車ノミニテハ不足ヲ告ケタルカ為メ此辺ヨリモ車夫  
 等ハ京都へ出稼シタルニ因ル趣ナリ致方ナケレハ覺束  
 ナクモ歩ミ出シ先ツ東ヘ向キ突当リテ左ニ折レ橋ノ袂  
 ヲリ右ニ曲リ(採)レ(採)ハ土堤下ナル平等院境内ニ入  
 レリ案内所ヤアルト見廻リタルニ更ニ其揭示ナ

〔抹消〕人力〔加筆〕レハ止ヲ得ス住人ナキカト疑ハル、程ノ破レ寺ニ音訪タレハ幸ニ応ヘテ出来レル僧アリ宝物ヤ観〔七〕ラル、旧跡ヤ案内セラル、ト問ヘハ孰レモ否ト答フ全国ノ臣民皆心ヲ傷メ涙ニ咽フ今日此頃名所旧蹟ヲ見物セントノ不心得ヲ天カ罰シ玉フニモヤ事毎望ノ如クナラス心細クモ寧口心太クモ蓮池ノ辺リヲ元ノ土堤ヘ出レハ源三位頼政自刃ノ跡ハ榜示セラル松下ノ芝生ハ所謂ル扇ノ芝生ナラン古キ拝殿ノ〔抹消〕戸鎖シタルカ如キモノアリ〔抹消〕釣殿ノ表札〔打タ〕リ是ソ聞及ヒタル河原左大臣カ宇治川ニ釣ヲ垂レタル場所ナランニ今ハ軒先ニ高キ堤防アリテ川ヲ隔ツレハ鉤ヲ下サンコト中々ニ思モ寄ラス後ニ聞ケハ三十年前迄ハ釣殿ノ階段二三段現ハレ居タル由之ヲ過キテ右ノ方ニ名シ負フ鳳凰〔殿〕〔加筆〕アリ堂内ノ様子ハ如何ナルニヤ外形ハ荒レテ幾ント傾キ倒レン計リナリ堤ヲ越ヘテ川上ニ登レハ貸席料理店ノ新築三四軒アリ好時節ニ鉄道ヲ利用シテ京坂ヨリ来遊スル墨客粹人ノ需要ニ応セントノ工夫ナルヘシ立戻リテ平等院境内ニ入ル此旧蹟今ハ堤外ヨリノ道路ニ当リ樵叟漁夫ノ往来ニ委セラル古人靈アラハ恨メシキ限りナラン宇治橋ヲ渡リ〔抹消〕行ケハ大澤医学博士カ北ヨリ人力車ニ乗テ来ルニ逢フ彼モ亦大哀ノ時ニ際シテ見物ヲ為ス大罪人ナレハ蓋シ種々ノ天罰ヲ蒙リシナランニ人力車〔抹消〕見付ケ得タル丈ハ吾ニ比シテ何か情状ノ輕キ所アリシニヤ橋ノ右袂ニ二階

(6)

〔抹消〕造リノ料理店メキタル家アリ宇治川ニ臨ミテ夏ハ殊ニ〔好〕宜シカラント想ハル右ニ折レ川ニ沿フテ上レハ観ルヘキ寺モアリト云ヘトモ黄蘗山マテノ歩行ニ時問ヲ費ヤスコトナレハ其遊覽ハ思ヒ止マリ近キ辺リノ或ル寺ヘ登リ見タルニ菟道ノ断碑トヤラ云フモノ立テリ歴史ニ關係アルモノナルヘケレ其碑文ヤ碑ノ由緒書ヲ讀ムニ暇アラステ立去リ田甫道ヲ只独リ覺束ナクモ辿リ行ケハ大和魂アル犬来リテ吠ルモアリ左ニ宇治火藥製造所ヲ見過シ火藥庫ヘノ輕便鉄道ニ傍フテ右ニ折レ又左ニ曲リテ漸ク黄蘗山万福寺ニ至ル徳川家〔網〕ノ代ニ建立セラレタリト云ヘハ時代ハ左マテ旧カラネットモ〔明〕支那明時代ノ模範ニ基ケル趣ニテ自ツカラ殊色アリ中門トモ称スヘキ処ヨリ〔奥〕兩脇及ヒ奥ノ方ヘ方形ニ土間ノ廻廊ヲ〔設ケ〕〔築キ〕廊ノ左側処々ニ堂宇ヲ設ク諸堂ノ入口ハ皆内庭ノ方ヘ向フカ故ニ廊下ヨリ礼拝シ得ヘシ中門ノ正面奥ニ在ルハ本堂ニシテ堂内ノ裝飾簡素ナリ只今上陛下ノ勅額「天真」ト書セラレタルモノアリテ意ヲ〔引〕惹クノ之初メ境内ニ入ルヤ他寺院ノ例ノ如ク山門ノ近辺ニ事務所ノ表札ヲ掲ケタル院坊アルナラント左右隈ナク探シタレト見当ラス無案内ニテ左方ノ廊下ヨリ入りテ奥ノ方ヘ廻リ右側ノ廊下ヘ移リタルニ方大トモ覺シキ所アレト戸ハ〔堅〕固ク鎖シアリ又少シ行ケハ漸ク事務所ノ入口カ發見セラレタリ数回高声ニ案内ヲ乞ヘトモ絶テ応スル者

七

ナシ余リニ不取締ノ寺カナト小言ヲ胸ニ云ヒツ、戻リ来レハ何処ヨリカ年若キ僧カ俗者三人ヲ引連レテ現ハレ出今シモ本堂ノ戸ヲ開カントシツ、アリ是幸ト其後ニ随フテ入タルニテ本堂内ノ様子丈ハ窺ヒ得タリ然ルニ此僧ハ頼額ノ外何事モ説明スルコト能ハス寺僧等〔抹遣〕〔加筆〕御大喪ニ付キ京都へ出張シタル跡ノ留主居トシテ臨時ニ外寺ヨリ来レル者ノ趣ナリ方形ヲ一巡シリテ木幡停車場へト赴キタルニ未タ早ケレハ休茶屋ニ立寄り女房カ差出ス洪茶ト駄菓子トヲ真ニ賞味シタルハ運動ノ賜ト知ルヘシ

愈御大葬ノ当日ト為レリ大忌日ハ来レリ家ニ閉籠リテ謹慎ヲ表スヘキ場合ナルヘケレ任煩悩止ミ難ク流ヲ隔テタル木屋町ノ雲鶴楼トヤラ鶴月楼トヤラニハ友人馬場愿次〔俗〕ヲ始メ関東北越ノ裁判所長検事正等合宿シ居〔抹遣〕ルコトヲ知〔加筆〕リ殊ニ馬場外ニ三名カ初度ノ入京ナルコトヲ知ルカ故ニ何地ヘカ案内セント申込タルニ願ハシキ旨ノ答ナレハ先ツ紫野ノ大徳寺ニ行カントス案内ノ手始メニ大徳寺トハ異ナル趣向ナリト所知レル者ハ評シ合ヘリ蓋シ吾カ大徳寺ヲ選ミタルハ吾モ未タ見サル所ナルカ故ナルヲ察セサルナリ歩行ト一決シタレハ万一ノ場合ヲ慮カリ〔抹遣〕市ノ地図ヲ携ヘテ出タルニ唯一度地図ヲ披キ見タルノミニテ滞リナク龍宝山大徳寺ニソ着ニケル普通ノ寺門ニ異ナレル勅使〔加筆〕トヤラヲ過キテ山門ニ至レハ連歌師宗長カ建タル門二千ノ利休

(62)

カ閣ヲ増築シタル旨ノ下ケ札アリ孰レモ其流ヲ汲ム人ナラネハ徒ラニ過キテ真殊庵ニ入ル此処ハ一休和尚カ住持セル寺ノ由ニテ和尚自作ノ像又奥ニハ其向ノ人カ涎ヲ垂ル、ナラント思ハル、茶室アリ夫ヨリ坂ヲ登リテ孤蓬庵ニ至レハ此処モ俳〔諧〕茶湯ニ縁アリト見ユレ任我等ニハ格別ノ趣ナシ今ハ荒癡ニ傾ケトモ境内ノ洪大ナル昔日ノ隆盛ヲ想像セシムルニ難カラス兎ニ角是ニテ吾目的ハ達シタルモノ、都不案内ノ者ヲ此尽帰ラシムルモ情ナキ業ニモアリ且十二時ニ近ケレハ今ヨリ歩ミテ旅宿ニ帰ラハ飢渴疲労ヲ感セシムルコト甚シカラ〔抹遣〕ン〔加筆〕旁彼等ヲ北野天神社へ案内シ彼地ニテ昼食ヲ為シ人力車ニテ帰宿セシメントノ案ヲ呈出シタレハ彼等モ尤モト同シタリ唯御大葬当日ハ市内ノ飲食店休業スルトノ噂アレハ食ニ就クコトハ如何ニヤト掛念スル人モアリシカ場末ナレハ開業疑ナシト巧者振テ請負ヒ元ノ道ニ戻リ右方ノ田甫道ヲ伝ヒ西陣織場ラシキ町ヲ過キテ北野社へ入り境外ニ出テ右側ノ尾張屋トヤラ云フ飲食店ニ至レハ案内ノ如ク客ヲ引キ居タルニ因リ案内者ハ大ニ鼻〔鼻〕ヲ高クセリ左レト区役所ヨリノ差止命令頻リニ至ルカ故ニ我等カ入りテ間モ無ク客止ヲ為セリ腹ハ出来タリ此上ハ車サヘアレハ事足ルヘシ此日柄辻待車ハ幾ント皆無ノ様子ナレハ此辺モ如何ヤト案シ来レルニ茶屋ノ向ニ空車二三輛見ヘケレハ座ニ就クヤ直チニ下女ニ命シテ僦入レシメ置キタルカ故ニ是モ安心ナリ

唯二人乗りノ車ニ大ノ男(採道)二人ノ合乗ハ如何ニモ田舎者ノ京見物ト云フ体裁ヲ(採道)具得テ面白シ中立売御門ヲ入テ御所前ヲ通ル頃ハ早ヤ拝観人群集シ特許ヲ得タル写真師等ハ高台ニ登テ御所ノ右側ナル大宮御所ノ景ヲ写シ撮ルニ忙シカリシ午後六時御出門ナレハ途中ノ混雑セヌ(採道)四時頃(採道)ニハ定メノ休憩所ナル真宗中学校ニ参着スヘキ旨内達アリシカハ時外レナカラ茶漬一杯食ヘル方然ルヘシトノ主人ノ注意ニ任カセ大礼服ヲ着ケタル俣出格子ニ腰打掛ケテ食事ヲ終リ外套ヲ纏ヘハ途中ノ都合好キモ休憩所ニテノ仕末ニ困ユルカ故ニ遼東ノ風雪ヲ冒シテ戦ヘル人サヘアレハトテ断然礼服剥出シニテ出掛ケタリ博物館側ニテ下車シ帰ル時出会スヘキ場所ヲ車夫等ニ指定シテ休憩所ニ至レハ数場ヨリ腰掛台ヲ取払ヒ椅子敷脚ヲ備ヘタレハ十分ノ七八倚ルニ由ナク暖炉アリト雖任戸カ開放シナレハ炉ヲ囲ム輩サヘ満足ノ顔色ナシ九時頃トナレハ飢寒交逼ル真綿ヲ纏ヒ懐炉ヲ蔵ムル輩モ窃カニ眉ヲ蹙メ或ハ香水瓶ト見ユルモノヨリ「ブランドー」ヲ飲ミ或ハ「ハンカチーフ」包(採道)「ヲ開テ」(採道)「サンドウヰッチ」ヲ食フ杯思ヒ々々ノ秘密ノ用意見ルモ可笑シ御通輩今ヤ々々ト待奉リ居タルニ或ル輩入来リテ唯今通御アリタリト云フ左ル事アルヘカラストテ札シタレハ事実ナリ如何ナレハ其向ノ者等カ御行列ノ来ルヲ参列者ニ報セサルヤ御式場ニ列シテ拝礼ヲ為スノ榮ヲ荷フカ為メニハ相

(63)

八

違ナキモ折角此地へ出張シ来リテ御通輩ヲ拝セヌトハ返ス々々モ残念ナリトテ一同不平ヲ漏シタリ十一時近クナリシトキ式場ニ参ルヘシトノ伝令アリ各先ヲ争フテ泉涌寺ノ坂ヲ登リ行ケハ夢ノ浮橋ノ手前ニ御柩ヲ載セタル御(採道)輿ハ置レタリ黒塗ニシテ両側ノ中央部ハ薄茶トモ覚シキ色ニ塗ラレ御蓋ノ下廻リニハ鏡力鈎下ケラレ御輿下ヨリ白キ太キ絆ハ轅へ引掛ケラレタリ御牛モ其側ニ在リシ由ナレトモ路ヲ急キテ得見ス浴道ハ電気灯ト高張提灯トニ照サレタレトモ何分長キ長場ナレハ俣暗キ所モアリシ(採道)式場ハ(採道)広々シタル俣室ニテ中央ノ通路ニハ筵ヲ布詰メタリ我等ハ左側ノ余程本式場近キ所ニ居タレトモ紳ニ妨ケラレテ御式ノ様ハ詳カニ分ラス唯左右ニ松明ヲ持居ル人アル丈カ下界ノ神葬式ニ異ナルカ如ク見(採道)ヘタリ御式ハ極メテ短カリシ拜終リテ又大仏前マテ歩ミ戻リ夫所ヨリ待セ置キタル人力車ニ乗りテ帰寓セシハ十二時前位ナリシナラン

一刻モ早ク岩田氏ヲ辞シ去テ厄介私ヲ為サシメント欲セシニ三重県ノ人々カ吾ヲ京都ノ寓居ニ訪ハントテ東京ヲ出立セル旨ノ電報吾事務所ヨリ達シケレハ今日ハ滞留セネハ成ラヌ身ト為リ又然ル上ハ迎主人岩田氏ヲ始メ院友渡邊留三郎宮川彌三郎大阪ヨリ来会ハセタル石(採道)野正弘ヲ京都ホテルニ伴ヒテ午餐ヲ振舞タリ夜ハ右ノ人々主ト為リテ法学院ノ講師連ニテ此度来京

九

セル輩ヲ招待シタルニ奥田義人三崎亀之助元田肇ハ差支アリテ来ラス唯馬場愿次ト吾トノミ賓客トシテ饗応ヲ受ケタリ

今朝ハ愈九時二十分ノ列車ニテ出発ト決定シケルニ兼テ停車場ノ駅長ヨリ通知ノ趣アリシニ因リ時刻余程前二七条ニ至リ楼上ノ一室ニ入テ予約ヲ申込ミ帳簿ニ氏名ヲ記入シ貫タレハ廳テ駅夫ヲシキ者来リテ切符ヲ購ヒ且荷物ヲ預ケテ「チェック」ヲ取呉レタリ成程駅長ノ予想ニ違ハス停車場ハ乗者送者ニテ非常ノ混雑ヲ極メタレハ夫ノ予約法ニ頼ラサレハ乗車切符ヲ買ウコトサヘモ頗フル六ヶ敷手荷ノ預ケ込杯ハ殆ント絶望ノ有様ナリ〔幸〕吾ハ米原ヨリ敦賀線ニ乗移リ越前福井ニ赴カントスルカ故ニ縦令如何ナル雑沓ニテモ暫時ノ間ナレハ辛抱シ易シト覚悟ヲ極メ居リシニ幸ナル哉吾人シ車室ニハ前田候主従三人淀稻葉老公主従二人ノ外乗合ナケレハ思ノ外緩クリシタリ停車場プラットフォームニハ昨晚ノ御行列ノ絵図ヲ売ル者アリ直段ノ高キニ拘ハラス諸人土産ノ為メ争フテ買入レリ野洲以東ハ雪景色ニテ十二時過クル頃米原ニ着タリ東海道線ヲ離レテ左側ニアル敦賀行列車ニ乗換ヘタルニ前列車ノ定時ニ後レタルカ為メ之ヲ待受居タル当列車ノ出発時刻モ既ニ過タレハ乗込ムヤ否ヤ進行ヲ始メタリ車室内ノ混雑ハ固ヨリ厭フヘシト雖任合乗客ノ絶無ナルモ甚タ好シカ〔カ〕ラス前列車ニ乗ル時ハ窮屈ナランコトヲ

(54)

懼レタリシカ此列車ニ乗テハ退屈センコトヲ憂ヘリ唯沿道ノ山水始メテ眼ニ触ル、モノナレハ少ナク任当分ハ其送迎ニ忙ハシカランノミ暫ラクハ左方二湖中ノ島山ヲ眺メツ、其岸ヲ走りシカ長浜以北ハ線路ハ山ニ寄テ通〔ス〕木ノ本停車場ヲ過クレハ兩側ノ山勢漸ク逼リ柳ケ瀬ニ至レハ雪ハ平地ニ堆積シ〔テ〕停車場ノ昇降場ニモ僅カニ一縷ノ足跡アリテ往来ノ筋ヲ示スノミ此辺ニ賤ケ獄七本鎗ノ旧蹟アリト聞キシモ何処ナルヤ確カナラス墜道〔四ツ程〕ヲ潜リ疋田ヲ經テ地勢漸ク開ケリト思ヘハ敦賀ニ着ケル同地ハ昔ヨリ北越有数ノ船着場丈アリテ家数モ多ク稍繁昌ノ様子ヲ呈ス然ルニ停車時間不割合ニ短ク二三分ニシテ直チニ發進シ金ヶ崎ニ至レハ場所ノ辺僻ナルニ似合シカラヌ長時間停車セリ蓋シ金ヶ崎ハ敦賀ノ町端ナレ任〔荷物〕海運トノ連絡善キカ為メ荷物ノ積卸ニ便ナルカ故ナリ左ハ港水岸ヲ洗フテ船舶近ク碇泊シ右ニハ公園トモ覺シキ処アリテ何ヤラ神社ア〔リ〕任雪融ノ路悪シケレハ歩ヲ移スニモ氣ナ〔ケレハ〕一向發車ノ速カナランコトヲ希望シ居タルニ列車ハ逆戻リシテ又〔同〕敦賀ニ着キ乗客ヲ収メテ尚ホ南進シ次第ニ左ニ折レ又山間ニ入レリ如何ナル奇景ヤ眼ニ映シ来ルト心待シケル甲斐モ無ク飛雪紛々トシテ到リ墜道頻々出タカト思ヘハ又入〔ル〕車窓ハ内ノ蒸氣ト外ノ煤トニ曇リテ身ハ濛々ノ中ニ埋メラレタリ唯幸ナリシハ敦賀ヨリ当世風ノ若

紳士一人丸鬚ニ髪ハ結ヒタレト衣裳骨柄ハ何トシテモ  
 髪ノ形ニ相応セサル二十三歳ノ婦人一人ノ乗合ヲ得  
 タルコトナリ此二人ハ同時ニ乗客シタルカ男ハ吾ニ対  
 シテ座シ女ハ吾側ノ左端ニ腰掛ケ互ニ識ラヌ風ナリ男  
 ハ紙巻煙草ヲ薫ラシ手提ヨリ小説本ヲ取出シテ繙キハ  
 シタルモ〔強〕真ニ読居ルカ如クニモ見ヘス稍二十分モ  
 過キツルカト覺フル頃女モ徒然ニヤ堪ヘサリケン新形  
 ノ贅沢袋ヨリ派出ヤカナル煙管筒煙草入ヲ出シ些ト立  
 寄テ男ノ身ト其手提トノ間ニ在ル摺附木箱ヲ無断ニテ  
 取揚ケ己カ煙管ニ火ヲ点シタリ情ナヤ男カ折角ノ苦心  
 〔毛〕〔八〕此一挙ニテ敢ナクモ水泡ニ帰シケリ彼等ノ乗  
 込以来感シツ、アリシ可笑シサハ最早包ムヘカラサル  
 仕合ト為リタルカ故ニ笑ヲ紛ラサンカ為メ男ハ話シ掛  
 タルニ彼ハ〔名札ヲ与へ且先年名古屋表ニ於テ吾ニ  
 逢タルコトアリト云フ見レハ県會議員某トア〕〔リ〕〔ル〕  
 ニ因リ經過地方ノ様子杯尋ネタルニ達弁ニシテ博識ナ  
 ルカ如シ〔敦賀今庄〕〔間ニ〕〔陸道ハ十三アリ  
 〔敦賀ノ旅人宿ハ米七ヲ第一トシ〕鯖江ニハ新兵營ノ建  
 設アランコト中学校ノ位置ニツキ鯖江武生間ニ競争ア  
 ルコト鯖江ハ兵營地ニ適スルモ武生ハ学校ヲ置クヘキ  
 地ナルコト就中福井県ノ新名産羽二重織〔ノ〕ニ付テハ  
 説明最モ詳カニシテ聴者カ殆ント慶カントスル程ニ溜  
 ヲト弁シタリ後ニ聞ケハ彼ハ糸屋ナル由ナレハ羽二重  
 論ノ特ニ流暢ナリシハ理リナリ〔五時頃〕列車ハ福井ニ

着タルニ彼二人ハ汝先ツ降りヨ我先ツ下ランカト〔テア〕  
 躊躇シテ中々室外ニ出ツヘクモアラネハ吾ハ彼等ヲ遣  
 シテ下車セリ彼等カ猶予ラ〔ヘ〕〔レ〕シハ故アルコトニ  
 テ隣ノ中等室ニハ福井県〔知事〕カ御大〔喪〕〔葬〕ヨリ帰  
 ル〔二〕家族連ニテ乘リ来レルニ付キ停車場ニハ常置委  
 員其他ノ県會議員〔属〕宮等彼ノ議員殿ヲ見知ル輩数  
 多ク出逢居タルカ故ニ髪ノ形カ丸鬚ナリトモ彼婦人ト  
 同時ニ相識ノ人々ニ面スヘカラス元来彼ハ県知事トノ  
 同乗ヲ避クルカ為ニ常ニ変リテ上等〔室〕〔切符〕ヲ購ヒ  
 彼等二人ノミナラント思ノ外毛色ノ異リタル者乗合ハ  
 セタル次第ニテ今日ハ彼今様紳士ニ取りテハ大ノ厄日  
 ナリシコソ氣ノ毒ナレ出迎ノ人々ニ導カレテ行ケハ両  
 側ニハ降積ミタル雪掃溜メタル雪堆ク中央〔二〕〔一〕一  
 縷ノ半融ケノ雪路〔二〕〔二〕〔二〕〔二〕〔二〕〔二〕〔二〕〔二〕  
 過ル所ノ町々ハ稍中心ノ善キ部分ヲシケレト淋シクテ  
 家並モ宜シカラス開山柴田勝家ノ居処トシテハ如何カ  
 知ラサレ共越前家ノ城下トシテ〔税〕〔視〕ルヘカラサル  
 田舎町ナリ川ヲ渡テ〔町外レノ〕岡ノ麓ニ到リ車ヲ下リ  
 テ幾箇ノ石段ヲ登リ中腹ナル足羽町五嶽樓ニ着キ奥ノ  
 広間へ案内セラル〔此所ヨ〕〔市街ヲ始メ〕新田義貞ヲ祭  
 レル藤島神社〔ヲ初メノ眺〕其他附近ノ銀世界眼新シケ  
 レト樓ノ名ノ起因タル五ツノ名アル高山ハ雪雲ノ空ニ  
 ハ見ヘス入浴セヨトノ案内ニ湯殿ヘト降り立タルニ雪  
 構ニテ窓ハ日光ヲ漏サス〔足探リニ〕〔後学ノ為メ〕□□

〔<sup>(抹消)</sup>〕入湯ノ味ヲ試ムルモ奇ヲ好ムニ過クレハ手ヲ鳴ラシタレト奥深キ処ユヘ容易ニ帳場ヘ声達セス止ムナク自身ノ方ヨリ足ヲ運ヒテ漸ク燭台ヲ持来ラシメ愈衣ヲ脱シテ槽ニ入ラントスレハ湯ハ意地悪ク熱シ其処ラニ水男〔<sup>(加筆)</sup>カ〕居ルニヤト潜リ戸ヲ開カントスレハ堅ク凍リ〔<sup>(抹消)</sup>テ一寸トモ動カハコソ扱ハ再ヒ衣ヲ纏テ又々戻〔<sup>(抹消)</sup>リ〕ラ〕ネハ成ラヌカト思ヘハ入浴カ否ヤニ為〔<sup>(抹消)</sup>〕卒〔<sup>(抹消)</sup>〕断念セントスル折柄後レハセニ風呂ノ加減ヲ尋ヌル下女来リタレハ疝瘕ヲ仕舞込ミ水ヲ運ハシムルニ

北越ノ人氣〔<sup>(抹消)</sup>真〕〔<sup>(加筆)</sup>緩〕ヤカニテ下女ノ再来速カナラス汲立ノ水ハ温クシテウメル〔<sup>(抹消)</sup>目的〕〔<sup>(加筆)</sup>二適〕セス態々汲マストモ四辺ニ充満スル雪ヲ搔浚ヘテナリト、焦タチタルカ為メ体カ温カニナリ思ハヌ防寒ノ方法ヲ発見シタリ晚餐ニハ名産ノ〔<sup>(加筆)</sup>海〕蟹、籠ノ美味ナルニ口腹ヲ驚カシメタリ

66 二二

日夜ノ吹雪ニ椽ノ雨戸サヘ開放サレス窺キタレハ迎藤島神社サヘ今ハ見ヘス〔<sup>(加筆)</sup>裁判所ト〕川向ノ何月楼トヤラヘ母衣掛車ニテ乗込タル切リ何処ヘモ出向カス又出遊フヘキ所ナシト云ヘリ籠ヤ海蟹ノ料理ヤ「ダンサン」「ソウゲ」ノ方言モ最早食ヒ厭キ聞厭キタレハ奉書袖、海蟹雲丹杯ヲ土産ニト買入レ十二時四十分ノ汽車ニテ福井ヲ発ス此度ハ紳士佳人ノ乗合モナク全ク車室〔<sup>(抹消)</sup>ラ〕〔<sup>(加筆)</sup>〕独占〔<sup>(抹消)</sup>ス〕〔<sup>(加筆)</sup>〕レハ眼ヲ働カスヨリ外ナシ福井ノ瀧野ハ武生ニ到テ狭マリ以南山脈相迫リ登リ

一三

テ杉津停車場ニ至レハ右方ニ西海及ヒ〔<sup>(抹消)</sup>〕敦賀湾口ト覺シキ所ヲ望ミ数十丈ノ下ニ杉津駅ヲ瞰下ロス此前後ノ〔<sup>(隠カ)</sup>隧道〕ハ昨年洪水ノ折ニハ水道ト変シ線路田島共ニ非常ノ災害ニ罹レリトソ米原ニテ五時四四分発ノ上り列車ニ乗替ヘタルニ沖守固ハ知事然タル弁当ヲ押開キテ酒肴ヲ侑ムル好意浅カラス吾カ仕入タル米原弁当ハ飯温カナレト菜悪シケレハ馳走ノ珍重一方ナラス八時半頃名古屋富沢町信濃屋忠左衛門方ニ宿ス

小作米及仕付米ノ収納及虫水害引米、仕付米、年賦貸付米ノ出高ハ左ノ如シ

〔<sup>(米)</sup>〕〔<sup>(斗)</sup>〕九月〔<sup>(内)</sup>〕一八ノ都ヲ見ヨ〕〕

小作米	引米	仕付米	年賦貸米	仕付貸米	現買粉米	小作人名
〔 <sup>(斗)</sup> 〕升合		〔 <sup>(斗)</sup> 〕升合		〔 <sup>(斗)</sup> 〕升合		〔 <sup>(斗)</sup> 〕升合
5,000	〔 <sup>(斗)</sup> 〕升合	5,000		5,000		上村喜蔵
37,160	1,370	〔 <sup>(斗)</sup> 〕升合	36,160			藤村助次郎
38,〔12〕1	1,000	〔 <sup>(斗)</sup> 〕升合	37,491			佐藤金太郎
〔49〕		〔1,000〕				
10,147		370	1,370	370	8,〔6〕〔5〕17	佐藤福太郎
33,370		1,000	1,000	1,370	32,000	淺沼大吉
21,093	1,370	1,000	1,000	1,000	19,463	藤原龜吉
15,370	2,370	〔 <sup>(斗)</sup> 〕升合	〔 <sup>(斗)</sup> 〕升合	1,370	12,000	藤原栄助
12,370		〔 <sup>(斗)</sup> 〕升合	1,000		12,000	福澤清成
.350		.350			.350	佐藤台太郎



(朱点)	(朱点、下線朱書)	(朱点)	(下線朱書)	(朱点、下線朱書)	(朱点)
27,000	1,370	370	1,000	25,000	猿籠政之助
(朱書) (抹消)	(朱書)	(朱点)	(朱書、抹消)	(朱書、抹消)	(朱書)
202,591	8,000	6,000	(4) [370]	7,000	1,888,791
(加筆、朱書)	(朱書)	(加筆)	(朱書、加筆)	(朱書)	(朱書)
[601]		[3]	[6,370]	[711]	[311]
				(朱書、加筆)	(朱書、加筆)
				[30,231]	

(朱書) (武平昨一二ノ七、一ノ一、一ノ一〇)  
日実ハ一月中、記落

猿籠亀吉ノ願ニ依リ同人所有ノ紫波郡飯岡村大字下  
飯岡拾六地割三拾五番字南谷地田反別四畝拾(抹消)(加筆)  
歩地価金四八六一ヲ三八〇〇ニテ買受ケ二月十日付  
ノ売渡証書ニテ同日(盛岡)区裁判所ニ於テ登記ヲ了リ  
タリ登記番号ハ地所百九十二号ナリ又昨十二月十日ヨ  
リ一月三十日迄稼行ノ炭竈山役五〇〇収入シタル由  
(朱書) (武平一日)

日 月

三

二四

盛岡裁判所在勤判事野晴安ノ所望ニ依リ加賀野八  
六番戸ヲ仕切貸シテハ如何仕切方ハ表座敷十畳裏座敷  
十畳表座敷次ノ間六畳四畳半三畳半中ノ間勝手脇ノ間  
半分台所同物置小屋菜園少々ニテ月五〇〇乃至六八〇  
〇位ノ見込ナリトノ事ナレ共八〇〇ナラハ貸シテ宜  
キ旨答置タルニ熟談ニ至ラサリシ(武平二三日付)

三一

国許所有地登記済(64)

日 月

三

日本鉄道株式会社ト売買相談中ノ水堀地二九歩ハ一  
六地割一二番ノ二ニハアラテ二七ノ一田四畝九歩ノ内  
ナル由訂正シ来リタルニ付其旨会社ヘ伝告ス

猿籠政之助古厩買受ケ従来ノ分ヘ建増度ノ処七〇〇  
〇位入用ニ付キ手伝呉ル、様申出アリ他小作人奨励ノ  
為メ米一駄二一〇〇〇手当トシテ給与(抹消)(加筆)  
ンハ如何ト申越シ承知ノ旨答タリ紛失ノ趣ニ付キ更ニ登記  
所ヘ印鑑差出シタリ(武平二日付)

日本鉄道株式会社々員池田安五郎ヨリ武平ヘ二九歩  
水堀地ノ分裂手續取運ノ催促アリタルニ付キ昨日絵図  
面添願書差出シタル由分裂ノ結果残地ハ三畝一〇歩ニ  
シテ二畝一〇歩ハ田・二三歩ハ畦畔一三歩ハ草生地ト  
為リタル由(武平九日付)

二〇

向中野一六地割二七番一ノ一字鶴子田二反三畝一六  
歩ノ内四畝二九歩同二七ノ一田四畝九歩ノ内二九歩ハ  
昨年水害ニ罹リシ田ニテ兼テ売却相談中ノ処愈金一二  
二(抹消)四六〇ニテ日本鉄道株式会社ヘ売渡シ証文ニ調印ス  
(133)

二四

山本縁ヘ貸置ク七七番井戸桁修繕ハ栗材八四(抹消)  
(加筆)ハ根本持柱用桧一丈丸太二本〇六〇位ノ由又兼  
テ監獄署ヘ注文シ置タル(瓦)土蔵用瓦ハ今般(請負)製

(58)

三〇

造廃止(抹消)付キ断ハ(加筆)ラレハ亜鉛版下シ貫度  
 旨申来ル又本宅二階ヨリ雨入りテ下座敷椽側へ漏リ色  
 壁損傷(抹消)一駄(加筆)趣(朱点)一〇宛ニテ七〇駄糶ハ  
 八(朱点)四五ニテ一駄売払ヒ手金三〇〇〇ハ一昨二二日糶  
 代及ヒ二四駄代一七八(朱点)八五八二四日ニ請取残額ハ来  
 三十日限米引替ニ請取ル筈(朱書)(武平二三、四日付)  
 鶴子畑返ハ成就ノ由(朱書)(同二三日付)

米七〇駄糶一駄代合計五〇五(朱点)四五ノ内(抹消)残金ノ内  
 国許入用差引二二〇送來ル引落高ハ八五(朱点)四五ニシテ  
 町村費、第六期地租、鶴子畑返費、七六番井桁修  
 繕費、猿舘政之助廩建手当等ニ宛ルナ  
 リ

鶴子藤村助次郎屋根葺替ニ付修繕費手伝トシテ米一  
 駄給与シタル由 味噌二樽例ノ通北上株式会社ハ托  
 シ汽車便ニテ差立タル由(朱書)(武平二九日付)

日 月  
五

四

所得税納入地届ニハ昨年ノ例ニ倣ヒ一石代価六〇〇  
 積ニテ記シ遣シタル二前三年ノ平均ハ八〇〇ナル趣  
 且又郡制施行ノ結果岩手郡紫波郡各独立ノ役所出来タ  
 ルニ付キ飯岡等ノ分ハ紫波郡長川口浩哉宛ニ認ムヘキ  
 一〇(朱書)由 颯今年モ板蔵へ入初メ相場モ好キ故残米売払度旨  
 申来ル(朱書)(武平三日付)

一一

大阪ニ所用アリ奥田義人ハ播磨明石マテ行カントノ  
 事ユヘ同伴ニテ朝六時出發ス進歩党地方遊説員等同  
 車シ道中賑敷名古屋ニ至ル元ト此地ニ下車ノ積ナリシ  
 モ奥田ノ都合ニ任セ乗越シテ夜十時頃京都木屋町大可  
 楼に泊ル楼ハ鴨川ノ西岸ニ在リ翌朝晨起シテ東山ヲ眺  
 ムレハ景色好カラサルニ非スト雖氏段々見慣ルレハ左  
 程ニモ思ハス(加筆)電話ヲ使用セントシタルニ夜分ト朝九  
 時前ハ出来ヌト云フ如何ニ京都ナレハ迎余リニ馬鹿々  
 ヲシク思ヒタルニ架設早々ノ場合ニ試用中ナレハナル  
 由大極殿側ノ紀念博覧会兼五二会展覧会ヲ通覽シ弥  
 阿彌ホテルニテ昼餐ス少シノ違ニテ(抹消)四(加筆)二時四〇分  
 ノ列車ニ後レ奥田カ衆議院書記官長ノ冠付ノ名札ヲ改  
 札掛ニ示シ御用ニテ通行スル旨ヲ告クレ任掛員ハ列車  
 ニ近ツクヲ許サス線路ヲ隔テ向フ側ニ列車ノ居ルヲ見  
 ツ、指ヲ咬ヘテ付ムモ可笑シテ汽車ヲ乗外シタルコト  
 無シト云フ落語ノ通り一列車発シタルトキハ次ノ列車  
 ニ乗ルノ外致方ナケレハ四時四〇(抹消)五(加筆)分ヲ待合シテ  
 名古屋下リノ列車ニ乗レハ乗客充滿シテ降ル者乗ル者  
 ノ競争闘ハヌ計リナリ蓋シ威海衛守備兵ノ交替ニテ  
(抹消)列(加筆)車ノ度(加筆)数カ減シタルニ京都ニハ博覧会モア  
 リ雨降勝トハ云(抹消)レ(加筆)好時節ナレハ出遊人ノ多キカ  
 為メナリ座リタル俣身動出来ヌ有様ニテ梅田二達シ奥  
 田ニ別レテ中ノ島ナル大阪ホテルニ宿ル此前ハ竹式ニ  
 懲リタリ左レハ(加筆)流行ノ花屋モ好マシカラス又厭フ

ヘキ茶代ヲ初メ彼此ニテ一泊四、五円ハ費ユルカ故ニ  
 寧口西洋流ノ旅館ニ宿ルコト、セリ晩後越前福井ノ吉  
 村禎一氏来話中南区富田屋ニ在ル大阪ノ同業者森作太  
 郎及ヒ隣室ニ泊リ合セ(抹消)「タル」(加筆)「居ル由」九鬼隆一兩人  
 ノ名前ニテ来会スヘキ旨ノ電話ヲ伝フ富田屋ハ有名ナ  
 ルニ拘ラハス未曾見ノ家ナレハ斯ル序ニ見定メ置カン  
 寝衣ノ仮暑ケレハ足袋モ穿カス宿ノ上草履ニテ出掛  
(抹消)「行見」(加筆)「タ」レハ取次ノ女中ハ不審シキ面持ニテ洪々案  
 内シ見レハ(奥)(抹消)二十畳余モ敷ル、ナラント思ハル、奥  
 ノ広座敷ニ九鬼森兩人ノミト思ノ外田中市兵衛トカ前  
 川植造トカ何トカ彼トカ一々名前モ記憶シ得又程ノ人  
 ヲカ執レモ袴羽織ノ扮装ニテ嚴メシク居並ヒタリ是ハ  
 ト思ヒタレト閉口スヘキニモアラネハ勸メニ任カセ正  
 客九鬼男ノ隣ニ座シ献酬ノ間ニ主人ハ市會議員ニシテ  
 大阪築港議案カ貴族院(抹消)(加筆)「二」在リシトキ其通過ニ尽  
 カシタル勞ニ報ユル宴会ナルコトヲ発見シタリ吾モ反  
 対ハセサリシカトモ札ヲ述ラル、程ノ事モナケレハ斯  
 クト知リナハ来マシキモノヲト後悔スルモ最早周ノ粟  
 ヲ食ヘシ後ハ甲斐ナシ森ヤ老妓ヲ相手ニ且飲ミ且談ス  
 ル中一人去リ二人引主人ノ重立チタル輩(抹消)(加筆)「ハ」(加筆)「モ」正客  
 モ何レヘカ(身)(抹消)(加筆)「影」ヲ隠シタリ吾ハ遅參ノ風来客ニハ  
 相違ナキモ彼等ノ(引)(抹消)「引」隱遁亦礼ニ非ス左レトモ彼等ノ  
 退先ヲ推察シ得又程ノ野暮ニモアラス俄紳士ニ対シテ  
 札ヲ正ス程ノ阿房ニモアラネハ残リノ主人等ノ迷惑ヲ

一五

察シテ早々帰宿シテ寝ニ就ケリ翌晩ハ例ニ依テ團十郎  
 仁和賀ヲ観シモノト朝ノ程ヨリ棧敷一間ヲ(朱点)〇六〇ニ  
 テ買切ラセ置晩食後山下雄太郎同伴ニテ千日前ニ至リ  
 タルニ近頃新聞紙ニ見ヘタル化物屋敷ヲ可笑シク仕組  
 タル外題ナリシモ何時モ程面白カラサリシ  
 元来奥田ト同行セシハ帰途高野山ニ登ラントノ目論  
 見アルカ為メナリシニ九鬼氏ハ宝物取調用ニテ初瀬ヲ  
 経何トヤラ云フ寺マテ越ス都合ナレハ高野行ヲ思止マ  
 リテ長谷ノ観音ニ參詣セヨト(抹消)「絶」(加筆)「達テ」(加筆)「勸誘モアリ  
 天氣模様モ雨ラシケレハ兎ニ角今夜ハ初瀬マテ參ルヘ  
 キ旨(加筆)「ヲ」約シ(抹消)「同」置タルカ故ニ奥田カ明石ヨリ帰着次  
 第同行セント待テトモ待テトモ早朝トノ約アルニ拘ハ  
 ラス一向沙汰無シホテルノ楼上ニ閉籠テ時々停車場ノ  
 方角ヲ眺ムル(抹消)「モ」(加筆)「コ」トモ厭果タレハ(加筆)「九時頃」人力車  
 ヲ命シテ居留地ヲ經廻リ終ニ川口ニ至ル成程日本国中  
 ヲ相手ニ引受ケテ商売ヲスル土地ノコト、テ安治川ノ  
 兩岸(加筆)「ハ」小蒸氣船帆前船ヲ以テ埋メラレ(加筆)「中央通船ノ  
 便無キカト疑ハル」大阪商船会社前ノ辺殊ニ賑ハシク  
 乗車ノ通行殆ンド六ヶ敷カリシ帰リタレハ午頃来ルト  
 ノ電報奥田ヨリ達シ居タリ聽テ同人モ着キ砂川モ偶マ  
 来会ハセ暫ラク四方山ノ話ヲ為シ四時湊町發ノ列車ニ  
 乗込ミ王子ニテ乗替ノ上(加筆)「右」金剛山鎌足公ノ墓アリ  
 ト云フ談山、孤立セル二ノ小山一ハ櫃原ノ宮趾歎火、  
 一ハ天ノ香久山ヲ見左ニハ耳無山、ト大三輪神社三輪

ノ町ヲ詠メツ、六時頃桜井ニ着キ夫ヨリ人力車ニテ一里半ノ田舎道ヲ走り七時半頃初瀬ノ井谷屋ト(加筆)旅人宿ニ入(採消)ル初瀬ハ中央ニ水流アリテ其両側數十戸建並ヒタル純(採消)然タル(採消)田舎町ニテ我旅宿ハ最良ノモノナルヘキニ矢張同者宿ニテ僅カニ新築ノ裏ニ階(採消)二間ハ当世風ナレ共既ニ九鬼氏ノ占ル所ト為リ表ニ階ノ裏ニ階ニ対スル間ニ誘ハレタリ廊下ヲ隔テ表ノ間ニハ男女交リノ参詣人大勢泊マリ合セ田舎謳杯高ラカニ謳ヒ騒々シサ云ハン方ナシ左レト我等カ着頃ヨリ雨降出シ夜ニ入ルニ隨ヒ稍烈シクナリシカハ高野行ヲ思止マリタルコソ幸ナレト思タリ昼ハ寺ニテ立派ナル精進料理ヲ調(採消)理(加筆)テ我等ヲモ待(採消)設ケシ趣惜シキコトシケリ夜ハ吉野郡長ノ贈物ナリトノ鱒ノ馳走アリタレ氏甘クモナシ十一時頃雨ノ晴間ニ乗シテ散歩セントテ宿ノ女ニ提灯灯サセ長谷寺ヘト登リタレ氏文目モ分ヌ暗夜ナレハ九鬼殿ノ例ノ講釈ハアリタレ氏何一ツ見ヘハコソ唯家根葺キタル数十間ノ石階段(採消)額堂ノ如キ広キ堂ノアリシコトノミハ確カナリ山門ヲ出ル頃又降出シタレハ下女ニ傘借サセテ宿ヘ戻リタリ散歩トハ云フ条何ノ為メニ闇ヲ冒シテ探リ足ニ長石段ヲ昇降シタルカ後ヨリ思ヘハ亦闇ノ如シ部屋ハ何トナク薄臭ク奥田ハ夜具モ臭シトテ痛ク嘔キヌ一体旅宿ハ塵末ナルカ故ニ上客ハ皆寺ニ宿泊スル(採消)車夫ノ話今ソ思当ル

一六

観音(採消)堂(加筆)寺(加筆)ハ初瀬ノ長谷寺ナルニ初瀬寺ト唱ヘ習ハセシヨリ何時シカ長谷寺ヲハセ寺ト訓ムコト、為レルハ恰カモ春日ヲカスガト訓ミ習ハセルカ如シト云フ山門ニ至ルマテハ普通ノ石階段ナレ氏門内ヨリ堂ニ(採消)登ル間ハ長廊ニシテ下ニハ(採消)色(採消)種(加筆)々ノ形ノ堅石ヲ布散ラシ数歩毎ニ極メテ低キ階段ヲ設ケタルカ故ニ登ル者ハ幾ント段アルヲ覺ヘサル程(採消)二テ(加筆)廊ノ外側ニハ牡丹ヲ栽並ヘタレハ花ノ盛ニハ観物ナルヘケレ氏今ハ僅ニ一二輪咲残レリ禅寺ニ牡丹花トハ類稀ナル取合セト思ハル九鬼殿ノ案内ニテ先ツ方丈へ通ル屋後ニ山ヲ負(加筆)前房ハ崖ニ瀕ミ初瀬川(採消)狭溪ヲ隔テ、樹木鬱蒼タル(採消)連山ヲ眺ム樹中楓多ケレハ秋色ハ左コソト想ハル従前ハ此等ノ諸山モ寺有二属セル由ナレ氏維新ノ際例ニ依リテ取上ケラレ寺領大ニ減縮シタ(採消)ト雖氏今尚ホ三万余坪アル趣何分幽静ニシテ塵氣ナク(採消)日(加筆)月(加筆)モ此処ニ住マハ吾等ノ骨ハ兎モ角責メテ皮位ハ全ク俗氣ヲ脱スルナラントテ笑ヘリ余人ナラハ宝物取調掛ノ同行ヲ悦ヒモスランカ吾等ハ浅ク観ンコトヲ欲スル不風雅者ナレハ講釈杯ハ可成セヌトノ条件ニテ漸ク同伴ヲ諾セシコトナレハ寺僧等カ色々宝物ヲ取出シ懸リタレ氏九鬼殿ハ(採消)流(加筆)石(加筆)約諾ヲ重ンシテソコニ立去ラレ夫ヨリ昨夜暗カリニ板踏鳴ラセシ額堂然タル観音堂ニ到リ狩野法眼トヤラノ画タ牛若辨慶ノ両額面ヲ指示セラレ又右ヘ坂ヲ下

(61)

リテ本〔<sup>抹消</sup>戸〕坊ラシキ広キ寺ニ案内セラレ茶菓子ヲ供セラルル驢テ山門ヲ出テ坂下ニ待居タル人力車ニ打乗リ昼頃桜井駅皆萃楼ニ昼食ヲ為シ二時十五分同〔<sup>抹消</sup>核〕所発ノ列車ニ乗リ王子ニテ乗替ノ上四時半過奈良対山楼ニ着テ礪下失念シタル大事ヲ思出シタリソハ余ノ義ニ非ス観音像ヲ拝セサリシコトナリ予ネテ鎌倉長谷観音寺ノ僧ノ講釈ニ双方ノ尊体ハ同一ノ〔<sup>抹消</sup>楠〕樟樹ノ本末ニ彫刻セラレタル由聞及ヒタルニ本家本元ノ像ヲ見損フトハ返スノモ残念ナリ吾不氣付ノ尻ヲ他人ニ塗付クルモ愚痴ナレトモ案内者カ風雅過クルカ故ニ分明ニ見ヘモセヌ古額面杯ヲ示シテ肝腎ナル本尊ノ礼拝ニ注意シ呉レサリシニモ因ル次第ナリ此日風立ハシタレトモ晴天ナレハ今ハ珍クモ無キ奈良辺リニ濛フヨリハ高野二趣キタル方遙カニ優シナ〔<sup>抹消</sup>レ〕リシト〔<sup>抹消</sup>毛〕テ窃カニ悔エルモ矢張愚カナリ左レト奥田ハ未曾見ノ土地ナレハ着早々〔<sup>加筆</sup>自分案内者ト為リテ〕大仏殿、興福寺、春日神社ヲ巡覽シ〔<sup>加筆</sup>奥田ニ勸ムレト何時ニナク因循ナレハ独リ若草山ニ登ル女兒供サヘモ見ヘタレハト輕ンシタルニ見ルトハ大違ニテ中々ニ急ナレハ頂近キ頃ハ足モ痿ヘシ計ニ覺ヘタリ頂ニハ掛茶屋アリ奈良市街ハ勿論古都ノ跡西側ノ神社ヲ初メ諸山ノ眺面白シ乍去若草山ハ眺ムル方好シ〔<sup>抹消</sup>タリ〕夜十時過月ニ乗シテ猿沢池マテ散〔<sup>加筆</sup>歩〕シタルニ恰モ陰曆四月十五〔<sup>抹消</sup>日〕夜〔<sup>加筆</sup>二〕当リ団々皓々菊水楼前ノ辺リハ松影地ニ敷テ模様極メテ鮮明ナレ

一七

ハ足ノ踏ミ処無キヲ覺ヘタリ  
 奈良博物館ハ未タ京都程ニハ行ネトモ出品稍整フタレハ是非ニ一覽アリタシ尤モ今日ハ月曜日ニテ閉館日ナレト特ニ開館セシムケレハ一二時間ノ猶予ヲ請フヘシト平常ヨリ一層勿体ヲ付ケテ九鬼殿ハ申サレタリ吾等兩人ハ難有迷惑ナレハ体善ク断ハラントシタルニ昨午後ヨリ来会ハセ居タル奥田ノ兄ハ頻リニ懇望スルニ因リ止ムヲ得ス特別ノ厚意ヲ謝シツ、猶予時間ヲ利用セントテ下町ノ方へ出掛ケ名物ノ青丹好シヲ購ハントスレトモ折悪シク出来合タル菓子無ク奈良団扇ハ如何ニト立寄タル店ニハ此ハト思フモノモナシ三条通ヨリ左ニ折レテ細キ横町ヲ行キタルニ右側ニ古暖簾ヲ掛ケタル穢ラシキ家アリ戸口ヲ入レハ土間ニテ右ニ切張ダラケノ四枚障子立タリ此家ナリト教ヘラレテ来ハシタルモノ、余リニ怪シケレハ古梅園カト問ヘハ矢張左様ナリト答フルカ故ニ製墨場ヲ觀セテ貰度由〔<sup>加筆</sup>ヲ〕告レハ初メテ手代〔<sup>抹消</sup>カ〕障子ヲ開ケテ承知ノ旨表シタリ土間ヨリ直に裏口ヲ出ツレハ蠶造ノ工場二棟アリ案内カ不順序ナルカ為メ製墨ノ手續善ク分ラネトモ伊賀地方ヨリ〔<sup>加筆</sup>来ル〕松烟ノ俵詰メアリ油煙製造所ニハ横長キ部屋ノ両側一面ニ〔<sup>抹消</sup>釣〕棚アリ幾百ノ燈明土器ハ〔<sup>抹消</sup>蓋ヲ〕笠ヲ覆フテ並列ス煙煤膠ヲ煮ル〔<sup>抹消</sup>釜〕者アリ団子〔<sup>抹消</sup>者〕然ト黒キ塊リヲ捏ル者アリ三方低ノ〔<sup>抹消</sup>雛形〕型ニ入レテ蓋ヲスル人型ヨリ取外シテ〔<sup>加筆</sup>乾カス為メニ〕砂

〔ノ〕上ニ墨ヲ乾カス人〔ヲ〕振懸ケツ、台ニ墨ヲ積重ヌル人〔其〕砂ヲ又火ニテ乾カス人杯アリ云フ迄モ無ク此処モ彼処モ黒煤ダラケ眼計リ光ラ〔七〕〔ス〕ル〔居ル〕〔人々カ〕其内ニ動キ居ナリ土蔵ヲ見レハ製墨ト型トカ累々トシテ堆カシ各兒女ノ学校用ノ墨ヲ仕〔入〕レテ博物館ヘト赴キタルニ下駄穿連ハ裏ヘ廻レトテ玄関ヨリ突返サレ裏〔ノ〕入口〔ニ〕向フ途中ニ札売場アリ買ハント云ヘハ造作モ無ク売リタレハ特別ノ縦覧者ヨリモ見料ヲ取ルハ厳シキ掟ナリトテ裏口ニ至レハ例ノ山形ノ下足立ニ蝙蝠傘ヲ横ヘ下駄ヲ釣下ケ〔タル〕〔アリ〕先客アリトハ甚タ怪シムヘシト云ヘハ臨時出張役員ノ所持品ナラントノ弁解ニ強テ穿鑿モセス入場スレハ小役員出迎テ案内ス今日ハ休暇日〔ナル〕〔由〕ナルニ嘸迷惑ナラント云ヘハ否トヨ東京ニテ八月曜日ニ〔休〕メトモ〔此〕本館ニテハ然ラスト答フ道理コソ札モ売リ先客モアリタレ可惜頭ヲ無駄ニ九鬼殿ヘ下ケタルコトノ馬鹿ラシサヨト〔テ〕大笑セリ昼食後奥田兄弟ハ法隆寺ヲ觀テ大阪ヘ帰リ九鬼殿ハ初瀬ノ奥ヘ吾ハ名古屋へ行カントテ別レ、ニ出立タリ吾カ奈良ヲ發シタルハ二時四十分ナリシカ段々ニ定時ニ後レ遂ニ四時三十六分京都發ノ上リ列車ニ乗移ルコトヲ得ス〔徒ラニ〕〔独リ〕私設鉄道ノ緩慢不規律ヲ憤フルモ罵ルヘキ相手〔モ〕無ケレハ京都ホテルヘト急キタリ着ヲ急キタレ任着テ見レハ退屈ナリボーイハ東京富士見軒以来ノ旧相

一八

識ナレ任夜ヲ語り更カス訳ニモ行カス依テ吉田佐吉渡辺留三郎ヲ招キテ晚餐ヲ供〔ニ〕シタルニ両氏ハ更ニ吾ヲ強テ有名ナル一力楼ニ誘ヘリ京都ノ歌舞妓ノ風俗モ今ハ大ニ特色ヲ失ヘタレハ見ルニ足ラス唯楼ハ旧家ナルカ故ニ奇麗ニハアラネトモ何処ヤラ床シキ処アルカ如シ

朝飯モ疾クニ了リ廳テ九時過ノ列車ニテ東ニ帰ラント心構ノ折柄叩モセスニ部屋ノ戸ヲ少シ開ケソツト出タルハ額ト頤トニ距離尋常ナラス責メテハ鮮ナラスモ哉ト思ハル、白癩ノ飛模様アル顔ニシテ〔爾モ〕〔漸ク〕現ハル、ニ隨ヒ六十路ヲ幾ツトヤラ越シタル女体ニ属スルモノト知ラレタリ何ヤラ覺〔ノ〕アルカ如クナレ任去迎夫ト定メ難ケレハ唯見詰メ居タルニ彼口カ開カレ昨夜ノ誘引〔ヲ〕承諾シテ〔二〕任カセ洋食ノ馳走ヲ受ケントテ来レル旨ヲ啓フスニ因リ人ハ思出シタレ任左ル言質ヲ遺セシトモ覺ヘス〔大方〕吉田等カ唆カシタルナラン〔又〕誤リテモ斯ル優遇ノ語ヲ〔伝〕賜フヘキ物体ナラネハ大方同伴ノ輩カ唆カシタルナラント推量シタレハ夫ニシテモ京都女ハ噂ニ勝リテ厚カマシキ者哉レハ少シモ動セス望ニ応スヘキ由ヲ告ク彼ハ膳部ヲ此部屋ニ持運ヒ貰ヘヌヤト〔問〕フ此上彼ノ食事ヲ陪覽シテハ一命ニモ関ハラナレハ旅館ノ規則ニテ出来ヌ趣ヲ告ク〔彼ハ〕車夫ヲ還スヘケレハ車賃ヲ恵マレヨト請フ此婆何トテ車ニ乗ルヘキ晨起シテポク、歩

ミ来レルニ相違ナシト察シタレハ車夫カ居ラハ帳場ヨ  
 リ賃ヲ渡サスヘシト告ク兎角スル中年齡三十位ノ女ニ  
 人笑声ト共ニ戸口ニ来ル彼等ハ流石ニ良心ノ磨滅未タ  
 甚シカラサレハ遠慮カリテ矢庭ニハ這リ得ヌ体ナリシ  
 カ老婆ニ元氣付ケラレテ入来ルヲ見レハ衣服ハ蠹末ナ  
 レト一人ハ仲居ニテ一人ハ芸妓ヲシ、朝懸ニ三女ニ押  
 寄ラル、ト云ヘハ〔抹消〕〔加筆〕〔意〕〔吾ハ〕通人ニテモアルカ如クナ  
〔方〕〔抹消〕〔加筆〕幸ナレ漸ク階下ニ追下ロシタレハ〔抹消〕〔臆テ〕オ  
 ート・ミール位ヲ啜リタリト覺シク暫クニシテ登リ来  
 リ吾カ宿払スルヲ見テ長丁場顔ハ食事後博覽会ヘテモ  
 連レテ貰ハント思ヘシニト云フ吾ハ特別ノ阿房ニ見立  
 ラレタルモノニモアランカ扱モく京都女ハ噂ニ勝リ  
 テ厚カマシキ者哉彼等ヲ置去リニシ〔抹消〕〔テ〕這々ノ体ニテ  
 七条ヘト駈付ケ十一時五分發ノ列車ニ乗り草津ニテ  
〔加筆〕〔午後〕一時少シ前同所ヲ發シタリ此迄一度ナラス関西  
 線ヲ通行シタレト或ハ雨雪ニ遮キラレ或ハ夜に入ルカ  
 為メ未タ沿道ノ景色ヲ眺メ尽〔抹消〕〔シタ〕〔加筆〕〔サ〕ルカ故ニ今  
 日シモ態ト官線ヲ捨テ此道ニ〔抹消〕〔依〕〔加筆〕〔由〕レリ〔抹消〕〔有名ナル  
 関〕柘植停車場ノ左ニ青草離々トシテ奈良ノ若草山ニ  
 見優サルヘキ山アリ旗山トカ云フ実ニ車ヲ下リテ登リ  
 見度様ナリ此処ヨリ関ニ至ル間山ノ景色ハ樹ト云ヒ岩  
 ト云ヒ頗フル面白シ有名ナル筆捨山モ此辺リニアルニ  
 ヤ左レト関ノ地藏モ墨染桜モサヤカニハ見ヘス関ノ戸

一九

餅モ鬻ク者無ケレハ形サヘモ知ラレス龜山ハ草津名古  
 屋間ノ上下列車カ行違フ所ナルノミナラス津ヲ経テ太  
 神宮ヘ赴ク列車ノ發着スル所ナ〔抹消〕〔ルカ故ニ〕〔加筆〕〔レハ〕同時  
 ニ三四列車カ落合フカ故ニ乗換ノ人氣ヲ注ケサレハ淀  
 川ニ於ケル弥次北八〔抹消〕〔ノ〕〔下〕運命ヲ同フスルコトアル  
 ヘシ尤モ名古屋ヨリ草津ニ出テ又ハ同所ヨリ名古屋ニ  
 赴ク人ハ乗換フルニ及ハサルナリ桑名ノ時雨蛤消化悪  
 カラントテ買取ラス名古屋ヘト急キケリ  
 明治一五年五月一〇日付高木貞作ヨリ買受ケタル京  
 橋加賀町一八番地二等煉瓦家屋母家一〔抹消〕〔三〕〔加筆〕〔三〕坪五合  
 建足シ三坪五合ヲ上遠章造ノ世話ニテ石井正吉ヘ金  
〔朱点〕一〇〇〇〇〔朱点〕ニ売渡シタリ〔朱点〕〔四ノ二一〇日57〕  
 深川表三井家所有ノ古土蔵一棟ヲ金二一〇〇〔朱点〕五〇ニ  
 テ同シク大工上遠章造ノ手ヲ経テ買受ケタリ間口三間  
 ニ奥行二間尤モ柱一一本ハ根継ナリ〔朱点〕〔五ノ一〇日58〕  
 年來精勤ニモアリ近來諸物価騰貴ノ為メ暮方〔抹消〕〔ノ〕困  
 難ヲ察シ從來ノ報酬二一〇〇〔朱点〕ヲ加ヘ来月ヨリ月給  
 七〇〇〔朱点〕遣ハス旨申送りタル所武平ヨリ礼状来ル  
〔朱点〕〔五ノ一四日武平〕  
〔抹消〕〔過ル〕〔加筆〕〔昨年〕三月三十日登記ヲ済セタル地所家屋ノ  
 登記番号ハ左ノ如シ尤モ加賀野ニ地割六六番字久保田  
 宅地三〇四坪四四ト同所建物本家三〇坪二階四坪土蔵  
 一〇坪二階七坪トハ明治二三年一二月二三日横田末次  
 郎ヨリ買受ノ節地所ハ第一〇五号建物第六一号ノ番号

ニテ登記シアレハ此度ハ更ニ登記ヲ受ケス〔(57)(7)〕

〔重出〕 市加賀野地所第一七〇〔(朱書) (抹消) (加筆) (六〇) 号〕

〔朱書〕 同 〃 〃 四五四号

〔朱書〕 村新庄 〃 〃 二六五号

〔朱書〕 向中野 〃 〃 二六七号

〔朱書〕 同 〃 〃 二六八号

〔朱書〕 同 〃 〃 二六九号

〔朱書〕 下飯岡 〃 〃 二一〇号

〔朱書〕 同 〃 〃 二一一号

〔朱書〕 永井 〃 〃 二四八号

〔朱書〕 羽場 〃 〃 二三七号

〔朱書〕 津志田 〃 〃 二三九号

〔朱書〕 赤林 〃 〃 二九八号

加賀野二地割二三番字久保田〔(朱書) (加賀野建物第一〇四号)〕

本家瓦葺木造二階造々作付 建坪六五坪七五 二階坪七坪五 一棟

土蔵葺木造二階造々作付 建坪二二坪 二階二二坪 〃

板蔵 〃 木造平屋無造作 建坪一二坪〔(抹消) (四)〕 〃

小家 〃 二階造 〃 建坪九坪 二階四坪 〃

向中野一六地割一〇番字鶴子〔(朱書) (向中野建物第二七号)〕

本家茅葺木造々作付平家 建坪二七坪六 〃

〃 〃 〃 〃 〃 三二坪二 〃

〃 〃 〃 〃 〃 三三坪二 〃

下飯岡一四地割八七番字下久根〔(朱書) (下飯岡建物第二五号)〕

(65)

本家茅葺木造々作付平家 〃 五三坪三六 〃

同 八八番字同 〃 〃 〃 〃 四四坪五九

同 一九地割一九番字橋本 〃 〃 〃 〃 〃

本家茅葺本造々作付平家 建坪六五坪八一 一棟

羽場一三地割四三番字新田〔(朱書) (羽場建物第三号)〕

本家茅葺木造々作付平家 建坪五二坪三二 同

同 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 六坪 同

右ノ外曾テ買受ケタル地所建物ノ登記番号ヲ序左ニ

記ルス

下飯岡一七地割二九番字田中〔(朱書) (下飯岡地所第二六七号)〕

田二反二畝一六歩 明治二七ノ一ノ二六日浅沼大吉

ヨリ買受ク

〃 一六地割三五番字南谷地〔(朱書) 〃 第一九二号〕

田四畝一歩 〃 三〇ノ二ノ一〇日猿館亀吉ヨリ買

受ク

本郷区湯島天神町一ノ六七番地

木造柿葺平家〔(抹消) (二) 坪五〕 一二坪五 〔(朱書) (第五一号)〕

〃 瓦葺二階家坪 五坪七五内〔建坪五坪五五 二階坪四坪九三 〕 (朱書) (第一二二号) 〃

明治二六ノ八ノ三二日菊池千代ヨリ買受ク

牛込区市ケ谷砂土原町一ノ二番地内三号地〔(抹消) (分割甲号) 〕 (朱書) (地第四号) 〃

宅地一三三三坪九 外二崖地一四一坪四八



同 <sup>〔抹消〕</sup>〔第一号〕 <sup>〔朱書〕</sup>〔建第四号〕

木造瓦葺平家造作付 六二坪五 第一号 一棟

同 一六坪二五 第二号 〃

同 一六坪二五 第三号 〃

同 一二坪五 第四号 〃

同 一二坪五 第五号 〃

同 一二坪五 第六号 〃

同 <sup>〔抹消〕</sup>〔八〕同 <sup>〔抹消〕</sup>〔柿葺〕 <sup>〔朱書〕</sup>〔建第七号〕

木造柿葺平家無造作 三坪 第七号 〃

二一 <sup>〔抹消〕</sup>〔〇〕今一月以来ノ金銭出入明細帳ヲ送り越ス惣垣直

シモ済松尾前畑返モ残地三分ノ二以上披立ノ由 <sup>〔朱書〕</sup>〔二〇日武平〕

二九 松尾前畑返モ去ル二四日竣工請負金八五〇〇ニ夫

賃騰貴ニ付キ手当五〇〇合計九〇〇ニテ田ニ交換

セラレタルナリ 栄助作場道自普請ニ付キ酒二升代

〇六〇肴料〇二五合計〇八五具遣ハシ政之助作田

地沿ノ堰崩壊ノ趣 <sup>〔朱書〕</sup>〔二八日付武平〕(5)

三二 所得税届ニハ昨年ノ例ニ依リ一石六〇〇ト算出シ

タル二前三个年ノ平均高今年八八〇〇ニ当ル由且郡

制実施ニ依リ紫波郡役所新設セラレタルニ付同郡内ノ

所得ハ郡長川口洪哉宛ニテ別紙ニ届出ツヘキ旨申来ル

米価ハ七五〇ニ引キ上リタルニ付キ一〇駄計リ残シ

余ハ売払ハヌ哉ト問来ル秋頃迄持堪ヘル方利益ナレト

又候躰入初メタル趣ニ付キ止ムヲ得ス同意ス

<sup>〔朱書〕</sup>〔三〇日付武平〕

日 月

六

二 佐藤福太郎ハ仕付米借受ストノ約ニテ未納米ノ年賦

ヲ許シタルニ肥料騰貴ニ付キ借用方願出 <sup>〔抹消〕</sup>〔二付〕

<sup>〔加筆〕</sup>〔タレハ〕片馬貸遣ハシ度旨ニテ承諾セリ <sup>〔朱書〕</sup>〔二日付武平〕

二 当座預リ金ノ利子ハ七月一日ヨリ日歩 <sup>〔朱書〕</sup>〔一五二改〕

正ノ旨第二七国立銀行ヨリ申来ル右ハ年利五朱四厘ハ

毛ニ当ル

二 一昨夜十時ノ直行列車ニ乗り昨夕六時大阪ホテルニ

着今朝用済タレハ小楠公ノ社ヲ拜センモノト <sup>〔加筆〕</sup>〔城北ノ〕

片町二時半発ノ列車ニテ法学院々友紀志嘉實ト四条畷

ヘト出立 <sup>〔抹消〕</sup>〔セリ〕 <sup>〔加筆〕</sup>〔ス〕凡ソ今迄乗リタル鉄道ノ中此程見

スホラシク持遊然タルモノハ無シ車室ノ唱モ特等並等

トテ二種ノ外ナク <sup>〔加筆〕</sup>〔其〕 <sup>〔抹消〕</sup>〔車〕 <sup>〔朱書〕</sup>〔白〕構造ハ悪ク飾付ハ汚レ発

着時間ハ不規則ニシテ進行遅緩ナレハ何トシテモ馬車

鉄道ニ乗レリト外思ハレス <sup>〔加筆〕</sup>〔ママ〕<sup>〔朱書〕</sup>〔マ〕<sup>〔朱書〕</sup>〔マ〕

如ク思ヘシカ之ニ比フレハ尚優レリ其癖停車場ノ名ハ

六个敷放出、住道ハ字ヲ見テ訓ムヘカラス放出ハ忘レ

タリ住道ハ「スミノダウ」ト訓ムナリ此線路ニハ坂モ

無ク橋一ツナケレハ建築ハ容易ナリシナラン三〇分計

リニテ四条畷ニ着右へ折レテ坂ヲ登レハ山ノ中腹ニ畷

二四

神社アリ境内処々ニ料理六七軒葎簀張掛茶屋三四軒アリテ其他ニハ何ノ家モ無ナシ誰カ来リテ此場所不相応ニ多キ料理店ヲ賑ハスニヤ暇ホテルト云フ料理店ニ憩ヘハ此頃ノ強風ニ家根ヲ毀サレタリトテ普請中ナリシ西ヲ受クルカ故今以後夏ハ好マシキ処ナルマシ〔抹消〕左レトモ前面ノ田ハ勿論南方遙カニ大阪ノ市端四天王寺ノ五重塔〔加筆〕晴天ナレハ淡路島ヲモ望ミ得ヘキ由ニテ風景佳ナラサルニ非スト雖共厭キ易キ質ノモノナリ後ノ山ハ飯盛山ニテ昔ハ城ノ在リタル所ト云フ山ノ奥ニ瀑、山ノ左数丁ニ観音アル趣ナレト熱ケレハ尋ネヌ帰途真直ニ突当レハ小楠公ノ首塚ト唱フル所ニ樟木ノ大木ト石碑アリ旅館ニ帰レハ砂川、山下、柿崎ノ使アリ何トヤラ云フ北新地ノ席ニテ馳走ヲ饗ケタリ

湊町六時十分発ノ列車ニ乗リ王子ニテ乗替ヘ中將媛蓮ノ蔓陀羅ノ古蹟當麻寺ニ近キ下田ヲ經高田ニテ又〔加筆〕南和鉄道ヘ乗替ヘ左ニ畝火、香久山、三輪山ヲ見ツ、新庄ニ至ル柿本人麿社ヘ五丁トノ榜杭アリ次ハ御所ニテ沿道ノ最大市ト見ユ葛〔抹消〕〔加筆〕吉野ヘ二里トノ揭示アリ北宇智ニ至レハ高崎直江津線ノ松井田ニ於ケルカ如ク列車ハ一旦後戻リシテ漸ク停車場ニ着ク千早城ヘ二里〔抹消〕由金剛山葛城宮ヘ一里五丁ノ由次ハ五条ニテ〔加筆〕湊町ヨリ此処マテ中等車賃〇七八ナリ五条ハ中々繁昌ノ地ニテ高野街道中首位ノ市ナルヘシ高野山下学文路マテ定ノ賃銭ハ〇四〇位ナレト

早着ヲ欲シテ二人曳ノ車ヲ一〇〇ニテ僦ヒ走出シタリ五条ヨリ和歌山ニ達スヘキ紀和鉄道ノ工事最中ナル凡ソ一里許リ行タル処ニ山坂アリ真土山トカ待乳山ト〔加筆〕云フアリ其麓ニ〔加筆〕隅田川ト云フ細谷川アリテ之ニ架ケタル橋ヲ兩國橋ト云フ大和紀伊ノ境ナレハナリ五条以東路ハ多ク〔加筆〕紀ノ川即チ昔ノ吉野川ニ沿ヒ橋本ニ至リテ川ヲ渡リ坂ヲ登リテ学文路ニ着キタルハ十一時前ナリシ五条ヨリノ里程三里許リナリ憩ヘシ宿屋ハ苧萱ノ妻子カ宿リ〔抹消〕〔加筆〕妻カ終ニ果シ家ニテ乗来リシ駕籠ノ棒ナリト云フサヘアリ駕籠賃ハ山上龍泉院マテ三里ヲ三人輿トシテ一〇ト定メタルニ輿丁ノ支度長クシテ十一時半頃漸ク出発セリ〔加筆〕左ニ苧萱堂ヲ〔抹消〕見聽テ過ル〔加筆〕屋上ニ立チテ誰ヤラノ名ヲ〔抹消〕喚乙高声ニテ喚フ者アリ何事ソト問ヘハ其家ニ臨終ノ人アリ其名ヲ喚ヘハ其魂返ルコトアリトノ訊ナル趣暫クノ間ハ重モニ登リニテ大ニ下リシ〔加筆〕〔カネ〕河根ト云フ宿アリ学文路ヨリ一里計リナリ宿屋モ料理屋モアリ〔加筆〕外ニ又若坊主ノ破戒ヲ促カス者モアリ〔抹消〕〔加筆〕河根川ニ掛ケタル〔加筆〕千石橋ト唱フル釣橋ヲ渡リ又登リテ西ノ郷一名神谷ノ宿ニ至ル〔加筆〕此辺ニ九度山ニ出ル岐路アリ此宿ハ高野ニ最モ近キ村ニテ僧侶ノ俗用ヲ達スル最便ノ所ナリ隨テ不正ノ用ヲ達セシムル機関モ備リ年若ク不相応ノ〔抹消〕粧ヲ擬ラセル女数多見ユルノミナラス或ル料理屋ノ一間ニハ現ニ三絃ノ音謳歌ノ声湧カ如クナリシ後

(67)

ニ龍泉院ノ僧ノ語ル所ニ依レハ山上ノ〔大中〕<sup>(加筆)</sup> 学林ニ遊  
 フ若僧原ハ神谷<sup>(カヤ)</sup>ノ為メニ身ヲ誤マルコト尠ナカラスト  
 云フ〔又登〕<sup>(抹消)</sup>テ長キ坂ノ下ニ来ル此処ニ婆殿鹿ノ忠義  
 〔ラ喚〕<sup>(加筆・抹消)</sup>ル、ヤハ休憩所ヲ設ケ且高野詣人カ常ニ突キ  
 歩行ルク且又□杖ヲ商ナフ吾等宿外レヨリ十町許ニ  
 シテ極楽橋ヲ渡ル此辺ヨリ愈靈場ヲシクナルカ故ナ  
 〔ル〕<sup>(抹消)</sup>〔ラ〕<sup>(加筆)</sup>ン忽チ嶮岨ナル坂道ニ〔行〕<sup>(加筆)</sup>掛リ折ルレト曲レ  
 任中々尽キス両側ニ八百年ヲ経タル老松生茂リテ昼  
 尚ホ薄暗ク罪障アル者ハ胸中自ツカラ〔不〕<sup>(加筆)</sup>安ノ懷ヲ為  
 スナラン左ニ底ノ見ヘヌ深谷ヲ詠メツ、漸ク平地ニ達  
 スレハ不動尊アリ其堂下ニ休茶屋アリテ茶菓ノ外高野  
 詣連カ携フル杖ヲ商フ又十五六町ニシテ昔ノ女人堂ニ  
 至ル地藏尊ノ露仏アリ之ヲ過レハ木柵ト門トアリテ結  
 界ノ跡ヲ示ス又境内標アリ四五〇町〔歩〕<sup>(加筆)</sup>近クアル由ヲ  
 示ス門ヲ入〔リ〕<sup>(抹消)</sup>〔レ〕<sup>(加筆)</sup>ハ一心院谷ニテ〔参〕<sup>(抹消)</sup>突当リニ参詣  
 人所縁坊取調所トテ参詣客〔生国〕<sup>(抹消)</sup> 生国、人数及ヒ落着  
 先〔及ヒ〕<sup>(抹消)</sup>〔ラ取調乙〕吾ハ故アリテ龍泉院前住職ヲ識ル  
 カ故ニ同院ニ宿ル方何カノ都合好カラント思ヒ南部家  
 ノ菩提寺ナル遍照光院トハ云ハス龍泉院ト届ケタリ五  
 室谷ナル波切不動前ヲ過キテ三時過キ千手院谷ナル  
 〔同〕<sup>(抹消)</sup>〔龍泉〕<sup>(加筆)</sup>院ニ着キ楠氏ハト問ヘバ折悪ク不在ナル由  
 ナレト兎ニ角一夜ノ宿リヲ求メタル〔二〕番僧ハ奥座敷  
 ヘト案内セリ北向ニテ至テ陰気ナレト稍新ラシ、日尚  
 ホ高ケレハ何処ヲカ見物セント望ミタルニ奥ノ院コソ

然ルヘケレ〔ト〕<sup>(加筆)</sup>云フ即チ例ノ長靴ヲ穿テ出ツレハ僧ナ  
 ラテ書生ヲシキ若者導キテ突当リノ書籍珠数其他ノ名  
 産ヲ売捌ク店ニ至リ案内ヲ頼ムト云ヘハ店主ハ畏リテ  
 丁稚ヲ出ス蓋シ各院坊ニ出入ノ案内專業者アリテ僧侶  
 自カラハ指導セヌ慣ト見ユ夫所ニテ山ノ全圖ヲ購ヒ丁  
 稚ニ連ラレテ金剛峰寺ノ横ヲ通り左ニ折レテ小田原谷  
 ニ出ツ〔レ〕<sup>(抹消)</sup>〔レ〕<sup>(加筆)</sup>ハ路幅〔モ〕<sup>(抹消)</sup>〔ハ〕<sup>(加筆)</sup>広ク両側ノ寺院〔モ〕<sup>(加筆)</sup>在  
 リシ昔〔ハ〕<sup>(抹消)</sup>ハ嘸<sup>(ハ)</sup>壯麗ナリシナラン右側〔ノ〕<sup>(抹消)</sup>ニハ明治  
 二〔二〕〔三〕<sup>(抹消)</sup>年トヤラノ火災ニ罹レル院坊多ク着ノ折通  
 過セシ所ト同シク焼残リノ坊ニ何々院何々院ト書シタ  
 ル新シキ表札〔数枚〕<sup>(加筆)</sup>アリテ院坊ノ同居ヲ示セリ次ハ蓮  
 花谷ニテ右方遙カニ美福門院ノ御陵ヲ拜シ左側ノ遍照  
 光院ノ門ニハ丸ニ対ヒ鶴ノ紋印アリテ南部家ノ宿坊ナ  
 ルヲ示〔シ〕<sup>(抹消)</sup>〔ス〕<sup>(加筆)</sup>蓋シ此院ト清浄心院トハ現在ノ宿坊中  
 ノ最大最良ナルモノナリ一ノ橋ヲ渡リテ奥院ノ城内ニ  
 入ル此処ヨリ東北一八丁ノ間ハ総テ墓場ナリト〔云フ〕<sup>(抹消)</sup>  
 〔案内〕<sup>(加筆)</sup>者ハ云フ成程左右両側ニ石碑立林シ多クハ旧大  
 小名ノ墓石ナレト佷平氏ノ分モアリ又歴史上名高キ人  
 々ノ分モアリ右側ニハ熊谷直実平敦盛、親鸞上人、多  
 田満仲、武田信玄、石田三成、明智光秀、浅野内匠頭  
 左側ニハ曾我兄弟、織田信長、浮田秀家、小早川隆景、  
 柴田修理、佐久間玄蕃、継信忠信、筒井順慶等はナリ  
 〔而シテ〕<sup>(加筆)</sup>山中最大ナルハ駿河大納言ノ墓石ナリ又奇ナ  
 ル供養石ニハ左側ノ北海道魚鱗供養、朝鮮陣碑、江戸

燔死碑ナル光秀ノ碑ハ主弑ノ罰ナリトテ石裂結廻シテ  
 纒カニ支ヘラル中ノ橋ヲ渡レハ左ニ流汗地蔵アリ吾眼  
 ニハ汗見ヘヌハ信心ノ薄キ故ニヤ其傍ニ薬井アリ又姿  
 見ノ井トモ云フ井底ニ影ノ映セサル者ハ三年内ニ死ス  
 ル由窺キタルニ吾姿映リタレハ〔大ニ〕〔先ツ〕三年間ハ  
 〔誅〕〔生〕命〔八〕請合ナルヘシ〔加筆〕〔保險料ヲ支払〕ハサルヘ  
 カラス浅野内匠頭ノ玉垣ハ〔五〕同県人阿部浩カ修復セ  
 ル旨ノ標示アリ如何ナル因縁アリテニヤ之ヲ過クレハ  
 護摩所御供所アリ数歩ニシテ最終ノ橋ナル御廟橋ヲ渡  
 ル橋下ノ谷川ヲ玉川ト称ス右側ニ春日局ノ墓ヲ見左側  
 ニ歴代ノ御齒髪爪塔ヲ拝ス英照皇太后ノ御齒髪モ相当  
 ノ場所ヲ見立テ、埋メ奉ル〔由〕〔笠〕ニテ目下金剛峰寺  
 カ預リ奉リ居ル由石段ヲ登リテ突当リハ灯笼堂〔二〕  
 〔下〕テ〔拜殿ナリ〕間口一八間ニ奥行七間半ノ元拜殿ナ  
 リ弘法大師空海カ嵯峨天皇ヨリ高野ヲ賜ハリシハ今ヲ  
 距ルコト一〇八二年前ノ弘仁七年ナリシニ其後堂宇荒  
 廢セルヲ嘆キ長和五年僧〔杵〕〔祈〕祈親之ヲ中興シ灯ヲ献  
 シテヨリ八八二年後ノ今日ニ至ルマテ滅セスシテ伝ハ  
 ルト称ス堂内夥多ノ灯明アリ中ニ白河法皇カ納メラレ  
 タリト称スル白河灯ハ中央ノ常夜灯ニ次テ最モ大キク  
 最モ立派ナリ晩食頃ナリシ故ニ当番ノ僧カ餉ニ就ク間  
 留守居ニ頼マレタラント想ハル、老僧ハ常灯ノ〔演説〕  
 縁起ヲ説キケルニ文句ヲ忘レテ度々中止シ自分ニモ笑  
 止ト思ヘシ〔二〕ヤ近頃此山ニ来リタレハトテ申請ヲ云

タルモ可笑シ昔ハ満堂ノ灯火燿々タリシモ今ハ油料ノ  
 費ニ堪兼ネ多クハ点セヌ由成程常夜灯白河灯ノ外右  
 側ニ僅少ノ灯明アルノミニテ堂内薄暗カリシ向テ堂ノ  
 左後ニ六角カ八角形ノ骨堂アリ案内ノ小僧ハ火ヲ点シ  
 タル線香把ヲ与ヘテ之ヲ奉レト云フ謹テ其命ヲ奉シ骨  
 堂ノ前ニ安置シ内ヲ窺ケハ〔爪〕齒髪骨累々タリ〔古〕旧  
 キ分ハ如何ニスルヤト余計ナル心配ヲスレハ時々夜中  
 ニ浚集メテ後ノ方ニ埋ムルト云フ左レト納メタル者ハ  
 銘々ノ分カ永ク此堂内ニ安置セラル、コト、信シ居ル  
 〔二〕相違ナシ浮世ハ先ツ斯ノ如キモノナリ少シ右  
 ニ大師寂滅ノ処トテ堂アリ案内ノ小僧カ線〔光〕〔香〕ヲ  
 捧ケテ拜メト云フ其言ニ從テ帽ヲ脱シ〔天ヨリ〕右ヘ  
 〔ヘト〕灯笼堂〔ノ〕〔ヲ〕週リ元ト来シ路ヲ闕リ帰ル頃  
 ハ早ヤ薄暮ニテ雲ヲ突ク大木ノ下苔蒸ス石塔ノ間ヲ歩  
 ム小僧ハ処慣レテモ流石ニ心淋シクヤ覚ヘケン語り出  
 シテ曰ク夜ノ十時幽カニ御燈明ヲ見仏法鳥ノ啼声ヲ聴  
 クトキハ実ニ寂シキモノナリト今ハ唯日暮シ〔茅蜩〕ノ  
 鳴クニ似テ其声ハ里方ノモノニ比フレハ余程清妙ナル  
 ヲ聴クノミ何ソト問ヘハ夜蟬ナリト云フ矢張茅蜩ナリ  
 ト見ユ日ノ中ハ度外レカト思フ程ノ暑サナリシニ雨氣  
 ヲ催フシタルカ為メニモヤ山中ニシテモ些ト冷カ過ク  
 ル様覺ヘタリ室ハ結構美ナラサルニ非スト雖トモ陰氣  
 ニテ湿メルカト覺フ風呂場ハ広ヤカナレト湯槽、床板  
 ト〔モ〕腐朽ニ近ク寃ヲ以テ自在ニ引來ル清水ハ唯一ノ

二五

気休メナリ料理ハ勿論精<sup>(抹消)</sup>進ニテ豆腐湯<sup>(抹消)</sup>葉<sup>(抹消)</sup>、麩ノ類種々ノ形ヲ装ヘタル所珍シト雖氏塩梅甘過キテ酒般飯菜ノ役ニ立タス食フヘキモノハ香物タケナリ高野ノ禁物多クハ尤モナレ氏犬ヲ許シ乍ラ食用タラヌ猫、猿ノ飼養ヲ禁スルノ理由解シ難シ猫ハ鼠ヲ捕食フカヲメトノ説アルトモ如何參詣人ノ外婦女ノ居住ヲ禁スルコト昔ノ如シト唱フレ氏商店ノ奥ニハ警察ノ届カヌ所モアルナラン

昨夜光徳院長覺清閑居士單昭妙月大姉両仏ノ常供養ヲ頼ミ其料トシテ金一五〇〇<sup>(朱点)</sup>差出シ置タル処今朝飯前二僧八人ニテ読経ヲ催フシ吾ヲ導キテ焼香セシメタリ真言宗ニハ四声ノ發音法幾分カ保存セラル、ニモヤ誦読ノ間何トナク□□人ヲ想出サシメタリ両親ノ戒名ハ記臆セルモ死亡ノ年月ヲ憶起サス後ヨリ報スルコト、為シタリ元來高野山ニ登ル者ハ近親ノ常供養ヲ<sup>(抹消)</sup>〔記〕<sup>(加筆)</sup>サンカ為メニセサルハ幾ント無カルヘシ吾モ之ヲ知ラストハアラネ氏見物ノ念熾ンナリシカ為メ<sup>(東京)</sup>〔東京〕<sup>(加筆)</sup>出発ノ際用意ヲ為サ、リシノミナラス昨夜給使僧ノ促カシニ依リテ成程左様テアリタト思タル次第ナリ夜來ノ雨止ミタレ氏又降り出シ<sup>(空)</sup>〔空〕<sup>(加筆)</sup>模様ナレハ滞留モ其詮アルマシ遺憾ナカラ山内ノ名所ヲ探リ尽サスシテ今日下山ト決心シ食後僧ニ導カレテ先ツ金剛峰寺ニ至ル宝物ハ觀セ兼ヌル趣キユヘ各室ヲ巡觀セルニ京都奈良辺ノ大寺ニ異ナラスシテ種々ノ点ニ於テ劣ル所アリ唯眼

二<sup>(抹消)</sup>〔止〕留マルニ講義ノ室トヤラノ由ニテ広キ板敷ノ間アリ其中央ニ床ヨリ二三尺上リタル処ヨリ築<sup>(マ)</sup>二達スル三尺四方許ノ囲アリ其用一向解スヘカラス終ニ案内者ニ問タレハ其下ニ炉アリテ寒ニ堪ヘサル老僧ヲシテ<sup>(抹消)</sup>〔其側二座セ〕<sup>(加筆)</sup>〔囲マ〕シムル<sup>(抹消)</sup>〔カ〕<sup>(加筆)</sup>〔モ〕ノナリ而シテ不審ノ目的物ハ煙突ナル由答ヘタリ吾ハ常ニ百姓家ノ炉ノ焼火ノ暖ニシテ賑ヤカナルヲ愛シ之ヲ室ニ設ケントシテ未タ曾テ適宜ノ方法ヲ案シ得リセシカ今此煙突ヲ見テ大悦ヲ極ム一見異様ニハ相違ナキモ其構造ハ室ノ粧飾ヲ害セス四辺ノ鈞合ヲ失ナハス天井ニ燻レノ痕ヲ認メサレハ煙ヲ収<sup>(抹消)</sup>〔ム〕メ出スノ用モ完キカ如シ是ハ一度試ミタキモノナリ夫ヨリ鐘樓ヲ始メ大師カ□□ニ在リテ投ケタル<sup>(抹消)</sup>〔独〕<sup>(加筆)</sup>〔三〕鈎カ遙々日本ニ飛来リテ懸リタル松其他怪相奇瑞ノ旧蹟ヲモ見聞シテ終ニ西大門ニ至ル門ハ西方登山路ノ下リ口ニ屹立シテ袂ニハ仁王ノ像ヲ藏ス此方ハ大師自身カ入山シタル道ノ由ニテ正門ノ積リナランナレ氏參詣人ノ便利ハ吾登リシ方ノ路ニ在リテ西大門ハ唯所謂門闕ヲ誇ルノミ此処眺望佳ナリト聞キシニ違ヒ樹木生長シ過シテ何ノ眺メモ無シ帰途学林側ノ坂ニテ案内僧カ時鳥ノ落シ文ナルモノヲ拾呉レタリ栗ノ<sup>(若)</sup>〔葉〕<sup>(加筆)</sup>縦ニ折ニシテ<sup>(奇麗)</sup>〔手際〕<sup>(加筆)</sup>二卷キタルモノニテ聞キ見レハ中ニハ<sup>(黄色)</sup>〔色〕<sup>(加筆)</sup>ニシテ<sup>(円)</sup>〔虫〕<sup>(加筆)</sup>ノ卵ノ如キモノ<sup>(抹消)</sup>〔筒〕<sup>(加筆)</sup>筒アリ扱十時過ル頃昨日ノ駕籠ニ乘リテ龍泉院ヲ發シ不動坂ノ下リ口ヨリ步行シテ神谷ニ達

(71)

シ又駕籠ニ乗リテ〔<sup>抹消</sup>〕河根ニ着キタルハ正午三十分モ過キタラン怪シケナル茶屋ニテ昼支度ヲ為シテ学文路ニ下ル左前面ニ吉野川ヲ隔テ〔<sup>加筆</sup>〕九度山妙寺等ノ村落ヲ眺ムレハ景色中々ニ面白シ学文路ヨリハ又人力車ニ乗リ換ヘ一時少シ前位ニ發セシカ一人曳〔<sup>朱点</sup>〕賃五〇〕ニテ三時五条ニ達セリ先ツ一時間一里ノ速度ナリ六五ニテ奈良マテノ中等切符ヲ求メ三時二十四分ニ發車シタルニ何ノ訳ニヤ途中ニテ殊ノ外長休ミヲ為シ六時頃漸ク奈良ニ着シタルカ故ニ心当ノ列車ト接続シ兼ネ空シク一時間〔<sup>加筆</sup>〕ヲ停車場ニ費ヤシ七時十分ノ列車ニテ九時京都ニ着キ空腹ヲ抱ヘテ京都ホテルヘト人力車ヲ急カセタリ

二七

水害地向中野十六地割廿七番一ノ一田一反八畝廿七歩ノ免税〔<sup>加筆</sup>〕出願〕スヘキ旨所轄本官村役場ヨリ申シ来リタリ又松尾前及鶴子ノ畑返ニ対スル地目交換願ヲ為シ度ニ付キ本官村ヘ差出スヘキ免税、地目交換願ニ要スル白紙〔<sup>抹消</sup>〕印〕委任状二通〔<sup>抹消</sup>〕松尾〕盛岡市役所ヘノ一通ヲ送ル〔<sup>朱点</sup>〕〔<sup>朱点</sup>〕武平二四日付〕

日 月

七

二二

羽場ノ小作人猿館亀吉退隱其子命助家督相続シタルニ付キ命助ヨリ改メテ小作証文差出シタ〔<sup>抹消</sup>〕〔<sup>加筆</sup>〕リ〕依テ右証文ヲ送りタリ〔<sup>朱点</sup>〕〔<sup>朱点</sup>〕武平一〇日付下田忠治持参〕

二五

兼テ着手中ノ内幸町一丁目三番地ノ事務所新築工事ハ愈落成シタルニ付ゑきハ有楽町ヨリ吾等ハ八重洲ヨリ引越シ新肴町ニ於ケルカ如ク同シ軒下ニ居ルコト、ナリタリ元来二月モ前マテニ成就セシムル約定ナリシカ兎角雨天勝ニテ建築モ〔<sup>抹消</sup>〕面白〕抄々カ〔<sup>加筆</sup>〕ラ〕ス漸ク此程竣工シタリ

三〇

真木二二〇間二九二対スル山役銭六六〇八七〔<sup>朱点</sup>〕〔<sup>朱点</sup>〕二付キ〕ノ収入アリタル処八月納地方税二〇〇〇〔<sup>朱点</sup>〕〔<sup>朱点</sup>〕三〇ノ割〕及武平月給、予備金二充一〔<sup>朱点</sup>〕〇八七都合金三二一〇八七差引残三五〇〇安田銀行送金手形ニテ送り来ル又残米五駄片馬ハ時価〔<sup>抹消</sup>〕八〕一駄ニ付キ八二二〇位ニテ売ルヘキヤト申来ル〔<sup>朱点</sup>〕〔<sup>朱点</sup>〕武平二九日付〕

三一

事務所母屋ノ工事請負金三九九四〔<sup>朱点</sup>〕四物置其他請負外工費七二二三八合計金四〇六六五二ナリ右ニ対スル火災保険ヲ明治火災保険株式会社ヘ申込ミタル処会社ハ其価格ヲ二〇〇〇ト見積リ明三一年七月三一日午後四時マテ一ヶ年ノ保険左ノ証文ヲ与ヘタリ  
第參七六〇八号

火災保険証書

被保険者 菊池武夫殿

一 保険金參千円也

一 保険料毎一个月五拾壹円也

一 被保険物東京市麴町区内幸町一丁目參番地所在

一 木造石盤葺住宅四十七坪三合一勺

内二階建四十一坪

外木造亜鉛葺物置二坪共

右被保険物ノ所有者牛込区市ケ谷砂土原町一丁目二番地菊池武夫殿当会社ト火災保険ノ契約ヲ締ヒ前記ノ保  
險金三千円ニ対シ明治三十年七月三十一日ヨリ明治三  
十一年七月三十一日ニ至ル期間ノ火災保険料トシテ金  
五拾壹円也ヲ当会社〔抹消〕ニ払込ミタルヲ以テ当会社ハ  
此証書裏面ノ約条ニ依リ右被保険物ノ火災ヲ保険スル  
モノ也

明治三十一年七月三十一日

明治火災保険株式会社

取締役 阿部泰蔵 印

支配人 原 欽吾 印

三 日 月 八

一駄<sup>(朱点)</sup>八二五ノ割ニテ残米五駄片馬四五三七五ニ売  
払其内四五〇〇安田銀行送金手形ニテ送り来ル近頃  
冷気勝ニテ汗拭様ノコトナキ由<sup>(朱点)</sup>〔武平二日付〕

九 日 月 九

昨夜半ヨリ西南ノ暴風〔加筆〕雨ト共ニ吹出シ漸次西ニ廻  
リ今朝七時頃ニ至リテ熄ム奥ノ新築二階建ハ所ニヨリ

(73)

荒壁塗りタルモアル位ノ程度又土蔵屋根ニハ亜鉛板ヲ  
載セアリタルニ其版処々ニ飛落チ飛舞〔抹消〕〔加筆〕騒々シ  
クモ亦危険ナリシ荒壁皆吹落サレタルハ勿論葺立ノ瓦  
家根モ処々損<sup>(朱点)</sup>シ座敷ノ雨戸ノ表ニハ細カニ振チ断ラ  
レタル木葉一面ニ附着シ容易ニ拭取ルヘクモアラス植  
替ノ庭樹什レタルモノ多ク随分凄マシキ有様ナリシ朝  
五時過キ雨ノ小晴ヲ窺ヒ庭ニ下リ立チタレハ夫ノ木葉  
切カ顔ニ当リ痛ミヲ覚ヘタリ六時大工共馳来リテ南面  
ヨリ二階ヘ支柱ヲ突張りタルカ丁度其〔抹消〕風ハ西ニ廻  
リ新築ノ横〔抹消〕背ヨリ吹付クル勢実ニ烈シク家ハギウ  
〔ト〕ト鳴リ仆レヌマテ〔抹消〕〔加筆〕或ハ傾キキモヤセント  
恐レ居タルニ左ハナカリシ大工等ハ〔加筆〕風ノ来ルコト〕今  
〔抹消〕〔加筆〕〔少シ日付〕〔数日〕早カリセハ多分吹倒サレタルナラン  
ト云ヘリ又近所ノ植木屋ハ物識顔ニ語リテ曰フ富士下  
風トテ西ヨリ吹出〔抹消〕〔加筆〕〔ト〕ル風ハ最モ恐ルヘキモノ  
南風カ西ニ廻レハ必ス息ム〔抹消〕〔加筆〕〔ト〕ノナリト蓋シ事実  
ナルヘシ

国許本宅土蔵家根修覆用亜鉛板七七枚代価六六九二  
五盛岡迄ノ運賃三〇八都合七〇〇〇五ニテ下シ置タ  
ル処今般愈葺替済ミタル由第一期地一六〇〇余本宅  
物置小屋家根杉皮葺費一五〇〇〇鶴子ノ小作人佐藤福  
太郎持馬買入代金ノ内貸与ノ分一〇〇〇〇及ヒ予備金  
若干回送方申シ来ルニ付キ五〇〇〇安田銀行送金手  
形ニテ遣ハス 新庄村持山へ炭竈五区相付ケ真木剪二

一八

人登山ノ由(朱書ママ)〔武八日付〕

昨二九年度収納米仕訳左ノ通申シ来ル

小作宛米 仕付米返入(朱書)〔年賦貸〕 差引現納 小作人

三七駄一斗六升 片馬(朱書)〔駄片馬〕 三六駄一斗六升 藤村助次郎

三八片馬一斗二升一合 一駄片馬(朱書)〔駄〕 三八片一斗二升一合 佐藤金太郎

一〇片一斗四升七合 片馬(朱書)〔駄片馬〕 九片一斗四升七合(朱書)〔同〕 福太郎(朱書)〔佐々木〕

三三片馬 一駄(朱書)〔駄〕 三三片馬 浅沼大吉

二二片九升三合 一駄(朱書)〔駄片馬〕 二〇片馬九升三合 猿籠龜吉

一五片馬 片馬(朱書)〔駄片馬〕 一三片馬 福嶋栄助

一二片馬 片馬(朱書)〔駄〕 一二片馬 同 清藏

二七片馬 片馬(朱書)〔駄片馬〕 二六片馬 猿籠政之助

五片馬 一駄(朱書)〔駄〕 五片馬 上村喜藏

一〇片馬一斗 一〇片馬一斗 中村仁助

三五五 三五五升 佐藤治太郎

二〇片馬一斗三升一合六駄(朱書)〔八駄〕 四駄片馬一斗九升三合(朱書)〔同〕

外ニ蕎麦 一駄 佐藤治太郎

出ノ部

〔採消〕  
〔売米〕

一八六駄片馬 売米

七片馬 仕付米貸

二片馬 小作人家根替手当

片馬 歳暮

二斗三升一合 鼠喰減米分足シ

合計一九六駄二斗三升一合(朱書)

外ニ蕎麦一駄 武平へ歳暮

去ル九日ノ暴風雨ニテ助次郎二反歩余福太郎分少々

水害ノ由(朱書ママ)〔武一七日付〕

日 月

一〇

二 五月ヨリ九月マテノ国許収支明詳調書来ル(朱書)〔武一日付〕

二四

去九月九日ノ大風雨二六日ノ出水降霜ノ為メ平均二三  
三分ノ減作ト見分セラレ殊ニ浅岸喜藏作ノ田ハ中津川  
ノ溢山水ヨリノ押水ニテ三反七畝余ノ中一反歩許リハ  
青毛立ニ収穫皆無ノ趣

山本縁居住七七番戸ノ土蔵家屋売却ノ積ナリシ二一兩  
年間其俣借住シ度願出ノ由

先般小作証面ト登記面ト畝歩相違ノ分尋ネ置タル処小  
作証ノ方誤リナル由其个所在ノ如シ

下飯岡一九地割二〇番字橋本一反〇二七歩

羽場 一二片六一〇〇仲田六片三畝一四〇

一三片四三〇〇新田一〇五片一八〇

外墓地六歩

向中野一六地割ノ二七番字鶴子田四畝二九歩同二九歩  
合五畝二〇歩ハ過般日本鉄道株式会社へ売渡シニ付キ  
助次郎小作米ノ中片馬二合輕減ノコトニ取極メタル由

(朱書ママ)〔武二三日付〕(一一一ノ部参観)



二六

(75)

実ニ歳月ハ流ル、カ如ク早ヤ今日ハ瑤樹院三回忌ニ相当スルニ付キ母ヲ始メ笹貞濱香一郎操薫ト共二十時半普提所駒込吉祥寺ニ於テ法要ヲ営ミ染井ノ墓所ニ詣テ、十二時半帰宅シ夕刻柏井登父子真鍋波富田ヒサ本宿数代豊川ヨシ信岡雄四郎新井要太郎吉川義質太神花来会ス那珂通世上遠クマ齊藤キク竹原タメハ不参々モ啓磨脚氣ノ気味ナルカ故ニ来兼ネタリ穂積銀片山国喜夫人高木鏖山田龍ヘハ菓子折ヲ贈ル料理ハいろは菓子ハ風月堂ナリ鶴ハ風邪ノ気味ニテ峰介抱シタルカ為メ寺及墓ヘハ参ラス

日月

一一

一

助次郎小作米輕減ノ勘定ハ左ノ如シ

(朱書) (一〇ノ二四ノ部見合)

九地割ニ一番田ニ反三畝ニ歩一六ノ二七ノ二田ニ反三畝ニ六歩同二七ノ一田四畝一六歩合計五反一畝一(採刈)加筆(五)歩 此坪一五四四 小作米四駄片馬五升七合 此石三石三斗八升七合 一坪二合一勺九余 五畝二〇歩即チ一七〇坪ニ乗シ 三斗七升二合ト為ル

穀付入ノ節太儀料從來(採刈)一駄一錢ノ処物価騰貴ニ付キ二錢ニ増ス(朱書) (武一〇ノ三一)日付

一 松尾前畑返ノ収獲ハ荊數一五〇束昨年開立ノ分ハ一束ニ付キ粃四升五合本年分ハ三升三合五勺平均三升九

一八

合二勺五才此粃石六石一斗一升一合折半シテ三石五升右ヲ五合五勺挽トシテ勘算スレハ蔵米二駄二斗收入アルヘキ筈ナリ 異作ニ付キ引米ハ鶴子ノ方水害モアレトモ重モニ助次郎作ノ分ナル故一割五分飯岡ハ一割五分乃至二割ノ見込ノ由(朱書・ママ) (武一〇)日付

一八

浅岸村土木費四〇三二五四ヲ田ニ反歩ニ付キ(朱書) 八畑宅山林原野一反歩(朱書) 〇〇三二四三ノ割合ニテ徴収ノ議決内務省ノ認可ヲ得タル由此方ノ負担高ハ二三七七四ナルニ付キ下シ方申来ル(朱書・ママ) (武一七)日付

二三

鶴子ハ一割引ニテ承諾尤モ金太郎ヘ一駄福太郎ヘ一駄片馬昨年度貸付ノ分ハ明年マテ延期ヲ許シ今年分小作米ノ内金太郎ヘ一駄片馬福太郎ヘ片馬明秋マテ貸付タリ 松尾前ノ小作米二駄二斗収納済 從來兩鍬頭(助次郎、大吉)ヘ(朱書) 〇〇宛 忠治ヘ(朱書) 〇〇三太ヘ(朱書) 〇〇歳暮ノ手当ヲ為シタルニ諸色高直ニ付キ鍬頭ヘ(朱書) 〇五〇宛忠治ヘ(朱書) 〇〇三太ヘ(朱書) 〇〇増給シ又小作米早納賞与金ハ一等(朱書) 〇五〇ノ処(朱書) 〇七〇ト改メ二等(朱書) 〇〇下リニ定メ度申来承諾ノ趣答フ

(76)

八六番戸瓦家根ハ葺方手拔多ク殊ニ棟瓦ノ処甚ク疎略ナレハ少々位修繕スルモ無益ノ見込ナルニ付キ破壊ノ分ノミ取換来春総テ繋キ直ス由(朱書・ママ) (武一二)日付

小作証文ヘ中稲ヨリ晚キ稲葉ハ決シテ仕付申間數旨ノ文言ヲ加ヘサセ度ニ付キ仙台出張ノ序ニ帰国セハ小作証持参ヲ望ムト申来ル(朱書) (同前)

二七

妻ミネ死胎<sup>(ヲ)</sup>分娩ス翌日染井墓地瑤樹院碑ノ側ニ  
 葬ル此程来介抱シ居タル水野ノ母ハ嘸カシ落胆セシナ  
 ラン吾ハ最早子ノ殖ルヲ欲セス異腹ノ子<sup>(アル)</sup>ハ動モ  
 スレハ後難ノ種ト為ルカ故ニ悦フトニハアラネ<sup>(ト)</sup>悔シ  
 ト思ハス

日月

一二

(80)

一 八日市場ニ赴カントテ午後本所錦糸堀ナル総武鐵道  
 会社ノ停車場ヲ發シ夕刻佐倉ニ着ケレハ東京法学院々  
 友白鳥太一出迎居リ直チニ導キテ旅館ニ至ル看板ニハ  
 千葉県印幡郡佐倉新町郡役所前米屋新六郎<sup>(ト)</sup>アリ<sup>(加筆)</sup>実  
 ノ名ハ辻正ナル由佐倉ハ曾遊ノ地ナリ去ル明治十九年  
<sup>(頃)</sup>ニテモアリシカ<sup>(加筆)</sup>十一月三十日<sup>(加筆)</sup>歳暮ノ休暇ニ成田  
 山詣ヲ企テ藤田隆三郎、松野貞一郎、馬場愿次<sup>(迄)</sup>同道ニ  
 テ両国橋誥メ馬車屋ニ至リシ二年末ノコト、テ定時發  
 ノ赤馬車ハ前便ヲ以テ最終ト為セル由ナレハ臨時車モ  
 カナト尋ネタレハ鴻ノ台下市川マテナラハ便アラント  
 云フ然ラハトテ<sup>(乘)</sup>備タルニ車輛極メテ穢ラシク馬極  
 メテ瘦セタルモノ現ハレ出タリ左レトモ無キ<sup>(二)</sup>ハ優  
 ルトヲ打乘リ行キタルニ市川ニ交代ノ馬車ナカリシカ  
 ハ強テ船橋駅マテ進マシメタリ船橋ニテ洪々準備セラ  
 レタル馬場<sup>(ハ)</sup>見苦ルシサ今迄ノモノニ愈増サリ  
 テ馬車トハ称シ得クモアランカ馬車トシテ使用スルハ

(81)

大胆至極ト云フヘキ代物ナリ<sup>(然レ)</sup>吾等トテ命ノ掛  
 替アルニハ非ネトモ馬<sup>(屋)</sup>屋<sup>(車)</sup>屋<sup>(胆)</sup>力ニ負クルモ  
 口惜シケレハ乘リタルニ進行ノ遲緩ナルコト宏量ヲ以  
 テ予期シタル所ニ及ハサルヤ遠<sup>(ク)</sup>ニ<sup>(キ)</sup>ノミナラス夜  
 ニ入りテ風愈寒キ頃淋シキ長嶺メキタル所ニテ馬仆レ  
 タリ吾等ハ死シタラント思ヒノ外<sup>(馬)</sup>凍リタル路ニ  
 足ヲ滑ラシタル<sup>(次第)</sup>由ニテ臆テ再ヒ起チタリ起チタ  
 リトハ雖<sup>(ト)</sup>其後ハ慘酷ナル御者モ流石ニ惻<sup>(マ)</sup>心ヲ發  
 シタリト見ヘ鞭ヲ用ヌコト、ナリタレハ馬ノ歩ミ如何  
 様ナリシカハ<sup>(云フ)</sup>者野暮ナリ斯クテ佐倉町ニ  
 達シタルハ夜九時過キ十時ニ近カリシナラン其折宿リ  
 シ家ノ名ハ何ト云タルニヤ覺ヘネトモ良キ旅館ニ泊リ  
 シト<sup>(マ)</sup>記臆セシカハ今宵ノ宿リ快カラント心窃カニ樂ミ  
 シ甲斐モ情ナヤ建家ハ広ヤカナレ<sup>(ト)</sup>戸障子襖疊トモ総  
 テ旧ルク且破レタル个所モアリ幾ント不潔ナリ殊ニ新  
 兵入<sup>(マ)</sup>管ノ期節トヤラニテ徵兵ト之ヲ送ル父兄其他ノ親  
 族等ト多勢入込居タレハ風呂ハ迎モ入ルヘクモアラス  
 数ナラヌ下女カ不時ニ増シタル来客ニ当ラレヌコト勿  
 論ナレハ頼<sup>(シ)</sup>用ハ疾クニ便セス白鳥ト対シテ僅カニ  
 軍鶏鍋ニテ晩食ヲ為セリ佐倉ハ下総中有數ノ城市ニテ  
 今ハ第一師団分營ノ在ル処ナレハ斯クマテトハ思ハサ  
 リシニ先年ノ記憶ト痛ク反スル実況ナルハ場処ノ衰微  
 シタルニ因ルカ將タ吾カ<sup>(マ)</sup>ハ斯程増長シタル  
 ニヤ

信濃国松本ニ赴カントテ朝八時四五分上野発ノ列車ニ乗リ高崎ニテ乗替ヘ横川マテハ何事モ無<sup>(二)</sup>ク走リタル処同駅ヲ発シ山坂ヲ少シ上リタル頃俄カニ列車ノ進行止ミタルニ付キ何事カト乗客一同気遣タルニ瀧鐵破レタリト云フ然ラハ早速引戻ルヘシト思ノ外登リ得<sup>(加筆)</sup>ハ勿論例ノアプト式役ニ立ネハ降ルコトモ難渋ナリ齒止メナシニ下ル訳柄ナレハ横川ヲ通り越シ何処ニテ運転止マルヤ分ラス依リ<sup>(テ)</sup>向フヨリ来ルヘキ上リ列車ヲ待合ハセソレニ導カレテ横川ニ下リ瀧鐵車ヲ取替ヘテ更ニ碓氷峠ヲ登ルヨリ外ニ安全ノ策ナキ趣列車附ノ役員等ハ申シ合ヘリ丁度晩食頃上田町ヘ着クヘキ列車ナルニ今ハ早ヤ今夜ノ中ニ着クカ着カヌカ得テ知ラレヌ仕合ト為リ一同悄然タリシカ無聊ノ極乗客ハ豪胆ト為リ頻リニ横川ヘ送行ノコトヲ役員ニ迫リ遂ニ其志ヲ遂ケタリ横川ニ歸リテ見レハ機関車モ思ノ外早ク入替リ今度ハ恙ナク峠ヲ越ヘ小諸辺ヨリ雪ヲ路傍ニ見テ夜八時過上田<sup>(町)</sup>海野町上村屋半左衛門方ニ着ク県知事様杯ノ入ル部屋ナリト云フ最上室ニ案内セラル奥座敷ニハ相違ナキモ障子襖ノ立附悪シク隣室トノ堺ニハ透カシ欄間<sup>(加筆)</sup>アリテ互ノ談話ハ手ニ取ルカ如ク聞ユ総シテ此寒天ニハ余リ聖マシカラヌ程ニ室内ノ空氣疏通セリ唯寒国ノ風トテ室内ニ炉ヲ切り炬燵槽ヲ据付ケアルカ故ニ之ニ倚レハ寒暖ノ差引ハ相応ニ附クナリ便所ハ中庭ヲ隔テ向フノ離レ座敷ノ側ニ在リ庭下駄ヲ穿

(77)

六

テ通フ趣向ナレハ<sup>(二)</sup>冬夜ニハ諸人成タケ我慢スルナルヘシ併シ風呂場ハ案内ニ洒落タリ例ニ依テゴム引革ノ長靴ヲ穿キ来リタレ<sup>(天)</sup>雨雪ノ折ニハ余程ノ距離間ヲ歩マナハ成ラヌ趣聞込タルカ故ニ紺足袋一足買求メ<sup>(テ)</sup>寝且十里<sup>(示)</sup>許ノ松本マテ二人曳往復ノ賃金ヲハ一〇〇〇ト相談ヲ整ヘテ寝ニ就ケリ

朝五時頃寢床ヲ這出テ見レハ盥嗽場ハ吹晒ラシノ椽側ニ在リ朝風身ニ感スレ<sup>(テ)</sup>奮フテ冷水拭肌ノ<sup>(式)</sup>式ヲ了リ催促ヲ重ネタル末漸ク飯ヲ食ヒ七時過上村屋ヲ発ス千曲川ニ掛渡シタル<sup>(長)</sup>四桁ノ釣橋ヲ踰ヘテ行先ハ当世流行ノ新道ニテ四里許ノ間直キコト<sup>(二)</sup>髮ノ如<sup>(キ)</sup>足ニ感セヌ程ノ爪先登リニテ先ツ平担ナレ<sup>(并)</sup>並樹モナク剩サヘ処々ニ此モ当世風ノ路普請<sup>(乃)</sup>乃チノ跡歴然タリ乃チ礫ヤ煉瓦<sup>(二)</sup>ノ碎片ヲ路上ニ置キ去リ後ノ事ハ通行人馬ノ勝手ニ<sup>(シ)</sup>ト云フ<sup>(七)</sup>ト云フ<sup>(三)</sup>實ニ難有キ修路方ナリ車上ニ座シテ此ノ如キ場所ヲ通ルトキハ身体ノ動揺<sup>(モ)</sup>尋常ナラス車ノ進ミハ遅ク車夫等ノ難苦モ想遣<sup>(ラ)</sup>ラレトシテ不愉快ナラサルハ無シ退屈極マル直道ハ漸ク尽クル頃車夫ハ此道ヲ捨テ左ノ路ヲ取ル旧道ナリト云フ新道ハ勾配緩カナレ<sup>(路)</sup>路程遠ク且荷馬車ノ通行ニテ著ルシク傷ミクレ<sup>(レ)</sup>遠カラ<sup>(ス)</sup>スシテ篠ノ井線ト称スル鉄道松本ニ達スヘキヲ予想シ<sup>(ハ)</sup>一切修復<sup>(ヲ)</sup>費<sup>(ノ)</sup>予算ヲ議セサレハ今ハ悪シト謂ハンヨリ<sup>(ム)</sup>寧口危険ト称スヘキ个所多キカ故

二数年来曾テ修繕セ<sup>(抹消)</sup>又<sup>(加筆)</sup>サルモ<sup>(加筆)</sup>又峯岨ナル<sup>(加筆)</sup>旧道  
 ノ方優レリトハ車夫等ノ説ク所ナリ<sup>(抹消)</sup>松本<sup>(抹消)</sup>上田ヨリ四  
 里半ノ処ニ奈良本ト云フ宿アリ九時過ニ着ケリ此処ハ  
 有名ナル保福寺峠ノ麓ニテ増人夫一人ヲ雇ヒ二里八丁  
 登リ絶頂ノ西内村ニ休ム左ニ浅間嶽ヲ眺メ右ヲ見レハ  
 山間ノ開ケタル処アリ佐久郡ナリト云フ四辺靜ニシテ  
 高山ニ登リタル心地セラル夫ヨリ峯坂ヲ下リテ錦部村  
 アリ之ヲ過テ川端ニ出ツ<sup>(抹消)</sup>昨<sup>(加筆)</sup>年ノ洪水ニテ道路破  
 壊セリトヤラニテ純然タル川原ヲ通ル爾モ普請シタル  
 道路ニ勝ルカ如シ荊谷原ト云フ宿ノ<sup>(加筆)</sup>角屋<sup>(加筆)</sup>ニテ昼食ヲ  
 為ス十二時半ナリシ尤モ上村屋ノ注意ニテ飯タケ持參  
 シタルハ此等ノ宿駅ニハ米飯ノ用意ナキコト俣アルカ  
 故ナリ飯ハ冷ヘタリ何ソ温キ汁ニテモナキヤト問ヘハ  
 口ニ適フヘキ物トテハナキモ油揚豆腐ヲ煮タルアリト  
 云フ夫レ然ルヘシト注文スレハ主ノ妻ハ何時ノ頃ヨリ  
 煮置キタルニヤ頗フル時代メキタル揚汁ニ醤油ニテモ  
 アルカ穢ラシキ德利ヨリ流動体ヲ足シ加ヘ柴折<sup>(抹消)</sup>熏<sup>(抹消)</sup>  
 ヘテ聽テ持出タルヲ見レハ椀<sup>(抹消)</sup>ハ如何ニモムサク<sup>(加筆)</sup>  
 毛箸<sup>(加筆)</sup>モ曾テ一度ハ適當ニ<sup>(抹消)</sup>春慶塗ト称セラレシ  
 時代アリシヤ疑ナシト雖<sup>(抹消)</sup>今斯ク云ハ、言詞濫用ノ責  
 免レ難キ有様ニ<sup>(抹消)</sup>シテ大抵ノ事ニ無頓着ナル吾サハ些  
 ト気力引ケタリ温キ菜ニテ飯ヲ食フヤ否ヤノ問題ノミ  
 杯云フ目ノ子流義計リテモ過サレス苦シイ時ノ神頼ミ  
 トヤラニテ斯ル折ニハ平生余所ノ<sup>(抹消)</sup>シクスル哲学風ノ

考ヲ借ルノ要アリ<sup>(抹消)</sup>此<sup>(加筆)</sup>椀<sup>(加筆)</sup>箸<sup>(加筆)</sup>ノ剝ケタルハ猶ホ覆ハサ  
 ルカ如シ器<sup>(抹消)</sup>ノ為メニ<sup>(加筆)</sup>盛リタル食物トハ別ナ<sup>(抹消)</sup>ル<sup>(抹消)</sup>  
 此椀<sup>(加筆)</sup>箸<sup>(加筆)</sup>ニテ此汁ヲ<sup>(抹消)</sup>吸<sup>(抹消)</sup>タル<sup>(加筆)</sup>ハ吾ヲ始メ  
 トスルニモ非サルヘシ現ニ吾車夫等モ同シ吸物ヲ食  
 ツ、アリアダム鋤キイブ紡キシ時ニハ豈紳士アラン  
 ヤ人類同等杯ノ高尚ナル思想ニ驅ラレテ嘗メシタル  
 油<sup>(加筆)</sup>揚汁ノ温サ味ノ佳サ哲学モ何モ入ルモノニ非サル  
 ナリ角屋ヲ出レハ直クニ坂道ト為ル即チ荊谷原峠ナリ  
 右ヲ顧ミレハ北越境ノ戴雪諸峻嶺崑崙トシテ聳ヘ附近  
 ノ<sup>(抹消)</sup>山嶽起伏ノ状ヲ<sup>(抹消)</sup>瞰<sup>(抹消)</sup>レハ吾身ノ高処ニ在ルヲ  
 覺フルト同時ニ信濃ハ実ニ山国ナリトノ感触愈深<sup>(抹消)</sup>夕<sup>(抹消)</sup>  
 シ或人曾テ愛蘭<sup>(加筆)</sup>土<sup>(加筆)</sup>国ハ山多ク平地少ナキヲ<sup>(抹消)</sup>嘲<sup>(抹消)</sup>リ  
 タルニ愛蘭土人聞キモ敢ヘス答ヘテ曰ク此国ニハ土地  
 余リ多クアルカ故ニ疊ミ置クノミトテ大ニ自慢ノ鼻ヲ  
 蠢セリトノ談アリ信濃ハ土地ノ過多ナルニ困シ其始末  
 ニ骨ヲ折リタルヤ甚タ分明ナリ峠ノ向フ側ハ頗フル峻  
 坂<sup>(抹消)</sup>シキ坂ナルニ車夫等ハヒタ走りニ走り下ル職業柄  
 疎忽ハ有マシトハ思ヘ<sup>(抹消)</sup>車<sup>(抹消)</sup>上ノ人力危険ノ恨ヲ為スコ  
 ト一方ナラス下リ切テ街道ヨリ左ニ<sup>(加筆)</sup>細道ヲ伝テ  
 浅間村目ノ湯ト云フ温泉宿ニ着タルハ三時少シ前ナリ  
 シ浅間ヨリ松本マテ十四町許リナル由浅間ニハ大小温  
 泉宿四十軒許リアル由ニテ龜ノ湯日ノ出湯杯孰レモ屋  
 号ヲ何ノ湯ト云フ吾宿ノ湯ハ特ニ眼病ニ効アリトノ意  
 味ナルヘシ車夫ハ上等ノ客ナルコトヲ密告シタルモノ

(79)

ト見へ名前ノ前触ナキ到着ニモ拘ハラヌ又例ノ通り古洋服ニフランネル、シヤツノ身形ナルニモ拘ハラヌ奥二階ノ一等室ニ案内セラレタリ床ノ間モアリ広ヤカ(抹消)ナル(加筆)向キモ悪シカラス過日鳩山様カ御這入ナリマシタトノ講釈付ノ部屋ナレトモ敷タル堺段通ハ過去幾年間ノ塵埃ヲ蓄タルニヤ此寒天ニサへ臭ハン計リ加フルニ襖一重ノ(ア)部屋アリテ酒呑客ノ来遊ニ充ラルヘキ部屋アルカ故ニ一等ナラストモ(ア)鄰ノ無キ室ア(抹消)ルヤ(加筆)ト云ヘハ又一層奥マリタル部屋ニ誘ハレタリ此室ノ畳モ余リ淨ラカナラネ(ア)離レ座敷ニテ幸ニ堺段通ナク程好キ所ニ炉カ切りテアレハ先ツ此処ヲ座処ト選定シ窃カニ閑静ナル場所ヲ得タリト悦ビ居タルニ何ソ料ラン其真下ノ部屋ハ抱芸妓四五人ノ留リナラントハ生憎浮レ男カ一人モ来ヌト見得皆打揃フテ三絃ノ稽古俗謡ノ復習ヲ始メタリ稽古絃歌程面白カラヌノミナラス喧シク煩ハシキモノハ多ク有ルマシキニ夜ノ十時頃マテ継続セラレタ(抹消)ルハ彼ノ堺段通ノ上ニ座ヲ占メサリシヲ大ニ悔(抹消)ル(加筆)タリ浴場ハ広大ナレ(加筆)氏戸障子(加筆)不足若クハ柱トノ違和(抹消)若クハ不足ニ因リ寒風ノ(抹消)流通至テ宜シク湯槽ヲ出シハ速カニ(抹消)寒サヲ感スルノ有様ナリ温泉ハ冷泉ト齊シク寛ニテ引キタルカ故ニ其調合ニ依リ熱クモ微温クモ自由自在ナリ(中略)御料局名古屋支庁ノ派遣吏入来シ夜半近クマテ話シテ去レリ

(80)

七

八

(81) (抹消)七(加筆)九(加筆)

長野地方裁判所松本支部ニ於ケル用事果タルニハアラネトモ一段落付タレハ急キ目ノ湯ニ戻リテ(抹消)昼餉ヲ了ヘ昨日来リタル人力車ニテ十二時半頃出發シタリ道モ来リシ時ト異ナラス唯山坡ノ登リハ此度ノ方難義ナルノミ荊谷峠ト保福寺峠トノ麗ニテ増人夫一人ヲ傭ヒ車ノ後押ヲ為サシメタルニ(抹消)前(加筆)其夫賃前ノ(抹消)方(加筆)ハ〇二〇後ノ分ハ〇六〇ニテ保福寺峠ノ峻悪ナルコト自カラ知ラル此峻阪ノ彼方ノ麓ナル奈良本ニ至レハ五時過クル頃ナリシカ暫時休憩ノ後提灯ヲ燈シテ例ノ積ノ如ク又髪ノ如キ道ヲ寒キ夜風ニ吹カレツ、七時半頃上田町上村屋ニ帰着シタリ

浅間温泉宿ニハ心モ足モ繋クヘキ特色ナシトハ云ヘ忽卒ノ間ニ之ヲ辞シ去リ夜ヲ侵シテ上田ニ帰リタルハ今日前橋ニ用事アレハナリ依テ朝七時半上田ヲ發シ(加筆)此度ハ碓氷嶺モ無異ニ越シ(抹消)高崎(抹消)ヨリ(加筆)ニテ乗換ヘ一時過キ前橋ニ着キ直チニ裁判所ニ駈付ケタリ夜ニ入テ漸ク用事了リ料理店嬉野ニテ今日同席シタル同業者等ト与ニ晚餐ヲ為シ旅人宿白井屋ニ一泊セリ

小作米ハ去ル五日マテニ一五六駄余内糶(朱点)一五蕎麦一附入相成タル趣助次郎皆済 金次郎三駄年賦借(抹消)福太郎一駄同 喜藏一割五分引 仁助皆済 治太郎同右ノ外下飯岡羽場ノ連中ハ一割五分引トシ極難澁ノ者ヘハ五分位年賦貸ノコトニ説諭中ノ趣

枡ハ従来ノ一斗五升一升二代フルニ一斗枡七升枡ヲ以

テスレハ三斗七升入俵ノ量リ立ニ便利ナリ又上口ハ從來ノ二斗入ニテハ口径狭過クルニ付キ三斗七升入ニ改メ度旨申来リ同意シタリ(朱書、マメ)  
(武六日付)

一六

本年ハ炭竈四箇取設ケタルニ其中一箇焼終リタル趣ニテ(朱書)一四九〇又山王畑代三〇〇〇三太ヨリ收入(抹消)  
(加筆)アリタル由

国許ノ歳暮ハ左ノ通配付済

糯半俵、蕎麦一駄、一五〇〇(小作取立骨折ニ付、特ニ五〇〇増給)(朱書)

小豆四升

武平(同姓)(朱書)

同四升六合余

遠畑クラ(自分乳母)(朱書)

同

戸田マサ(多キ同)(朱書)

小豆四升ツ、

横濱幾慶  
嶋田善躬

同 三升

山本縁

(82)

右ノ外助次郎、大吉へ一名(朱書)一五〇三太へ(朱書)一三〇〇(加筆)  
下田忠治へ二〇〇〇遣ハス筈(武二五日)(朱書、マメ)

二四

収納米ノ仕訳左ノ如ク報告シ来ル

一 蔵米三六駄片馬一斗六升(鉄道会社譲地分片馬減)

藤村助次郎

(中括弧朱書以下同様)

内 畑宅地分(此分引)一駄片馬(米セス)

田 三五駄一斗六升

此一割引

三駄片馬一斗六(抹消)升(加筆)合

差引残三三駄一斗四升四合

収納スヘキ分

現收入三四駄一斗四升四合

(片馬ハ福太郎使用分ノ仕付米返納)  
(片馬ハ畑返新田分増納)

(83)

一 三八駄片馬一斗二升一合 佐藤金太郎

内 四駄片馬一斗四升 畑宅分

三三〇〇〇三〇五〇一合 田分 此一割引  
三駄二斗九升四合

三五〇〇 一〇九〇七合 差引残 収納スヘキ分

三三〇〇〇一〇〇〇〇〇〇(二駄片馬仕付米返納)

現収納

三〇〇

二〇年賦貸

一 一〇〇 一〇四〇七〇 佐々木福太郎

内 一〇〇 二〇六〇五〇 畑宅分

八〇〇片馬 二〇五〇二〇 田分 此一割引  
片馬二斗八升四合

九〇〇 二〇三〇三〇 差引分 収納スヘキ分

八〇〇 (昨秋貸米一駄片馬延期)  
(本年分ヨリ一駄延借出願) 現納米

一 三三〇片馬

内 一〇〇 畑宅分

三二〇〇〇 田分 此一割五分引  
四駄片馬二斗七升七合五勺

二八〇〇〇〇九〇二〇五勺 収納スヘキ分

二八〇〇〇〇 (一駄仕付米返納)  
(一駄延借出願) 現収納

一 二一〇〇〇〇〇九〇三〇(本年二月買入地方片馬)

増 猿館命助

内 小豆五〇 宅分

二一〇〇〇〇九〇三〇 田分 此一割五分引  
三駄一斗八升

一八〇〇〇二斗八升三合 収納スヘキ分 猿館命助

一七〇〇〇〇〇〇〇 (一駄片馬仕付米返納)  
(一駄延借出願) 現収納

一 一五〇片馬 福嶋栄助

内 小豆一〇 宅分 此一割五分引二駄二斗四升

一五〇片馬 田分

一三〇 一〇三〇 収納スヘキ分

一三〇 〇 (一駄仕付米返納 一駄仕付米トシテ借出願) 現収納

一 一二〇〇 福嶋清蔵

内 一〇 畑宅分 此一割五分引  
一〇〇 田分 一駄片馬一斗六升六合五勺

一〇〇〇 二〇〇〇 三〇五勺 収納スヘキ分

一〇〇 (畑宅ノ引米一斗二升余永年貸片馬延借)

現収納

一 一二七〇 猿館政之助

内 二〇 畑宅分 此一割五分引  
二五〇 田分 三駄片馬一斗八升五合

二三〇 一同八升五合 収納スヘキ分

二二〇 (一駄片馬仕付米返納 五〇延借出願)

現収納

一 〇〇 片馬蕎麦一駄 佐藤治太郎

五〇 此一割五分引片馬半俵上村喜蔵

四〇半俵 現収納

一 一二〇〇二斗 現収納 中野仁助

合計

一七二〇半俵余

内 餅米片馬給与 蕎麦一駄

(朱線) 一七〇〇半俵余 現在高

下飯岡浅沼庄左衛門へ明治十六年二五〇〇(朱点)貸同十九年五月延滞利押疊二八五〇(朱点)貸付置タル処二五〇〇(朱点)ニテ勘弁シ抵当ノ旧公証取消シ呉度申込タル由ナレ氏不承知ノ旨答タリ(武書マ之) (武二三三日)